

〔共同研究〕

『仙芥集』翻刻④

中世東国仏教研究会

はじめに

『仙芥集』は、中世鎌倉の地で精力的な受法活動を行った真言僧定仙（一二三三～一三〇二）の受法記録を集成したものである。その写本は管見の限り国宝称名寺聖教（神奈川県立金沢文庫管理）にのみ伝存しており、目録上で全三十二部（二三函一―一―三三）という大部のテキスト群である。当研究会ではその写本を底本として翻刻を行っている。

一昨年度までの中間報告で二三函一―一―九までの翻刻を終えており、昨年度および本年度ではその続きである一〇～二〇までの十一冊分の翻刻を完了した。

本年度の研究會参加メンバーは、大八木隆祥（代表）、山口史恭、中保之、坂本眞観、牛久智充、新井弘賢、青木亮敬、野々部利生である。

最後に、保管資料である国宝称名寺聖教『仙芥集』の翻刻・掲載をご許可くださいました神奈川県立金沢文庫ご当局、ならびに多々ご助言を賜りました同文庫前学芸課長西岡芳文氏に感謝申し上げます。

解題

今回翻刻したテキストは二三函一一〇～二〇の十一本である。その書誌データ（『称名寺聖教目録』による）と共に内容を概説する。

① 二三函一一〇

〔外題〕 仙芥集 〔角書〕（表紙右上） 廿三帖内（表紙中央） 三宝院／意教上人／御口傳等

〔本文残存状態〕 完全 〔装丁〕 綴葉 〔紙数〕 九紙一八丁 〔料紙〕 楮紙

〔法量〕 一四・六／二二・二 〔行格〕 一〇行／三行 〔手沢者名〕（表紙左下） 鋸阿（梵字）

〔保存状態〕 修理済 〔識語〕 なし

三宝院流の意教上人頼賢（二一九六～二二七四）の口伝を記したものである。頼賢は成賢の資であり、後にその法脈は意教流と称されるようになる。内容は多岐にわたっている。今見出しを挙げれば次の通りである。

字輪観三種事、本尊加持三処事、字輪観梵字誰所説事、散念誦時必誦仏眼真言事、

振鈴以後通諸尊結誦、本尊印言事、□成就二種事、□教上人伝法秘密乃至□□印事、

伝法灌頂有二種事、二根交合成大仏事、□供養法次第事、灌頂以後不受事等見事、

現智身見智身印言時移□□事、十八道以前授尊法様、歡喜天印事、胎蔵界遍智院事、

灌頂時移阿闍梨位事、拍掌ノ両界中ニ有処数事、加持句真言功能事

識語が無いため伝授に係る状況は不明であるが、「有人云上人仰云」という記述がたびたびあり、定仙が

頼賢より直接受法したのではなく、頼賢の伝を伝える人師より受法したものと考えられる。定仙は頼賢の弟子、願行上人憲静（?—一二九五）から受法していたことが一三函一—一八の奥書により明らかであるので、憲静より受けたものである可能性がある。なお本冊は上部に欠損があり判読不能な字が多々ある。このため内容を明確に把握することは甚だ困難である。

② 一三函一—一

〔外題〕 仙芥集 〔角書〕（表紙中央） 三寶院／親玄僧正等／御口傳へ〜 〔本文残存状態〕 完全

〔装丁〕 綴葉 〔紙数〕 二〇紙四〇丁 〔料紙〕 楮紙 〔法量〕 一四・六／二一・三

〔行格〕 九行〜二行 〔手沢者名〕（表紙左下） 釧阿（梵字） 〔保存状態〕 修理済

〔識語〕 此口傳等者皆當流明德口傳也、一事無誤、仍為後代口実先師仙公和尚所記録也、不可他見者也、

予抄書彼草中、為當流之親決、嘉元第三千二月廿八日記之、智照（云々）

本冊は道教方の親玄（一二四九〜一三三二）を始め、了一上人公然（生没不詳）、意教上人頼賢の資願行房憲静、憲深方の覚雅（生没不詳）等、三寶院流諸師の口伝を記したものである。その内容は三寶院流の聖教・重宝等を収めたとされる「台皮籠」^{ダイノカワゴ}の由来や収納品について、また唯授一人大事や宗大事等いわば法流の奥義にあたる印信類についての口伝である。

なお、奥書には「先師仙公和尚所記録也」とあり、また「予抄書彼草中、為當流之親決、嘉元第三千十二月廿八日記之、智照」とあることから、定仙の弟子である智照（生没不詳）が定仙の受法記録からテーマに沿って諸師の口伝を抄出し嘉元三年（一三〇五）に記したものであることがわかる。また、

『仙芥集』というテキスト群自体が、智照によって名付けられ集成されたものである可能性もここで指摘しておきたい。

③ 二三函一―一二二

- 〔外題〕 仙芥集 〔角書〕（表紙中央） 三宝院／親玄僧正／御口傳△△ 〔本文残存状態〕 完全
〔装丁〕 綴葉 〔紙数〕 一六紙三二丁 〔料紙〕 楮紙 〔法量〕 一四・五／二一・三
〔行格〕 九行く一一行 〔手沢者名〕（表紙右下） 鈿阿（梵字） 〔保存状態〕 修理済
〔識語〕（三十一丁表） 永仁五年九月二十二日記之、定仙

表紙の記述からわかる通り本冊も親玄を始め三宝院流諸師の口伝を記したものである。三宝院の名の由来や、諸尊法、後七日や大元法・八千枚護摩等の大法・秘法類の聖教の伝来や内容についての口決、また前冊同様「台皮籠」についても記されている。識語は三十一丁表に「永仁五年（二二九七）九月二十二日記之、定仙」とある。

④ 二三函一―一三三

- 〔外題〕 仙芥集 〔角書〕（表紙中央） 後七日雜日記／付勸修寺日記／抄之 （表紙中央右） 四卷内
〔本文残存状態〕 完全 〔装丁〕 綴葉 〔紙数〕 一一紙三二丁 〔料紙〕 楮紙
〔法量〕 一四・六／二三・〇 〔行格〕 八行く一三行 〔手沢者名〕（表紙右下） 鈿阿（梵字）
〔保存状態〕 修理済 〔識語〕 正應五年三月廿六日書了、以了上人口傳記之、定濟僧正參後七日事、三ヶ

度年三度伴僧也、仍委存子細御入、然間以彼口傳記之也云々、定仙滿六十

本冊は勸修寺流の後七日御修法の日記について、了一上人公然の口伝を記したものである。公然に受法したのがいつのことかは不明であるが、奥書によれば正応五年（二九二）に記したものであることがわかる。表紙には「四巻内」とあるが、これは後七日御修法について記したものの四巻の内の一つであると思われる。

⑤ 一三函一—一四

〔外題〕 仙芥集 〔角書〕（表紙中央）後七日／西酉／并師傳（表紙右下）四巻内（表紙右）両日記注文
〔本文残存状態〕 完全 〔装丁〕 綴葉 〔紙数〕 八紙一六丁 〔料紙〕 楮紙
〔法量〕 一四・四／二一・三 〔行格〕 九／一二行 〔手沢者名〕（表紙右下）釵阿（梵字）
〔保存状態〕 修理済 〔識語〕（二丁裏）正應五年四月五日記之了、定仙（六丁裏）正應五年四月五日記之了、定仙（奥）正應五年三月卅日記之了、定仙滿六十六云々

前冊同様、後七日御修法についての口伝を記したものである。表紙に「四巻内」とあることから、本冊が前冊と一具のものであることがわかる。本冊は醍醐の伝を記したもので、「了一上人云」と頻繁に記されていることから、これも了一上人公然の口伝を記したものである。識語は三箇所に見られいずれも記述した日がしるされているが、前二つは同じ日付であり、最後の日付は前二つを遡るものとなっている。これは定仙自身が記録したものを後に智照が編集する際に意図的に前後を入れ替えたものと考えられる。

⑥ 一三函一—一五

〔外題〕 仙芥集 〔角書〕 (表紙中央) 後七日私抄／付西西勸修寺記之／太元法少々記之 (初在之) (表紙中央右) 四卷之内 〔本文残存状態〕 完全 〔書写者〕 釧阿 (筆跡推定) 〔装丁〕 綴葉 (一綴、横半帳)
 〔紙数〕 一一紙二二丁 〔料紙〕 楮紙 〔法量〕 一四・六／三二・九 〔行格〕 九〇三行
 〔加點等〕 合点・訓点あり 〔保存状態〕 修理済 〔識語〕 (二才) 正応五年二月廿五日記之定仙

これも前々冊・前冊同様、後七日御修法についての口伝を記したものである。また表紙に「四卷之内」とあることから、本冊が前々冊・前冊と一具のものであることがわかる。本冊は後七日御修法について醍醐と勸修寺の伝を記したものであるが、二丁表の識語には筆記年月日が記されているのみで誰の伝を記したものは不明である。ただしこの識語の後は本文中に「了上人云」「了上人説」「了上人云」といった記述が頻出し、全体として了上人公然の口伝を記したものである可能性が高い。

⑦ 一三函一—一六

〔外題〕 仙芥集 (勸修寺) 五秘密 〔角書〕 (表紙裏) 五秘密法私抄 (表紙中央) 五秘密 (表紙左外題下) 五之内 〔本文残存状態〕 完全 〔書写者〕 釧阿 〔装丁〕 綴葉 (一綴、横半帳) 〔紙数〕 六紙二二丁
 〔料紙〕 楮紙 〔法量〕 一四・六／三二・二 〔行格〕 一一〇三行
 〔手沢者名〕 釧阿 (梵字) (表紙右下) 〔加點等〕 合点・訓点 〔保存状態〕 修理済

識語が無いため筆記に係る状況は不明である。勸修寺流相伝のある五秘密法次第について、同流の諸尊法集や他流の諸尊法集収載の五秘密法次第との比較・検討が行われている。本文中にも特に誰の伝かは記されていない。定仙自身が授法の次第について研究したものか。

ちなみに表紙外題下に「勸修寺／五之内」とあるように、本冊は勸修寺流諸尊法に関する五冊一具の内の一冊である。他の四冊については、一三函一―一七「太元明王」、一三函一―一八「求聞持法口傳」、一三函一―一九「金剛夜叉／烏芻沙摩（以下略）」の三冊が該当するが、もう一冊は不明である。

⑧ 一三函一―一七

- 〔外題〕 □□□ (仙芥集) (勸修寺) 〔角書〕 (表紙中央) 太元明王／諸尊法／□ (十) 七卷抄記之 (表紙左外題下) 五之内 (表紙裏) 太元明王 (勸修寺付諸尊法并十七卷抄記之) 〔本文残存状態〕 完全
- 〔書写者〕 釵阿 〔装丁〕 綴葉 (二綴、横半帳) 〔紙数〕 八紙一六丁 〔料紙〕 楮紙
- 〔法量〕 一四・七／二一・八 〔行格〕 一一〓一三行 〔手沢者名〕 釵阿 (梵字) (表紙右下)
- 〔加点点等〕 合点・訓点あり、壇挿図あり 〔保存状態〕 修理済

本冊も識語が無いため筆記に係る状況は不明である。勸修寺流諸尊法について記した五冊の内の一つ。同流相伝の太元法についての口決が記された貴重な書であるが、上辺から左辺にかけては本文に及ぶ欠損があり判読不能である。

本文中「私云」という記述が頻出するが、これは定仙の見解を記したものであろうか。なお「定仙云」という記述も一箇所ある。

勸修寺流の太元法の口決ではあるが「太政法印云」として醍醐寺座主・地藏院親玄（二二四九—一三三二）の伝も記されている。

⑨ 二三函一—一八

- 〔外題〕 仙芥集（勸修寺） 〔角書〕（表紙中央） 求聞持法口傳（表紙左外題下） 五之内
〔本文残存状態〕 完全 〔書写者〕 釧阿 〔装丁〕 綴葉（二綴・横半帳） 〔紙数〕 一〇紙二〇丁
〔料紙〕 楮紙 〔法量〕 一四・六／二二・一 〔行格〕 一一～一三行
〔手沢者名〕 釧阿（梵字）（表紙右下） 〔加點等〕 合点・訓点あり、挿図あり
〔保存状態〕 修理済 〔識語〕（二四オ） 正応二年十二月比於願行上人奉受之畢 定仙（二五オ） 正応二年十二月十八日記之 定仙

勸修寺流諸尊法について記した五冊の内の一つで、同流相伝の求聞持法の口伝を記したものである。識語によれば正応二年（二二八九）十二月に願行上人憲静から受法したものである。願行上人は意教流の祖である。教上人頼賢の弟子で、自らも意教流願行方の祖として有名であるが、実はいくつもの法流を相承しており、その中には阿性上人覚宗から相承した勸修寺流榮然方もある。よって本冊に記された口伝も勸修寺流榮然方のものと考えられる。

⑩ 二三函一—一九

- 〔外題〕 仙芥集（勸修寺） 〔角書〕（表紙中央） 金剛夜叉／烏芻沙摩／正観音／七星如意輪／不空罽索／

白衣／二臂如意輪／耶輸多羅法／准胝（表紙左外題下）五之内（本文残存状態）完全

〔書写者〕 鋞阿（〔装丁〕綴葉（二綴、横半帳））〔紙数〕 九紙一八丁（〔料紙〕楮紙）

〔法量〕 一四・六／二二・四（〔行格〕 一一～一三行）〔手沢者名〕 鋞阿（梵字）（表紙右下）

〔加点点等〕 合点・訓点あり（〔保存状態〕 修理済）

識語が無いため筆記に係る状況は不明である。勸修寺流諸尊法について記した五冊の内の一つ。同流相伝の金剛夜叉法・烏芻沙摩法・正観音法・七星如意輪法・不空羅索法・白衣法・二臂如意輪法・耶輸多羅法・准胝法についての口決が記されている。

本文を見ても誰の伝を記したのか判然としないが、「私云」という記述が頻出する。定仙が受法した勸修寺流諸方の伝をまとめたものか。

⑪ 一三函一―一〇

〔外題〕 仙芥集 後七日記（〔角書〕（表紙中央）後七日記（勸修寺／付此筆者宝慶記之）（表紙中央下）四卷

抄（〔本文残存状態〕 完全（〔書写者〕 鋞阿（筆跡推定））〔装丁〕 綴葉（二綴、横半帳））

〔紙数〕 八紙一六丁（〔料紙〕 楮紙（〔法量〕 一四・七／三二・八））〔行格〕 一一～一五行

〔加点点等〕 合点・訓点あり（〔保存状態〕 修理済）

〔識語〕（二三才）正応五年四月廿二日奉対了上人記之也 定仙満六十（奥）同廿四日了上人説記之了定

仙御判

本冊は勸修寺流の後七日御修法の日記（記録）についての口決を記したものであり、「四巻抄」とあることから、一三函一―一三「後七日雑日記 付勸修寺日記抄之」、同一四「後七日醍醐並師伝 両日記注文」、同一五「後七日私抄 付醍醐勸修寺記之／太元法少々記之」とともに後七日御修法に関する一具の書であったと考えられる。巻中識語に「奉対了上人記之也」、奥書に「以了上人説記之了」とあるので本冊も他の三本と同様了一上人公然の口伝を記したものである。この四本を識語に記された受法・筆記年月日によって時系列順に並べれば以下の通りである。

正応五年（一二九二）

- | | |
|--------|----------------------------|
| 二月二十五日 | 一五「後七日私抄 付醍醐勸修寺記之／太元法少々記之」 |
| 三月二十六日 | 一三「後七日雑日記 付勸修寺日記抄之」 |
| 三月三十日 | 一四「後七日醍醐並師伝 両日記注文」奥書 |
| 四月五日 | 一四「後七日醍醐並師伝 両日記注文」巻中識語 |
| 四月二十二日 | 二〇「後七日記 勸修寺／付此筆者宝慶記之」 |

【参考文献】

『称名寺聖教目録』全三巻、文化庁文化財部美術学芸課（二〇〇六年）

『仙芥集』翻刻

〔凡例〕

- 一、原則として新字に統一して翻刻する。
- 一、合字は新字による一般的表記に改める。漢数字の略字についても同様である。
- 一、繰り返し記号について、漢字は「々」、仮名は「々」に統一する。
- 一、梵字はローマナイズして記す。
- 一、脱字の挿入箇所に記載された小さい丸は○で表記する。その傍に記載されている挿入する文字については、○の下の（ ）中に記す。
- 一、文字の接続を示す「―」は略す。
- 一、送り仮名に用いる略字・合字は読み通りの表記に改める。(例) シテ、トモ、コト
- 一、声点は、声点が付く文字の後に四声名を（ ）で括る。濁音の場合は四声名の後に「濁」と記す。例…
平声の場合↓(平)、上声の濁音の場合↓(上濁)
- 一、欠損等により判読できない文字は、想定される字数分□を代入する。

①【十三函一一〇】

〔表紙〕

ken a (鈔阿)

意教上人

三寶院

御口伝等

□芥集

〔表紙裏〕

(空白)

〔本文〕

三寶院意教上人口伝等

√字輪觀三種事

√本尊加持三處事未有之

√字輪觀梵字誰所說事

有人私料簡也

√散念誦時必誦仏眼真言事

√振鈴以後通諸尊結誦

□尊印言事

□成就二種事

□教上人伝法秘密乃至

□□印事

√伝法灌頂有二種事

√二根交合成大仏事

√□供養法次第事

□頂以後不受事等見事

√□智身見智身印言時移

□□事

√十八道以前授尊法樣

√歡喜天印事

√胎藏界遍智院事

√灌頂時移阿闍梨位事

一才

拍掌ノ両界中ニ有処数事

√加持句真言功能事難云

√字輪觀事

有人云伝聞有平円豎

円団円ノ三ノ義一平円者

鏡ヲノケサマニヨケルカ如ク

平ニ觀月輪一也初心

授之豎円者タテサマニ

□月輪一也如懸鏡一胸

□タテサマニ觀之一也授之初心

団円者玉ヲケルカ如ク

胸間タニマロニ觀月輪一也

√付置字一有觀心随方ノ

ニ義一觀心者何レノ方ヘモ向

以向方ヲ一為東方ト中ニa

□東方ニ vani 字其後ハ

□置ク字一也東方ニ始テ修

□□ニ義也發心修行

菩提涅槃義也

一ウ

随方者先付増益一向ハ

東一中ニa 字前ヘヲキ

vani 字右ニ rani 字如此順ニ

メクル也次付調伏一向ハ

南一中ニa 字右ニ vani 字

其後ハ順ニヲク也次付

敬愛一向ハ西一中ニa 字

後 vani 字左ニ rani 字其ノ

後順也次付息災向ハ

北一中ニa 字右ニ vani 字

後 rani 字其後順ニメクル也

□ハ必東ニ始メ北ニヲウヘキ

□如此亦必順ニメクルヘキ

□付団円一布字スル時□

□ハ順ニテ而中也余字

チトツク心臍ニサカリテ可住一也ト云

字□□梵字誰所說耶

尋□字輪ノ時心月輪ノ上ノ

□ハ大日所說ノ陀羅尼

二ウ

三ウ

□將本有天然ノ自性

□羅尼歟有人云此ハ

不受師伝一真実ニハ不知之

也雖爾一私ニ一義ヲ推テ申サハ

梵字ヲハ一ニハ梵王所説ト云也

梵王ハ受仏所説一云

二ニハ釈迦所説三ニハ大日

所説釈迦自不説之一大

日ノ説ヲ聞説之然間大日

所説也実ニハ大日モ自不

説之一三世常住ノ字説ト

也ト悉曇ニ申也若爾ハ本

有ノ字ヲ觀スレトモ而大日

所説ノ梵字ナルヘシ五ニハ不

離一也唯一体故ニ云

□云実此義貴云

□念誦時必誦仏眼真言事

□人云上人仰云鴉鳥

入水一害ス一切魚鮮ヲ一

三ウ

□角入水一返助之一云

□金輪行者一切ノ法ノ

□□□□□鴉鳥一誦

仏眼真言一不被取之一

如犀角一然間法ノ功能

□□取ラレシカ為ニ誦仏眼

□□誦ハ金輪一我身金輪ノ

行者タル由也ト云

又云仏眼ノ法ノ散念誦ニハ

別ニ不誦仏眼真言一也

此法為仏眼一故ニハツレサル

也ト云

有人云上人ノ仰トテ人ノ申サレ

シハ母ニ物ヲアツケタルハ不シテ

失一子息ニ与フ仏眼ニ

ツラヘタテマツルハ不シテ失一行

者ニ与ル也至菩提一不失之一

誦金輪者我身為ル金

輪行者一故ニ我法ヲ金輪ニ

四オ

四ウ

ハツレサル也下云私云両義

何レモ可背歟 勸修寺ニハ別

□口伝一云

□人云字輪觀ノ後ニ大日

加持此時結誦次仏眼

加持シテヤカテ散念誦スル也

□□勸修寺ニハ散念誦

□結誦仏眼印言一次

結誦大日印言一此時尽

契印等一也 次本尊結テ

□其後誦仏眼大日

□尊ノ真言一也

振鈴以後通諸尊法三十

七尊印言一有ニ義付十八道等

一用羯磨会印言二用三

摩耶会印言三結三摩

耶会印誦羯磨会言也

此外有秘極結五古印

誦ユキ経ノ序品ノ三十七尊ノ

一字ノ真言一也 又五古印ニ

以三十七尊真言一布スル事

アリ別日記在之

妙成就有二事

√有人云二階堂説云妙拳

土印ハ三部妙成就、ユキ

経ノ序品ノ五古印ニ誦ハ yam

□五部ノ妙成就也ト云

□教上人伝法秘密灌

頂授有入事

私云□伝法灌頂

五古印五字明 塔印開

歸命 yam 見大僧正御房
印信如此云 其

□秘密灌頂 塔印開

□智五 a 其後歴

□序越前国最後授

第三重 塔印開 a 等

私云法印御房御流ニ少モ不違云

伝法灌頂有二事

五才

六才

五ウ

有人云上人仰云元泉石山^二

奉受^一秘密灌頂以此^一

為甚秘伝法灌頂^一寬弘^三

所受灌頂以此為淺略

伝法灌頂寬弘^ノ所授印

明^モ本有醍醐雖爾[□]作

法者寬弘^ノ流也石山^ノ内

供所^ヲ授^一當時^ハ称秘密

灌頂^云

√二根交合成大仏事々

□□云理趣経得^テ自性清

□段文^一也觀音也^不二^一大

日現觀音^一也五古印^ヲ□

メテ蓮花^ノ形^ニ結^フ也明 a

vi ra hūn Khanḥ hriḥ^ハ

血脈

○寬位^{了心定仙}兵部御法印 惠靜

有人云上人之仰^{ニハ}人^ニ為^{ニハ}不

□^{シメ}惡見^一印^ノトキ文也^ト云

□有甚深不可思議

義^一□伝在別

六ウ

√供養法作次第事

道場觀事

hriḥ 字蓮花種子、ah字

樓閣種子 a 字月輪種子也

召請事

通用^{ニハ}用大鉤召印言^一別^{シテ}

用^{ニハ}三部^一金界^ノ内三部^ノ印

言也仏部^{ニハ}結仏部^ノ印^一誦

仏部^ノ真言^一加噫醯噫咽^ノ

句^一也

蓮花部印言加句同爾也

金剛部印言加句同爾也

部主事

□□トカイテ下^ニ何^ノ尊^{トモ}不[□]

□□散念誦下^ノ念誦中^ニ

□主^{ツラチタリ}列^一見之^一上^ノ部主^ヲ此尊^ト

得意^一也^{甚深口伝}

七ウ

√撥遣事

通用^{ニハ} om ハサラホキシヤホ

ク句也用^テ金剛部言^一加

撥遣別^テ用^{ニハ}三部^一仏部^{ニハ}

□爾(平濁) ナウシキヤホキシヤ

□□ト誦^テ花^ヲ中指ハサンテ

投之^一也蓮花部^{ニハ} om ハン

トマノ句加撥遣句^一 投花

金剛部^{ニハ} om ハサラノ句^ニ加句

如前羯磨部宝部撰

上三部^一也 云護摩之ノ時ハ

三部ノ印^ヲ各用也^一以十八

道為本次第^ト一作之^一也 ト云

一々^ニ上人ノ仰也 ト云

√伝法灌頂後見不受事爾事

有人云上人仰云伝法灌頂秘

密灌頂阿闍梨位^ヲ受後

我身為大阿闍梨^一見^テ儀軌

本經等^{ヲモ}一印明等^ヲ可結誦

八才

不審ノ処^ヲ可問^一也 ト云 仍他

□□来奉尋^一時^モ如此答^テ

□□ウ也我^カ門弟等^ハ事□

□□口伝等カワル故^ニ一々□

□^{シム}之^ニ分明^ニ見[□]雖不伝授^一

不可有越三昧耶罪也 ト云

√現智身見智身時秘口伝

上人仰云現智身時前觀

本尊^一見智身印○(明加事)以二頭指^一

□之^一也本尊入我身^一遍

□□我身^ニ也 ト云

□□自行時必結之^一□人

□時^ハ不^ス教之^一 云

√十八道後授法事

要尊少々授之^一何^{トモ}不^ト扱

秘印等ノアルヲハ不授^一也

上人ノ御様也

√歡喜天印事

付薄双紙^一朱付三処アリ

九才

与鹿文^一□也但鹿文チト

不審アルヲハ分明ニシラシメン

タメニ朱^ニ注^ニ之^一也初二^ハ付

朱^一第三^ハ不付朱^一依鹿文

用^一□伝也上人仰云女天

者懸袈裟為權天也^{ト云}

√胎藏界遍智院事

有人云胎藏界、中台^ハ八葉

□其次^ニ一切仏心虚空眼明

□□切菩薩、此^ニハ仏眼也是^ラ

□遍智院^一一切諸尊母□

女形仏也

トカノヲノ上人ノ時現シ給ヘル仏眼^モ

□□仏也□定□意教上人ノ

仰□此等ノ女形男形等^ハ非^ス常^ニ

男女二根^一也且為表定惠^一現

男女形質^一也^{ト云}

√□尊加持事

□三処^一一入我々入前二入

九ウ

我々入正念誦^ト後也三宇

輪觀後胎藏三処一入我

々入前二入我々入後三正

念誦字輪觀後^云

√馱都次第^モ三処也灌頂

時授阿闍梨位印言^一

金界深也^云

√拍掌事

金剛界拍掌五度也

一初^メノ甲冑結冑時一度舞

儀在之

二金剛拍時舞儀無之

三前供養時四智讚^ニ一度

此ノ四智讚^ニ如成一文ヲ分テ一々^ニ

アテ^ハ印^ト言^トヲ誦^テ結誦

□□也広沢^ニハ不爾^一^云

□云勸修寺^モ文ヲ置^テ唯

□伝用金剛掌^一也

四後鈴^{類次第}在之式略之^一

十ウ

次ニ四智讚拍掌舞儀在之

□□界後甲冑結膏ノ

次ニ拍掌舞儀在之

胎藏界拍掌一度也本

□□次不動尊□□□

□□中間振鈴也

其時四智讚在之一其時

拍掌唯一度云舞儀在之一

√加持句事

儀軌中云說救世加持一令メテ

法眼道ヲ遍セ一切処久住セシ上メム

天台次第ニモ引此文一也

√五相成身如来身会事

有人云五相成身ハ釈迦成道

儀式也守護經、撰真言(マ)

經、金剛頂經等如此一如来

身会亦釈迦也釈迦相好也

仍五相成身ト如来身会トハ

同シ物也ト云私云広

十一才

沢以 on 字一供香花等二三

□□院如何、有人等云

□□院爾也各々皆□

又大事ノ香ノ香花供

養ノ印ニ以 on 字一供スル徳ヲ

□タリト云引テ□ルニ爾也

√胎藏印□不審

無量声仏頂印一虚合

二風絞マト火背云火字

□□也可大字一大日経□□

□□ヲ二風絞空背一文法全ハ

依大日経作儀軌一延命院

依法全胎軌一作胎藏次第一

也亦胎軌ニモ火字ナリ即其モ損

タル也儀軌ハ仏說儀軌(金輪軌也)

菩薩軌人師軌三儀軌也

青龍軌人師軌也依大日

経一依之一然間本経ハ空字

也明知青龍軌可大字一後

十二才

十二ウ

損^テ火ノ字也 火背^{ニハ}絞^ウ義無之

唯著^{ケム}也 又非商法印^一

方々ヒカ事也 次ノ於火中

節^一文此火^ハ如^シ本經^一仍

意教上人尤爾^{トテ}少々本^ヲ

ナヲシタリ 又如前商法相^一

□此文儀軌ノマ^ニカキウ

□也儀軌^{ニハ}商法印在如

□身会^一々々々々儀軌^{□□}

□故儀軌指^ス初^ヲ也延命

□次第^ハ違^テ儀軌^ニ取^テ如

来身会[□]置^下也 然間今

如儀軌力キウツ□□次第前^ニ

無商法印^一也 仍前後^ハト

□カクモアレ如商法印^一可

□^一絞大背^ニ者以^二中^一

□^一大上^一也 空捻於火中

節^一者^二空ノサキ^ニ火ノ中節^ニ

アタル也 サテ商法印^{ニハ}ル

十三才

也次ノ口伝^{ニハ}阿伽印^ト文

仍用口伝^一付阿伽印^一也不

用商法印^云

經說並儀軌^ハ用商法印^一口

伝^ハ用阿伽^一也^云

√作礼方便印事

偈^ハ金合次至真言^一先^ハ

如麁文^一次^ニ出異本^一云

印相左拳安腰^一舒右掌

按地^一文付之^一有不審^一此^ハ作

礼^ノ印^{ナリ}可金剛持遍礼印^一

仍真言^モ少々^ハ異^{ナレトモ}多分^ハ

偏礼^ノ真言^也広沢ノ胎^ノ次

□大師ノ^{hum}字次第^{ニハ}九

□便印無^シ不空夢^ニ□

□喜多院御室^一非^ス次第[□]

持遍礼ノ印也 手形ノ次第

爾也 今延命院許用触

地印^一如何答[□]此不審^一

十三ウ

十四才

披青龍軌一作礼方便真

□印持地印ト又不出印

□灑淨ノ下持地真言ト

□印ト亦不出印相一

地藏院ノ持地菩薩ノ下無持地ノ

注一又印無シ披大師 hūm 字

次第一灑淨ノ次持地ノ下注シテ

云一惠舒テ按地一延命院大

政○(綱歌)ハ依トモ青龍軌ニ無ラハ印相ノ

用 hūm 字次第等ニ歟仍依

hūm 字次第一灑淨ノ次持地ニハ

用触地印一也地藏院ノ持地ノ印ニハ

hūm 字次第ニハ金剛部印ト文

仍延命院ノ次第ニハ依 hūm 字

次第ニ持地菩薩ノ印ニモ用 hūm

字次第一也然ニ作礼方便ノ印ノ

処ニ青龍ノ儀軌ニ持地ト文

仍灑淨ノ次持地ノ印 hūm 字ノ

次第用触地印一故ニ作礼

十四ウ

方便ノ持地タル触地ノ印ト得意一

□誤歟 青龍ノ軌持地ト

□指ナル地藏院ノ持地印ノ

□サテコソ礼ノ義ニハアタレト

□醍醐ノ頸次第ニハ依金剛持

遍礼ノ印ニ也又頸次第ニハ

灑淨ノ次持地ニモ用金剛

持遍礼印也私ニ云明 hūm

字ノ頸次第出触地印一出

金剛持遍礼ノ印一難得意ニ云

□部字輪觀

□先阿 sa va ト読テ次

ka kha ga 等ノ字ヲトムベシ

第一 a sa va ト引声之引声誦
先商声也

次ニ可読 ka kha ga gha 等一

第三 am sam van ト読テ kam kham

gam gham 等ノ字ヲトムベシ

第四 ah sah vah ト読テ次可

読 kah khah gah gha 等ノ字ヲ唯

十五オ

四度也雖可_ト住十二度_一

十五ウ

醍醐_ニ略_テ用四度_一也勸修

寺_ハ不爾_一用十二_ト也醍醐_モ

可十二度_{ナル}一雖爾_一略_テ如此

四度_ニツムル也_云仍_テ頸次

第○(三) a sa va トカイテ出 ka

ka 等_一也得意_ニ可見_一也_云

忿怒拳事

□□_{ニハ}以頭指_一押大指甲_一

三宝院

□降三世印、サヤムニテ

御口伝_一

□不被結_一也天台_ノ依_ニ末

釈_ニ云忿怒拳_ト者牙印

仙芥集

□_云然間常喜院印

十六オ

□_ニ出_□ニ忿怒拳_ヲ用_テ天

〔表紙裏〕

台_ノ人_ノ言_一用牙印_一也爾_{レハ}

(空白)

□_ク義アヒカナウト_云

(空白)

〔本文〕

一校了

十六ウ

台皮籠事

大政僧正御房台皮

②【十三函一—一】

〔表紙〕

ken a (鈎阿)

籠日記定仙^二令見之^一
給也

台皮籠事

二合ノ目錄二卷也

一合 孔雀經法代々日記

合具書^一三十余卷也

是範俊等相伝也

仁王經法代々次第

具書等合三十

余卷也亦是範俊

等相伝也

後七日請雨經代々

具書等三十余卷

以之也 兩大法 秘法

具書皆三十余卷

如法尊勝 如法愛染^ハ

定海作也

(空白)

一合ノ目錄^{二ハ}

一才

大師御筆 北野天神御筆

天神所持ノ大般若行基

自筆、金聖天銀ノ聖天

義範ノ雲加持ノ五古

御舍利等 是等ノ大事ノ

日記也 此^ラ名^ク重宝、

皮籠^下

又大事ノ書等在此中^一

仁海已下日記等在之

良雅ノ皮籠ノ中ノ書

等在此中^二云 大元

許也 其外無之

以此等秘書等^一勝覺

与定海^一々々讓^二元海^一

仍惣日記在之後

日印之者是也為

後代^一清書本^二

元海記之^一草案本^{二ハ}

無之

一ウ

二才

台皮籠事

(一行空白)

勝覺僧正ノ皮籠ハ二合

了一上人云勝覺皮籠

何レノ門徒ニ有ラ耶

二ウ

二合ヲ居台ニ持住反

覺雅法印云中書ノ本

故云爾也其中聖教

二合清書ノ本ニ合在

不定也

大要ノ物入之

之勝賢マテハ並ヘテ伝之

諸ノ儀軌等也勝賢已

勝賢以中書ノ本一讓

後ハ白表紙等モ入之也

實繼法印一實繼ノ聖

妙抄玄秘抄薄双紙

教ハ憲深僧正伝之

大法秘法等皆入之也云

憲深聖教与実深

親玄云本二合也四

々々聖教覺雅伝之

合ニ作之薄双紙等

然間其ノ中書ノ二合ハ

入之角洞院(ツツ)遍知院

在リ覺雅カ許ニ

三才

光宝等ノ記マテ入之也

勝賢僧正以清書本一

又云勝覺不授理性

讓成賢僧正々々々々

三密皮籠申台

与道教一々々讓親快

皮籠二合是也一合ハ

法印親快讓親玄

重宝等入之一合ハ大

僧都一仍正本ハ在親

法秘法次第並具

玄僧都許ニ也

書等入之一入アマリアテ高キ

四才

三ウ

也付弟^{ニモ}以此本^一不

授^一唯以別本^ヲ授之^一

具書等不授之^一唯

最後近付与^之置^テ

不出移^一仍無二本^一嫡々

唯一人受^之也直^ニ受

皮籠也皮籠大^{ナル}

故^ニ成賢僧正時コトカケ

又物共^ヲ取出^テ我^カ薄

双紙等^ヲ副^テ二合^ニ入

之与本^ニ合^一具^{シテ}四

合也成賢与道教^ニ

々々^与親快々々授親

玄^一皆最後也

√親快法印醍醐離寺

時四五日先立^テ醍醐^ハ

軍可有由聞^{ユル}間親

玄中納言阿闍梨慶^{ケイ}

伊^イ上総法橋三人^{シテ}台

皮籠^ニ合^一大法時ノ道

具^{大ニテ}護摩壇大壇^ニ具^一
也タリノ修法少ニ護摩一具也

灌頂ノ時ノ道具代々ノウ

横皮等ノ物一々大事

聖教等皆シタ^リメテ

ヲタキノ修行^カ蔵^ハアツ

ケタリヲタキニハ中ノ御

門大納言カヨウ宿所

等^{ヨリ}以其縁^一修行^カ

蔵^ヲ借ル也一々^ニ取置

之^一桂^ハ隨身ノ物ハ小台ノ

皮籠^ト成賢僧正

小^キ皮籠^ニ合^ニ薄双

紙等入^テ隨身^{シテ}アルカシ

キ言^ト又少々聖教^{アリ}

此等^ヲ隨身^{シキ}親快入滅ノ

後土御門ノ大納言定

実^サ両方^ヲ聞^ムトテ無左右^一

親玄^{ニモ}不与親玄申^テ

四ウ

五才

五ウ

院宣一右畢又仍一卷モ

実証(マヤ)法印ノ方ハ不被

取一後ニ中ノ御門ノ大納言

具房トモ親親玄也其教訓ニ

依テ聖教ハ実証(マヤ)ニハカシテ

カハセタリ桂ハ被移一時

聖教ラハシタリメテヲタキ

置ニ建治二年五月

中甸ニ移ル々テ後經十

日許一死又五月二十六日

也又実証(マヤ)ニハ二部有ラハ

部トラセタリ非本書也

√親快最後時キ土御門大納

言定実ニ聖教ラアツケ

ヲク親玄法印ニトラセヨト

云 台皮籠ニ合其外一合アリ

√覺雅法印云親快法

印已前ニ内々台皮

籠ラ与親玄僧都一畢又

六才

内ノ物ラ皆与テ皮籠ニナニ

トモ無キ書共ラ取入テ

病所ニ隨身ス実証(マヤ)法

印後論シ之一申公家

御使一開テ之分タントス開テ見ルニ

都大事物無シ真言ノ

大事ラモ内々前ニ授

親玄畢云

了一上人云実証(マヤ)親玄

僧都兩人共ニ親快弟

子也大事ト院家トハ讓

親玄一也云

台皮籠数如何

√親玄仰云本ニ合也

成賢僧正取分ケテ之

作リ出スニ合薄双紙等

具之四合

親快法印別ニ四合作

出ス私聖教等入之ラ

七才

七ウ

已上八合 親玄隨身シテ

下向スト云 親玄ハ

親快法印ノ翠髮ヨリ

弟子也 仍親快授

親玄ニ云 親快小野

灌頂ヲハ 按察法印ニ受之

内々淨尊マツ 覽行ノ ヲホ

ヘアリ故ニ 隨別人一 遂

之也云

親快法印ハ 仁和寺ノ理

智院ニ住シテ 遂灌頂道

教僧都病床ニシテ 呼テ 之一

授醍醐ノ唯授一人大

事一 雖為他門已灌

頂一 故也 道教僧都於ハ

広沢一 親快法印已

灌頂也 故ニ 最後ニ 以唯授

一人大事一 親快法印ニ 授

也 自余授法等ハ 淨尊

中納言律師ニ申付也

淨尊ハ 遍知院ノ弟子

也 醍醐ノミサク キニ住也

延喜ノミサク キ醍醐ニ在リ

台ノ皮籠ニ 合白表紙等モ

皆淨尊ニ申付テ 令伝

親快一 淨尊此時流布

白表紙等一 也 淨尊内々

乱行ノヲホヘアリ是故ニ 小

野灌頂ヲハ 隨深賢法印一

受之後亦隨憲深

僧正一 遂灌頂一 親快心

スコシキ不一 准一 人也 明

日可キニテ 遂灌頂一 往テ 深賢法

印許隨憲深遂灌頂

由ヲ 申ス 気色横シテ

本意ナキ 体見ヘタリ

此等ノ故無冥加一 早世スル云

√ 按察法印無才覺耶

八才

八ウ

九才

親快重テ隨極案房

僧正遂灌頂故了一房

云不爾有才覺一人也

親快心不落居一人也故

重遂之一也有才覺

故秘藏記抄書記之

禪定殿下ノ御前ニシテ高

野ノ道範等參テ讀之

以其一為シテ本一記之也我

身ハ醍醐ニ持之一也ト云

成賢僧正初以大納言

僧都勝海久我通賢御息也為付弟一早

世故ニ次以道教一為付弟ト

勝海ト唯授一人大事ハ授

不授不分明云

道教所持白表紙ハ大

納言法印勝海自筆

書也勝海者唐橋ノ大

納言子息成賢灌頂ノ上

足也早世故ニ彼自

筆ノ本ラ道教ニ給ル也

此人可為補処一早世

故以道教一為補処一

道教キラクシクテ

梵漢俱能書也サイ

ク也イカナル文ナレトモ

料紙共ニ二日ニサハクリテ

進之以此等器量一為

補処云

覺雅法印云親快法

印伝法灌頂ラ淨尊ニ

不シテ受一深賢ニ受之一

仍淨尊委細ニ大事ラ

不授云謗家如是

申也○(其後親快隨憲深一遂灌頂一歟)又実証房我

コソト我慢スルハ此義也云

了一上人云道教僧都

自於親快授唯授

九ウ

十ウ

十才

十一才

一人大事其外受法

等申置淨尊律師

也雖然淨尊内々

有_リシ乱行覺_レ仍_レ伝法

灌頂ハ受憲深法印_一也

其後亦受憲深_一深

賢本意思之也仍

無冥加_一親快法印

早世_{ス云}

了_レ一上人云成賢僧正

道教_ニ与_ヘテ遺状_ニ云

一期之間住持_シ諸院

並宗大事_一次可_シ讓

与通円法印_ニ若通

円有別子細者可為自_レ

許_一然_ニ通円法印

物狂_ニナル事_{アリ}道教

無力_一弟ノ親快法印ノ

仁和寺_ニアルヲヨヒヨセテ

十一ウ

讓諸院並大事_ヲ時定_{テイ}

通_{トウ}卿方便_ニテ分_ケテ令_ム讓

通_{トウ}円_ニ定通卿者三条ノ

坊門ノ通方_ニ弟也サカノ

法皇_ハ通方_ノムスメノ御服_ヲ

ウミマイラセラル仍通方

ヤシナヒマイラスル也然_ニ

通方死亡_ス是故_ニ弟ノ

定通代_ヲトリヲコナウ面_ニ

アカキニキミヲ_シ仍異

名_ニアカヲ_キイトノト云也

源氏也通円_ハ定通ノ子

息也定濟僧正ノ兄也

法皇ノ御メノトノ教_ニ時ノ花

ニテアケテト被申即

無_シテ力_一三宝遍知院

讓通円_一角_ノ洞院西方

院並宗大事_ヲ讓_ル親

快_一如是分之既道教

十二オ

十二ウ

死去ス其後通円法

印ノ物狂過^{タリ}法一仍往^テ成

賢僧^(マ)ノ遺狀一親快法

印通円^ヲ日中^ニ追出

三寺院^ヲ一雖訴訟一不

叶^一然^ニ通円死^ヌ時弟ノ定

濟僧正^ニ兩院家^ヲユツル

此時定濟兄ノハチヲス^ハ

カシムカタメニ返^テ兩院^ヲ

ウハイトリテ知行^{之ヲ}申^テ

公家^ニ一トル故^ニ無力^一被

取^了又^ヌ醍醐ノ別々^ニナル

次第如是^云

√親玄仰云親快住仁和

寺理智院ノ良遍ノ下^ニ

伝法灌頂^ス通円物狂故

道教呼親快^一教物^一

中一年也雖可為具支作

法^一三十七^{ニシテ}死^ス覺洞院

十三才

遍知院三十三^{ニシテ}初授灌頂^一

仍雖授伝法印可大

事印可等^一不成具支

儀式^一然間深賢法印^ニ

申置也其書狀^{アリ}道教^ニ

雖授印可等^一不成具支

儀式^一仍貴辺^ニ申

置御也^{已上取意}

権大僧都道教

親玄仰云故深賢法印

以道教僧都遺言

親快^ニ可授具支灌頂^一

之由即最後之時書狀^ヲ

一通深賢法印ノ許へ

書^ヲカル即取出^テ被^ル見^一

之^一其狀貴下^ニ具支

灌頂可奉受由申置

ク也相接々等^云以遺

狀所受也全非私義也

十三ウ

十四才

嘉禎二年五月二十六日他

十四ウ

界二十四日書狀也

√三寶院ノ内ノ三寶ハ皆在

台皮籠中一今三寶

院ハヌケカラニナレル也

親玄説也

了一上人云理性三密ヤ

モスレハ定海ヲアナツル勝

覺此ヲ見テ後ニアナツラセ

シトテ理性三密ニ不

授処也ト皮籠ニ合ニ

□_テ被置也

極楽房僧正受法事

覺雅法印云実深僧

正成賢僧正ニ遂灌頂一成

賢最後時実深立ッ

枕辺ニ御没後ニ誰ニカ可

問不審御耶申答

憲深律師ニ問ヘト云

仍没後ニ重受シテ受法也

覺雅憲深ニ遂灌頂ヲ一最

後ニ誰可尋不審御ト

申問実深ト云仍

没後ニ重受シテ受法也云

成賢最後ニ淨心法印○(深賢法印)

道教僧都等雖有一以

実深一憲深律師ニ令

受法一憲深行徳知法

故也云

√了一上人云極楽房僧正ハ

石山ノ文泉房ニ被同宿一

石山ニ被レシ住一也仍勸修

寺聖教在之

√憲深僧正ハ実繼法印ノ

イトコ也実繼無シテ付法

仁一死ス仍聖教ヲハメノト

取リ置テ与子息ノ憲深

僧正ニ一以此聖教一成賢

十五ウ

十六オ

僧正^ニ奉受^一 雖爾^一 唯

授一人^ニ 大事全不授^一

√親玄仰云^ハ 實繼法印^ノ 聖

教^ハ 讓殿^ノ 僧都良海^一

々々物狂^ニシテ 死ス 良海^ノメノ

ト憲深^ノ母儀也 此^ノ聖

教^ヲ トリテヲキテ与子^ノ

極樂房僧正^一 也 以此聖

教受^之云

√親玄仰云^ハ 此台皮籠^ハ

極樂房不越^レ 彼家云

書写本在^之 一 不爾

此等^ヲハ 不与^レ 別^ノ 書等也

本作法等^ハ 同^{ナル} 事^モ アレ

トモ具書等^ハ 全別也 非

付法^{正頭}者不授^之云

源氏^{一門四家ニ分リ}

久我

土御門

三条坊門

唐橋

左大将通忠^{早世}

前 内大臣通基^{家嫡}

權大納言具房^{トモ 表兄也}

親玄

通忠父通光也^{太政大臣也}

成賢^{僧正}

道教^{大納言僧都}

親快法印^{大納言} 親玄法印

深賢^{法印}

中納言律師^{淨尊}

醍醐唯授一人^ニ 大事不散事

成賢僧正唯授一人^ニ 大事ヲ所

望勝賢僧正^ニ 時辞シテ云

故成尊授義範々俊^ニ

人重我時授三人^一 耶

乘繼法印御室兩人^ニ

既授畢^ヌ 授汝^一 三人也

不可叶 雖爾兄^ノ 静憲

法印^{丁寧}ニクトキテ

被申仍以^ハ 實賢阿闍

十六ウ

十七才

十七ウ

十八才

梨夜^ル被召授之畢^又

但授二人者義範々俊^モ

御室乘繼^モ唯義

範^ノ筋ノ大事也^{実^{ニハ}}

非唯授一人大事^{ニハ}一^云

仍成賢一人外不授之^云

定仙問覺雅法印云厚

双紙外大事醍醐誰

人受之耶答云大

政法印与覺雅也^云

後奉問大政法印^一々々

仰云唯受^マ一人大事^ハヨモ

ソナタヘハユキムハシ別^レ

事ヲ思^{□ヘテ}被申歟^云

(二行空白)

醍醐唯授一人相承事

良雅 定海 元海

実運 勝賢 成賢

唐橋大納言雅親御息也

大納言僧都
道教

大納言法印
親快

親玄

兄也
号通短院僧都

弟也
号覺海院法印

(空白)

十九才

唯授一人受法儀式如何

意教上人云

答元別儀式先授小

野秘密灌頂^{一印二明也}

次授唯受^マ一人大事^一但^シ

前立^タ奉受秘密灌頂

故^ニ今度^ハ唯乍御病

床授此大事許御^シ也^云

為^{ナリ}令伝松橋不授余

一令[□]状^一云

唯授一人大事伝受次第如何

親玄仰云是号閉眼大事

閉眼外不授之亦平等^ニ

不読之^一亦明僧等中^{ニハ}不

得之^一云

唯授一人大事^{ヲハ}人^ニ不可知

十九ウ

厚大事外ニ別無大事^一

云テシヲヌ体ニテ有ルヘキ也^云

了[√]了一上人間覺雅法印云

厚大事外又最極

大事有之耶法印

答云有也角^{云々} 洞院僧

正受病患時病ハ是死ノ因

也^{トテ} 被授実継法印^一

大事在^{リト}之^一云

但前大事^{ソト}ハ不得^一ア

ヤシク覺[□]キ^云

意教上人云末代大阿闍

梨ハ非可授灌頂機雖然

与大日祖師成不二觀^一

勤行之時即大日祖師^ト

不二故授^ルニ灌頂^一不苦^一也

唯授一人明末以真言^一切

続事

義云五智真言ヲ一度^ツ

誦読也 五智皆可^有

故^ニ此即兩部大日也 大日

雖兩部^一証ノ時^ハ一仏也^云

伝法祖師等次第^ニ相承

口伝之^一 唯列兩部阿闍

余秘之^一 不列之^一 以口伝^一

相承^{スト}云 列^子ハ 人可知故^ニ

釈者略之

唯授一人大事在守護神事

醍醐ノ清灌権現^ハ唐在ノ青

龍寺ノ鎮守也 恵果

和尚以此大事^一 奉授大師^一

御故^ニ権現約束大師^ヲ為

守此大事^一 共大師同船

渡日本^一 神且^ク筑紫^ニ

住^シ御^スアメシノ明神^ト申^ス

次大和国^ハ移^リ御^ス知也^不

次^ニ上ノ醍醐^ノフモトニケヲ

ソクト云^処ニ移御^ス次^ニ

二十才

二十ウ

二十一才

上ノ醍醐ノヲノカサトミ

子ニ住シ御ス其次ニ当

時上ノ醍醐ノ西谷ニ住シ御ス

也清瀧者青龍ニ三

水ヲソヘテヨム也守リ

青龍法水ニ御ス故ヘ也

已上故上人物語也唯

授一人大事相伝スル時ノ

一口伝也親玄ハ此事

不存知也

清瀧御事
上ノ醍醐ニ二社御ス号両所

権現ト一社ハ准提女形

一社ハ如意輪僧形俱ニ号

清瀧権現ニ二社ハ兄弟

儀也地体ハ一社也一休

現両社御ス心地也

(二行空白)

醍醐諸院建立事

遍知院義範建立ス

三宝院勝覚建立ス

彼時灌頂堂許立之

定海元海実運

住之実運勝俱胝

院建立之一勝賢

雖住三宝院角(マ)洞

院建立ス成賢本房

三宝院也遍知院ラハ

皆相承シテ雖住之一本房ハ

三宝院也

三宝院公所故私聖

教等不納之一云

遍知院ハ義範建立

成賢執シテ之住ス此院一

於此院一南経蔵西経

蔵トテ有二経蔵一南経蔵ニハ

繫八家ノ影ヲ一取置八家ノ

聖教ヲ一西経蔵ニハ繫東

二十一ウ

二十一ウ

二十二オ

二十三オ

寺八祖^一置台ノ皮籠

四合並^ニ案置重宝等

親快之時^ハ私皮籠四合

具之^ニ案置之也

(一行空白)

覺雅法印云故成賢僧正

持三ノ房^一不当ノ房^ハ三宝

院サウセチ等ノ事ヲサハクル

処故^ニ尋常房^ハ遍知院

サクラウエタリ石立^{タリ}ナン

トシテ西向^キ故^ニ貴^キ房^ハ報

恩院正月^ハ長齊^ニトチ

コモリテ被行故^ニ憲深^ハ報

恩院ヲユツリエタリ輔ノ律

師^ト号^スサケモノマス一期

持仏堂^ニスメル人也 以此故^一

成賢報恩院^ヲユツル也

一期間所執境咒若僧唯

三人作欲事唯六度也^云

二十三ウ

実深僧正^ハサメウシノ別

当成賢^ニ憲深^ニ弟

子也 極楽房^ヲ憲深^ニ議

実深^ニ々々申付親快

覺雅^ハ実深ノ弟子也

サメウシヲ覺雅^ニユツル

仍極楽房^ヲ覺雅知行^{スル}

也 但親快法印ノ前^ニ被

住^一也 即与親玄僧都^云

(一行空白)

醍醐地藏院々務相承

者深賢法印次侍從

律師成深^セ次親快法印

次親玄僧都

宗大事

石山^ニ自本^一有伝法灌頂^一

但無歸命句^{是秘藏習也}

亦有秘密灌頂^{其秘故号秘密}

此両様ノ灌頂^ハ自本^一石山^ニ

二十四オ

二十四ウ

有之一元海初メ習テ此兩

樣ヲ唯一儀□許ヲ為レ伝カ

對シテ寬空僧正受之二明一

常ニ以有ル歸命句一二印

二明為第一重ト一以石山ノ

一印二明ヲ為ル第二重一事ハ

以寬空ノ儀□為レ面ト時ノ

事也地体ハ不可云第一重

第二重ト唯伝法秘密也

只者即云初重二重也

就石山習ニ有二重一故可

云初重二重ト此ノ上ニ

有大事明一常ニ号第

三重ト云伝法秘密ト時

唯秘密ノ内ノ明也秘密ニ

有二重一也

伝法二印二明常云初重次

秘密一印二明常云第二重

次秘密一印一明也常号第二重

二十五才

√一尋云厚双紙中大事

最後閉眼為隨一耶

親玄仰云厚双紙中

受重病一後定海授

元海ニ云是閉眼ノ大事ノ

為タリ隨一親玄仰云必不爾也

親快法印ハ建治二年五

月二十六日他ニ我身二十三日

□向テ其日受厚大事一

次日二十四日授唯授一人大事一

厚大事ハ遍知院時マテハ

不軌一其後人知之又

軌授之一

座主相承大事ハ二十三日

以前奉受之四月比也

醍醐ニ被住一時奉受也

一尋云醍醐ハ三ノ大事下ルト

云如何親玄仰云

又不爾也

二十六才

一厚双紙中大事

二十六ウ

一塔印誦五字明一無末

勝覺受義範耶

如何法印云醍醐大事云人アリ

親玄云口伝ノ日記中ニ義

如何法印云醍醐相承

範ニ受タル由見タリ

大事中無之他流事也

付灌頂第一唯授一人第二

一有点ノ五大ハ松橋無点ハ

厚也次座主相承大

三宝院事如何

事也座主相承大事ハ

法印云未存知云

不及厚唯三宝院許

私云閉眼ニ受之仍委不

習也付此一人外不教之

被存一歟

サル程ニ広ク名ヲモ知ル人無之

一三宝院座主相承大事

地体ヲホヘモヲトレリ日記モ

厚大事唯授一人

無也ト云五自ノ明ハ不及

大事此外猶有別

五台一覽今一ニハ都

二十七才

灌頂ノ大事耶

不及也云

親玄法印云不爾唯此

√座主相承大事有二一ニハ

三大事也其外無之云

不開指頭一ニハ開指頭

一二条双紙中定賢

以何為本一親玄仰云

法務流有一印三明

我等相伝ハ不開指頭也

大事如何親玄ノ旧

開ハ指頭一不存知之云

日記中ニモ如此雖然我等

二十八才

不伝之云

唯授切統事

一真言末ノ切統等兩印

大日也ト承如何二兩部ノ

種俱二五智也一胎藏理

中二有智義一然間俱智

種子也ト承如何

親玄法印云此等皆同也

一末ノ觀法唯在月輪ノ光

明カクヤクノ義ノミ一唯有

明朗処無余物ノ義也此ノ

後捨明朗念二唯歸無

想無念一此等如何

親玄仰云皆同也但雖モ

無ト承コト唯有明朗ノ文ヲ義ハ

皆同也

同人仰云親快法印最

後時ハ此等ノ大事ヲ授

畢テサノミ不審ナセソト

二十八ウ

手ヲフラレキ云

親玄云角（マヤ）洞院遍知

院ノ真言ノ宗旨皆歸

此趣二也角（マヤ）洞院ノ口伝ヲ

成賢日記スル中ニ真言ノ

中ニ不依三宝不依加持

直住無想二唯在理一

アルヘシト見タリト云

皆今ノ重極也ト云

願行上人云故意教上人

阿性上人兵部卿法印

三人之真言無相法門

皆同也故安祥寺僧

正御房仰云兵部卿

法印ハ無智ノ人ト思ヘハ

事相ヲヨク習タルヤウ云

法門ヲヨク云也ト云

願上人云真言宗旨ハ月

輪觀也結定印一左右ノ

二十九オ

二十九ウ

手ノヲクウノ内ヲ月輪ト

觀也 左右ノワキヨリ

ヒチウテノ内也 印ノ二

頭指ニ大指ノアヒモ月

輪也云

了一上人云故上人説ハ不爾

我身心皆月輪也 其

後捨心歸無相一

禪要云初有延促後二ハ

不須延促 唯見明朗

更無一物文 次キ不見

身与心同虚空相亦

不見空相等文

唯授一人印信事

親玄仰云此ノ大事ノ印信ハ

角クマノ 洞院書テ与成賢

々々授道教時別ニ不書

之一与角洞院書写

印信別紙ニ書テ其

意趣授之也 道教

授親快一時モ 爾也 親快

授親玄時モ 爾也 唯角クマノ

洞院印信也 別紙ニ書

旨趣副之許也云

(空白)

此口伝等者皆当流明

徳口伝也 一事無

誤仍為後代口実

先師仙公和尚所記

録也 不可及他見者也

予抄出彼草中

為当流之親決

嘉元第三其十二月二十八日記之

智照云

(以下空白)

三十一ウ

三十ウ

三十一才

③【十三函一一二】

〔表紙〕

ken a

親玄僧正

三宝院

御口伝二

仙芥集

〔表紙裏〕

(空白)

〔本文〕

三宝院者有三宝

故名三宝院三

宝者一義範僧都ノ

雲加持ノ五古二以金

奉鑄聖天三義範

所持仏舍利三十二粒

副ハテ金銀真珠等被

安置是注也即如意宝

珠也雖不合丸

宝珠也御遺告見二様一

○(成賢此ニテ住処也)

私鑄銀聖天副之云

此院者勝覚始テ所

建立之被案置三

宝一近比鑄銀聖天

被副之一成賢私鑄

之一本ノ三宝モ有台

皮籠中一銀聖○(天)モ同

在之

三宝院三宝事

正応三年九月初四日

一才

一ウ

三宝院宝物等

評之

一 雲加持五古

(二行空白)

二 仏舍利三十二粒

(二行空白)

三 金歡喜天四寸也

(短辺2・長辺6cmの長方形)

一二八一 権一実権、着袈裟

二二八一 俱俱不着袈裟

三二八一 権俱不着袈裟

已上法印口伝今

金天ハ俱着袈裟也

三宝院ノ内三宝ハ皆在

台皮籠中一今三

宝院ハヌケカラニナレル也

受法事

了一上人奉尋故意

教上人云妙鈔二八猶

有大事 自白表紙

可重一何以当世妙

鈔ヲハ授与人白表紙ヲハ

秘之耶

故上人云尤有此不審

神妙二有御尋秘白

表紙事ハ故勝賢僧

正以此等名一奉授御

室一畢 御室作次第一

遺醍醐一令見勝賢

僧正御僧正申是

被奉授トモ不覚モノ

フトテ殊勝ナル間ヤワラ

書留置三宝院

其由不申御室故二

密二授テ之一令書写之

不輒披露故二本モト

秘付タル也 大事ノ勝

妙鈔非秘之妙鈔ハ雖

二ウ

三オ

有大事本_ト三_宝

院_{ニテ}与人_一故_ニイタウ

不秘也_{ト云}

一 小野六条醍醐ノ受

法ノ受疏中_ニ入_レ之耶

親玄法印云不入_レ之

但仁海副作ノ中人

之許也相承無受_レ之

事也

一 昔石山ノ道場觀許_ヲ

受_レ之無別文_{一云}

一 白表紙ノ野鈔秘鈔ノ

異名事

二(米) 步擲明王誦事

步擲明王_{ホテキ}ハ八天明王同也古_ハフチ

ヤクト読_{ヨミ}ケリ此ノ明王_ハ唐笠_ヲサ

シタル也

親玄法印云_(マ)角洞院

初_メ抄_シ集_テ被_レ進御

三ウ

進御室_一其時御室

此名野抄_ト御_ス其後

御室再治_シ御_ス即名

秘鈔_ト其時角洞院

被_レ見仍返_テ書留_ム

其時少々不書_レ之仍

角洞院_(マ)ヨリ遍知院_{マテハ}

少々欠卷_ス後_ニ遍知

院申御室_ハ書繼也_云

一 白表紙受法次第事

了一上人云先觀音部

次五大尊次諸文殊

次釈迦弥陀等随望

尊漸々受_レ之大法

秘法等_ハ輒不受_レ之

随器授_レ之_一

薄双紙受法次第

亦爾也普通目錄

次第_ハ自上古在_レ之

四才

四才押紙

四ウ

五才

委目錄ハ極樂房

作之薄双紙次第

等ハ少々極樂房作

別之也

問秘鈔中如法愛染

如法尊勝在之耶

了上人云不爾秘鈔

御室御作也御室ハ不

作此等御十四卷ノ如法

愛染ハ実賢作之也

宝池院僧正説也

又定海作之自昔在

之如法愛染如法尊

勝醍醐用之云

(空白)

大元法事

親玄仰云白河院於

諸流有御尋預立鈿

輪印事也勝覺モ不

知之由答申

範俊知之答申

又申云良雅ニ悉授

之了良雅授定

海々々授元海如此

次第シテ下ル也台皮

籠中具書極多也

又云範俊ニ有御尋習

之由申上サラム未

可勤行之由被仰下

所勞之即辞申処ニ

教此法弟子有耶ト

有御尋良雅ニ伝テ

之云但未与具書

等云仰云具書等ヲ

与之良雅ヲ可進ヘキ

其時一々ニ与之良雅ヲ

進仍良雅行之

定海勝覺不習由

五ウ

六才

六ウ

七才

七ウ

申上_ラ 処_ラ 者本定

思_テ 良雅_ニ 習_レ 伝_レ 之

具書等未_レ 伝_レ 良雅

所_レ 勞_付 _テ 大事也

ハリマ房トカヤ申

彼法師ヲ不便_ニ 思_フ 処_ニ

可_レ 申_付 _一 人無_シ 仍_テ 此

彼法師_ニ 大元ノ法ノ具

書_ヲ モタセテ定海ノモトヘ

遣_ス 此法師ヲ不便_ニ

アタリ給_ヘ ト云 仍

領状申也 定海来_テ

不審ノ処決之 然間

醍醐有_レ 此法彼法師

皮籠一合持_テ 来_ラ シメ

理性院ノ賢覚法眼

伝_レ 此法由申_ス 定海

責_云 我勝覚_ニ 不_レ 習

汝習誰_ニ 一 耶 答云

八才

述ノ入寺ト云物ニ習ト云

浄秀入寺トテ在

醍醐次ノ者也 此人

所望ハ大元別当ヲ

不叶 仍後ニ三井寺

法師ニナル也 龍ノヒホ (平濁)

シト云者アリ置_テ 大

元壇ニ行之 浄秀

持之其モ在_リ 三井寺ニ云

私問若_レ 伝大元法何

賢覚院御尋之

時不_レ 申_レ 伝之由耶

彼流人会云預立

剋輪法ト有御尋仍

不知答申也サル

法無故印ハ在_レ 之云

是後人会尺也 実ニハ

不_レ 伝之 又云大元阿

闍梨即別当也 東

八ウ

九才

寺ノ長者ヲ懸心人ハ

不勤行大元別当^一

又非大師将来法^二云^一

又云台皮籠中大元

法具書二十卷許也

問良雅自竹人皮籠

二伝之在台皮籠

中耶

仰云大元法許二十卷

在台皮籠中^二其

外良雅ノ書^{トテ}不見

一合分在之今一合

分不見^一也イツチヘ相

伝シタリトモ不聞也

大元法相伝

宗命^{大元聖}藏有琳經

經舜公然定仙

預立釵輪印相伝

事<sup>自理性院宗命
次第下也</sup>

口伝云第七八印肝心

印也内縛^{シテ}立^二二頭

指^二小指而サキヲ

三角^ニツクル調伏ノ故也

問彼方振之者振字ハ

召字^{ナルヘシ}秘^ラ作ル

振字^ニ以^二二天指^一三^ト召之^一

也怨家在^{リト}此印中^一

觀之也依此印言ノ力^一

必来印中^一也真言ハ

此書ノウラニカムナ付^{タリ}

可用之^一也ソハカノ上^ニ怨

家ノ性^ト名^ト加^テ此^ヲ唱^{ヘテ}

其^ノ次^ニ誦ソハカヲ^一也

三度召^テ之ヤカテ

以^二二大指覆之^一也

第七ノ印^ヲトイテヤ

カテ左^ヲハ怨家在^{リト}

観^シナカラアヲケテモ

九ウ

十オ

十ウ

十一オ

ツ也右^ラハ作ル^ル劔印^ニ前^一

印^ヲ引ハナチナカラ

ヤカテ左右^ニ開^テ作^ル

此印^一也預立者立^{ツル}右^ノ

劔印^一名也劔者即

右ノ劔印也輪者左ノ印

也左ノ輪ノ中^ニ在^リト怨家^一

觀^{シテ}コノマワリヲ鎮^シマ

ワス也怨家^ヲニカサヌ

義也必殺^ス此義^ニ一劔

印ノサキヲ怨家^{ニアテ}

サル也父^カヲサナキ子^ヲ

シハル心地^{ニテ}マハリテ

鎮^シメクラス也住^{シテ}大慈

大悲^一調伏彼惡心也

此法調伏ノ法ノ故^ニ向南^一

也仍自南始之打^ト之

云也自中指打之一誦

一打^ス八反調之八反

十一ウ

打之此後結一切印^一

皆怨家在之觀^之

云事也左ノ八幅ノ輪ノ上^ニ

置^テ怨家^一以右劔印^一

鎮^シ之メクラス也

安祥寺僧正兼惠

ナク^ハ此印ノ事^ヲ口

伝^{シテ}云輪^モ智也劔^モ智

也此空智ノ上^ニ置^テ怨

家ノ惡心領伏^{スル}之^一義

也^ト云怨家^ハ為^ニ朝

家毎年^ニ行^ニハ之指何^レヲ

耶答云惣指奉

為國王ノ怨家惡靈邪

神等^トツカ子テ指^之也

為別人行時取分^テ可

誦^之^ト云

此法^ハ唯第七八ノ印秘

印秘口伝也^云

十二オ

十二ウ

付勸請句有子細

本尊大聖トテウメキテ

サテトムル也分明ニ不

唱一タクウメキワタイテ

本尊ノ名ヲ秘スル也五

大尊ヲハタトナウル也

雖爾得心人ハ其モ分

明ニ声明ニセスマシテ余

秘法等ハウメキワタス

許也分明ニ声名ニセ

サル也

本相承ハ經寬阿闍梨醍醐

重受ハ兼惠僧正安祥寺

若宮僧正御房仰云大

元法ハ當時マテ兼惠

僧正承之行之也

(二行空白)

付定印一在三

一仏部定印法算定印

十三才

二金剛部定印外縛合
二大指端

三蓮花部定妙觀

察智定印

此三部定印ノ中ニハ以蓮

花部定印ヲ通一切一

用之也定中ニハ動シテイ

タム故ニ風指ヲ以空指

押之一也兼惠口伝也

小栗寺常曉大和ノ

アキシノニテ取闍伽

水一時ウシロニヲソロシキ

形現シテ水ニ移ル凶之モテ

渡唐ノ時習此法時即

太元明王也云

醍醐ノ釈迦院々務

三河僧都藏有ハ理

性院ノ宗命ノ弟子也

相承之一承久ニハ別当

也仍承勅命一調伏

十三ウ

十四才

関東一雖然身体ハ陳シ

開テタスカル然而トモ別当ハ

メサルハ也其後寛

海法印兼惠僧正

相承兼惠人滅寛

伊法印当時相承

之勤之一也

覺雅法印云定海常二

ワラウテ云賢覺法眼ハ

辻入寺一受太元法勝

覺不受法云仍内々

理性院ヲハ三宝院ニ不許

之也云

問三宝院アル大元法何等

本耶答覺雅法

印云此即良雅与定

海一々々已下伝之成

賢僧正製作即良雅

本也云白表紙中有之云

十四ウ

授薄双紙目錄様如何

先六観音五大尊

文殊等ヲ授テ其後

普通ノ目錄ヲ与ル也

其後ヨクハコンハウスル

時与委目錄也云了上人説

每聖教可伝受耶

受白表紙余亦不然耶

了一上人云昔ハ受石山

道場観許次随機

授大法秘法一也今ノ受法モ

先石山道場観ヲ受テ次

受薄双紙此許ニシテハ事

ユカサル故ニ白表紙玄

秘鈔等ヲ一々ニ受也我

身石山道場観薄

双紙妙鈔白表紙玄

秘鈔等ト受之也云

大法秘法等事

十五ウ

十六オ

了一上人云伴僧十六人

十八人二十人ハ名大法一

問四ヶ大法者何耶

答醍醐日記云仁王

請雨孔雀守護

五ヶ秘法者同日記云

如法愛染 如法尊勝

転法輪 大元後七日

五大虚空藏法ハ雖

不入四ヶ大法中二大

法也伴僧ハ白表紙

八人云肝要鈔八人云

付修法有三重有ハ伴僧
云修法也

六人八人ハ小御修法也

是小法也 小法ノ中二八人ハ

カイツク口ウタル義也

中法十二人 大法如前

云小法中法名目無ケレトモ

対大法三人為也

伴僧六人八人アルラハ云修法也

秘法二ナリヌレハ八人十人

十二人也

後七日護摩兩壇在之

增益調伏 五大尊供

十二天壇 聖天壇具之

伴僧十二人也 具大阿闍

梨十二人也 雖□法義一

在兩壇コマ 仍兼大

法云秘法也

大元 兩壇コマ 調伏

息災 如法愛染

兩壇コマ 調伏 敬愛也

金輪法ハ肝要抄

伴僧六人或八人白

表紙同爾也

普賢延命法 白表紙

伴僧二十人也大法孔雀經

法肝要抄 伴僧二十人

十六ウ

十七オ

十七ウ

大法 六字法 肝要件

僧六口請雨經法

白表紙中伴僧二十人大法

(空白)

蘇悉地事

醍醐ノ流ニモ有之故意

教上人ノ被放印信

中多在之了一房説也

我モ賜之畢ヌ初ニハ

不被与之云不二重極

灌頂也

問蘇悉地厚双紙中ニ

高野旧風無之文

覺雅云勸修寺ニハ元海

不見小野六条難之

然ルニ般若寺ノ僧正是書之

仍非不見之也此蘇悉

地ハ宗叡將來也大師

不伝之相也仍如是書

十八才

云也六条ニハ伝宗エイノ

流書之也非当流云

宗エイハ本ト山僧也

智証ニ受灌頂依山王ノ勸

入他門一汝他門ニウツレト云

仍移東寺覺雅説也

又仁海自筆ノ六条醍醐ノ

祖師代々相伝承ヌ覺

雅伝之焼失ニ失之也

其中ニ元海可相承之本

不見六条耶云

定仙私云蘇悉地宗エイ

將來ヲ小野六条書者

大ナル誤也六条ニ書妙拳

士手明ヲ畢テ惠大真

源聖觀淳元仁文既

自惠果大師受之御ス云

親玄云ソ悉ノ印明ハ拳

菩薩印明也他門印明也

十九才

仍醍醐二八不授之云

十九ウ

明也秘密二有二重一也

延命院石山印信二伝

伝法二印二明初常号

法灌頂時無歸命句是

次秘密一印二明常号第二重

秘藏丁寧ノ習也石山二モ

次秘密一印一明也常号第三重

説本有伝法灌頂二様一

馱都次第

常二ハ以有歸命句一二印

注花藏世界者如何

二明為第一重一以二印

親玄云唯花藏界ノ

二明為第二重其秘故亦号秘密灌頂

儀式ヲ觀許也口伝アリト

此両様ノ灌頂ハ自本石山二

者後人隨之正本無

有之元杲初メ習此両

之又無別口伝一藏

様ヲ唯庭儀許ヲ為伝力

与頸不断常住文

对寛空僧正受之二明也

二十オ

親玄云藏者密藏頸

地体不可云初重第二重一

者龍クヒ也不断常住

唯伝法秘密也人申付テ

者不二ト云事也無別事

云初重二重ト也付石山ノ

又下ノ功能等ハ或請雨或

習有二重一故可シ云初重

五大虚空藏或法花

二重トモ此ノ上二有大事明一

光明真言等從便宜

常二ハ号ス第三重ト云フ伝

可配之勤行此法一切

法秘密ト時ハ唯秘密ノ内ノ

法備之云義ヲ顯サムカタメ

二十一オ

二十ウ

少々列之也云

一人所望舍利真言時

成賢ハ不授之大精進ノ

真言ヲ授ケル也ト云

一駄都次第サビ字ヲハ

付法人ニ許ス也自余モ

サリヌヘキ人ニハタマ〳〵

許也親玄仰也

三次第アリサビ字大次第ハ

秘藏也次略次第ヲハ随分ノ

秘藏也ホロン次第ハ

初心ノ人ノコンハウスルニ許也

親玄仰也

大精進印結ヲニ有三ノ様

一如業障除印

二左右ノ指ヲ合テ二頭二空

如前

三作テ金剛合掌ニ二頭作宝

形ニ二空並ヘ立ル也第三正説也

二十一ウ

○(松橋舍利法)

就大師十八道次第記之

了一上人云大師ノ御作ノ十八

道ノ次第トテ在之也拍掌ノ

次振鈴アリ似広沢ニ仍

以広沢十八道為本也云

印明第一智吉祥印

第二宝生 第三宝菩薩

第四宝光虚空藏 第五

大精進如意宝珠印也

奥沙子シ(平濁)平ヒヤウ(平濁)了一上人云極楽房意教上人

定濟如是ヨムト云

聖天花水供事

但除浴油余行法一々

可修之也如常供養

法了一上人説也

(二行空白)

√曼荼羅供時

兩部共ニ何ヲモ行之時先

二十二オ

二十二ウ

大日ノ種子三形ヲ觀ス

兩部ノ中ニ何ニテモ

體ニ隨ヘシ

次ニ此三形ヲ今ノ仏菩薩ノ出羯

磨形也 是秘藏様也

曼荼羅供ニ用別本

尊時ノ事也

(一行空白)

勤行諸尊法有二様

一先觀大日々々心月輪ニ觀

卍字一々々反シテ觀成ト宝

珠一々々出當尊也 諸

尊ヲ如折紙教ルハ 為他人也

大阿闍梨自ラ行ニハ 如此一

行也 出ル當尊々々許カハル

也 種子三形ハ皆同也

是ハ次ノ様也

一不觀大日一直ニ以卍字為

種子以宝珠一為三形一出

二十三才

一當尊々々一也 是甚秘

様也 故上人以之為甚

秘為内証ニ階堂上

人ニハ 故意教上人以第一

義授之第二義秘藏シテ

不授仍當時モ 無存

知也云云

八千枚事

六日ハ 齋食第七日ハ 断食

故意教上人十二時ニタキ

ハテヨト云云 寅時ニタキ

初テ卯時ニハテヨト云云

了一上人説也 或ハ 其定ニ

タイタリキ但後ニヤミ

タリキト云云

打從テ人ノタクニハ不爾也

卯ニ始テヒルタキハツル也

イソカスシテ静ニタクカ骨ヲ

二十四才

了

為本也云

二十四ウ

三春ノ初ノ甲子ノ日ニアウチノ

木ノ枝ヲ切テヨク也百八

枝ニ一ツノ入之也八十タニモ有レハ

足ル也百ニ具一枝也皆

雖可為アウチ大事

故其一枝也

道場ニハ本尊許也必シモ

八祖十二天ヲカケス人ノ意

樂ニ為証明一懸之亦得タリ

炉ハ息災ノ口ヲ広クスル也

壇ニ火ヲコホサンタメ也ハシノ

一重ヲ広クスル也概ヲトリノ

ケテ鳥居ヲ四方ニ立テ引

五色ヲ一也壇ノ上ノ仏供

等ヲ本尊ノ御前ニトリ置

也壇ニナニヲモ不置一也

助修ハ四人也二人ハハシニニテ

乳木ヲトリクフル也二人ハ

カナスキニテ火ヲカイテ

入水也云其外ハナ□

人モ助修スル不告八千

枚タク時尅事護摩ノ

結願タル故ニ大旨アシタ也

又タニスル様モアル也

八千枚事

六日ハ齋食第七日ハ断

食故意教上人十二時ニ

タキハテヨト云寅時ニタキ

初テ卯時ニハテヨト云

了公説也或ハ其定ニ

タイタリキ但打從テ人ノ

タクニハ不爾卯ニ始テヒル

タキハツル也イソカスシテ

静ニタクカ骨ヲヲラサル

也作法ハ以白表紙一為

本一也云願上人云

甲枝儀軌ニ不用仍我

二十五ウ

二十五ウ

二十六オ

不用下云

了一上人云儀軌本經三

無事多也先德自

古用之定有本授歟云

問薄双紙目錄誰人造

之耶答普通目

録ハ自古有之委目錄ハ

極樂房作之其時尊

法少々造副之云

√奥沙子平法事

了一上人云醍醐三宝院

習云奥沙者河沙也カシヤ

不動梵語也子者弟

子門徒義也平者平

安義也行不動法一龍

智弟子門徒平安也下

云義也

勤行樣如何了一上人

云種子ニ字三形宝

二十六ウ

珠次二出尊形一時出

不動一也奥沙子平法

如何下問ハ先答不動法下

也不動法下通息災調

伏二然ラ入宝部二調伏二

行也不動真言ノ末ハ二

刺宝部ノ句一許也地体

不動ノ真言ハ調伏ノ真言

也加宝部ノ句一故成宝義

也又宝部ナラ付軍荼

利可行雖爾一不動五

大尊ノ惣体故也云

又十四根本ノ印ノサキ二

皆觀宝珠也

先ハ答テ不動法下委ハ

教ル時種子ニ字三

形宝珠下答ル也

付之以不動次第一可行耶

了一上人云先ハ如是可教一

二十七オ

二十七ウ

実^{ニハ}以駄都次第^一一々^ニ

委細^ニ行也^一一モカ^ハス行^フ

之^一也但出^ル尊形^一觀^ヲ

觀^シ副^ル也仍次第^ハ

一向駄都次第^ハ出尊

形^一ハカリ也微細^口伝也

真言^ノ加句^下十四根本^ノ

印^ノサキ^ニ觀宝珠同

也^云

尋云以不動法行^{セハ}入^{ヘシ}

金剛部^一入宝部^ニ意

如何

(空白)

重書作之時定海

為存日為没後事

案光宝所持厚双

紙^ノ奥^ニ云已上秘書等

授元海了後日印

之定海^上如此奥

二十八才

書^一者定海存日似印

可元海所作厚双紙^一

若^シ爾此書^ノ鎮壇之

処云故大僧正^云

大僧正者定海也白表

紙同以此言在之定海

之條勿論也既云故大僧正

入滅之後作之何可印

可此書耶

答定海存日^ニ義範

範俊勝覺嚴覺

寛信等^ノ自抄二百

余卷授元海^一了所

授之惣日記定海記

之与元海^ニ了後日

印之者是也今元海

厚双紙^ニ所載多^{クハ}彼

書等也此條勝^賢

高野参籠之時^ノ日

二十九才

二十九ウ

記ニ見タリ爰ニ元海記テ

彼定海印可言一清

書ノ本ニ載之是也今光玉ノ本

草案ノ本ニハ不載之

松橋本然間定海非ス

見ルニ厚双紙ヲ但存

日印可之書等書加

此双紙ノ中ニ故有印

可之言一副作入滅之後

故云故大僧正一也云

親玄僧正見此義可

然之由被仰之間記

之

永仁五年九月二十二日記之

定仙

勝賢高野參籠日記云

凡勝覚定海又巖覚

寛信等自抄等都

皮子三合所納二百余

卷自□所取持也上

(一行空白)

醍醐雜抄異名ヒケ双紙

問誰人制作耶 答覚雅

法印云弁入道生西对

一海律師ニ受法ス其分ヲ

記之一無灌頂等大事一

又無大法秘法ノ口伝一

通途ノ事也 故成賢

僧正取寄セテ大要事ニハ

指計算ヲ令道教

僧都令抄出一二條

也 此二条中ニ記事

其中肝要也不過之云

弁入道生西者通憲

入道ノ次男貞憲

右弁解脱上人父也サタノリ

覚雅云成賢僧正松

橋へ不返醍醐ノ唐東

三十才

三十一才

三十ウ

房ニヒケ双紙ヲ一ヲカレ

三十一ウ

タリ當時在彼房ニ一

覺雅ノモトニハカキウツ

セル本在之

(二行空白)

台皮子作者事

○(問誰人所設持耶)

○(答了一上人也)

勝覺皮籠ニ合ヲ居ヘテ

台モチアルキ給ヒキ

其時初出来也

覺雅法印云中書本

与清書本ニ合在之

勝賢マテハ並ヘテ伝之

勝賢以中書ノ本一讓

実繼法印一実繼ノ聖

教ハ憲深僧正伝之

憲深聖教与実深

僧正一実深聖教覺

雅伝之然間其ノ中

書ノ二合ハ在覺雅カ許ニ

勝賢僧正以清書本一

讓成賢僧正一〃〃〃〃

与道教一〃〃讓親

快法印ニ親快讓親

快僧都一仍正本ハ在

親玄僧都一也

問範俊僧正皮籠ニ合

与良雅其皮籠与

定海云一爾耶

覺雅云不爾誰ニ讓ルト云

事無其聞一終失セタル

歟定海ニハ但授大元ノ

法許也其外法不授之

尋云灌頂大事授之耶

覺雅云不授之但

大元法許也云

(空白)

三十二ウ

三十二ウ

三十三才

一交了 三十三ウ

√淨衣十五領白色 大阿闍梨一人

伴僧十三人 大行事一人

已上十五人

④【十三函一一三】

從納殿ヲサメ 下之一 從後コ (平濁) 院

納殿下ロス 之一 也 院ハ 国王

後見也 故云後院下 一也

詮ハ從院ノ納殿 下之一 也

後七日雜日記

√所口請一 雜香可訓 支度内也

四卷内

付勸修寺日記

抄之

一才

仙芥集

ロシ木也

增益護摩

菘豆ロケツノマメ也

蘇合 未合藥 一蘇合也

小角カク豆裏付云有人云 阿アツキキサイノ角也 可尋

√右奉為

金輪聖王等闕ハ行スル也

ヲソルハ由也 此ラ云平出ヒヤウシユツ (入濁)ト

也三字許ヘタツルヲハ云

〔本文〕

後七日私記付勸修寺日記抄之

藥種 黃精ワシヤウコン 根

√蘇蜜為入油器也

〔表紙裏〕

(空白)

闕字ト一也

√行^{セム}暹^{侍也} 醍醐ハ執行等^{スル}也

侍ノ中ノム子トノ物也

√宗仁^公天トハノ院ノ御名也

送^{コレヒキヤウ}之^ラ平^ヲ (入) 救^{キウ} (去) 阿闍梨ノ許^{モト}ハ消

息ノ返事、可訓

其時ノ文(平濁)者モノカキ也

√請^{ケル}クル仰^ラ一^事、可訓

仰^{ブル}案内^{スル}一^事、返々^ミ貴申

給^ヒ侍^{ハリ}ヘリ可訓

√舍利守^{モリ}一人入伴僧内^一

合十三人也入室ノ弟子

也自^リリ^童(入)体^{タイ}一^{弟子}也

我^カ許^{ニシテ}出家^{スル}人^也

√定額^{キヤク}(入濁)僧可読入寺僧也

二十人^{アリ} 淨行人也聖

道也房円僧正、上ノ醍醐ノ

釈迦院ノ法印等是也尋

常ノ人モナル也但請定額

一ウ

僧一^事ハ古^ヘノ事也当時ハ

大阿闍梨ノ弟子等也

√伝^ヘ付^{クト}之^一可訓^歟但無^シ其^ノ

謂^{ハレ}一^伝字封ノ字歟封

付^ク之^一可^キ如^是一^歟地体チヨク

封^{アリ} 其上^ニ阿闍梨ノ封^ヲ

付也

√皆大日為本尊^一 本^ト道場^ニ

之^付テ^二兩界ノ曼陀羅在^之一

仍大日^ヲ為本尊^一 私云勸修

寺良勝流直^ニ行^二兩部

大日^一也阿性房說也

√加持香水

醍醐ノ僧都^{コテン}ノ御殿、四条ノ宮、

西^シノ^對可^読宮者大宮歟

√灑^ク上^{カン}達^{タチ}(去濁)部ノ座ノ方^ニ 公卿名也

√早^シ参^{シテ}整^ツウ^事ヲ 可訓

注^ル如^キ量^ミ少^ク運^{コフ}云

√次^ニ廻^{ラシ}文^ヲ可^読一

二ウ

√注着平袈裟一七条ヲ

キヌニテ白クヌウ也ヲ

左ノ手ニカクル也

勸請句

大聖不動等雖然一本

尊別也

√注同シテ声一念誦ス可訓

声ヲ出シテスルヲ云也 同音ニ

スルニハ非也

√同ク^{キヨイ}御衣、發願、加持、可説

√各出宿所一暫ク一寝ス可説

次十二三日之間○但一度許

何レノ日ニテモ唯一日參シテ御齋

会ニ勤咒願一也非トモ顯

密兼学ノ人勤咒願

許リテ一也不ル出仕セ一日ハ余

人勤之

√又凡僧別當、^{アツ}壇飯一度、

被ル奉一送リ之ヲ常ノ例、可訓

三才

凡僧別當者東寺ニ在之

一ノ長者ノナスモノ也我

弟子内在之一東寺ノツカ

サ也長者ノ代官ニテ寺中ヲ

ヲコナウ也非ス持ツニ妻ヲ

淨行人也長者ノ弟子共也

√但長者、同ク香水ニ捧ク牛

王杖ヲ乍ラ立一等可訓

√得大靈驗リヤウケン可説

√並五大願加持ハハ不動咒也可説

√一捧ヒトサツケ可訓√挿サシハサム番僧吏

名一枚可訓

√所司中綱トテ寺ノサハクリ

スルモノ也

√有リ例録例給ハル録也

√始自八日ノ後夜一十四日ノ初夜ニ

結願、醍醐ハハ自初夜一始之

√珍兼君チケンキミ君ト者無官ヲハ

カヤウニ書也昔様也

四才

√大行事ハ侍也威儀師綱所也

大行事即威儀師也綱所ハ

威儀師、惣在序也 一向

僧中ノ官途ラツカサトル主ハ從儀

師ハ出門也 如ク綱所一物ヲ

トル也 但得分チトサカル也

ナチトサカル禄モチトサカル

也此ノ二人ハ出仕ノ時ハ法

服也アカイケサ也カウノケ

サニシテヘリクロシ横被カケ

タリ律師ノ下、已講ノ上ニ

付也時ノ法務ニ從也シタカガ

綱所ツカウモノ二人アリ

カエトリカウシヤギ 綱取男也ハ 綱匠ハ

下法師也 綱取カキトリラカヘトリトヨム也

綱匠ハ出仕ノ時ハ法服ニヌノハ

カマニハキタカニクッリヲア

クル也アカイ五条ノ袈

袈ラ着也 綱取カヘトリハトモ

四ウ

シリニアリ綱匠ハ前ニ立テ

サキヲヲウ也

東寺ノ一長者天台座

主興福寺別当、此三人ハ

サキヲオワス興福寺ノ綱

匠ヲハ中綱ト云也余処ニハ云

綱匠ト一也

三綱ハ三人正也又権ノ三

綱三人アリ已上六人也

醍醐ニハ権々ノ三綱ヲヲカレ

タリ已上九人也

正三綱ハ知行スル本領ヲ一也

又雑掌ヲスル也 権ト権々ハ

有レハ 残置一雑掌ヲモ スル也

依テ便宜々々ニ一有得分一云

已上了一上人ノ説也

(一行空白)

大政僧正御房仰云惣在

序ハ在リ仁和寺ニ一 台門ハ在リ

五ウ

白河^ニ 天台座主興福寺

別当^ハ 講匠^ヲ マ子テ其

寺ノ公人^ニ 講匠^ノ シヤウソ

クヲセサセテアカケサト名^テ

前^ニ 立也 又講匠^ハ 時ノ法

務^ニ シタカウ也

問カヘチャウ申御物^ハ イ

カヤウナル物ニテ御ソヤ

仰云公家^ニ 召仕モノ也カヘ

トリハ僧家ノ物也

√ 綱所ノ名事

或^ハ 竹林房ノ從儀師等^ト 云也

多^ハ 房号^ヲ 付也 或^ハ 兵部ノ

從儀師^ト 云モアリ 威儀師^モ

爾也 十二ノ威儀師、カノ威

儀師^ト 云也 已下^ハ 付日記^一

注之^一

伴僧十四人内、大行事^ハ 不

出仕^一 トリサハクル仁也地

体^ハ 侍^モ 淨行ナレハ出仕

スル也

√ 八日^ノ 午^ノ (上濁) 上^ノ (平濁) 二午ノ始也

√ 所司^ハ 中間也 職掌^中

間也 ヲトコ也 已上侍^ニ サカル也

√ 事饗膳ニケ度、事字

損也 昼^{チウ} 字也 対スル上ノ後夜^ニ 也

毎日懸盤^{カケハン} 足四^シ 付^テ 高^キ 也

如^シ 文机^{ツクエノ}

√ 粥漬^{カユツケ} 無^ラ ハ 酒^一 雜飯^一 カユ

ツケト云也

√ 高杯^{カウハイ}

√ 諸国ノ加供物等、從諸方^一 送

之^一 也、後七日^ハ タノシキ

御修法也 自諸方^一 為祈^一

人供之^一 也^云

√ 結縁灌頂^モ 各年也 弓場殿^{ユハトノ}

√ 令所給^{字不審也} 依^テ 重^{キニ} 也

可訓^{五古重^モ 也} 令^メ 玉^ヲ 取給^{ハラタマ}

六才^一

六ウ^一

七才^一

可訓歟 タマハラシメ給フ義也

此^モ無其謂^一 取字持字ナル

ヘシ又取下蔵持字^一歟

√床子本^{トハ}コシヤ^ト云也

内裏^{ニテハ}綱所^カ踞床^ニ着^{タイリ}

座有^ト申也 綱所^{ニハ}威儀

師、從儀師^ノニアリ

√但又然^モ加持^モ兩器^一 然字

可^シ惣字^一 然^ハ少^キ難得意^一

一度^ニ加持^モ兩器^一事也^{各別也}

隨氣色^一耳者隨^フ時^ノ氣

色^ニ也

√而後於袖^一袖下也

√小^キウナタル^ル低

√後夜香水加持^{シテ}了上人云

常無^之不得意^一然^モ点^ヲ

アウ有子細^一注^ニ云於衣^一作

之^一文衣下也

√奉灑御等^一御字下可

省前字^一

√蹲踞坐^{シテ}灑^之

√湯加持常^ノ御湯加持也

御湯之時^ハ御湯加持^トトテ長者

若^ハ御持僧^ノセラル^ク也又湯

加持^ハ私^{ニモ}作^之一人望時^モ

可如此^一加持^一也了上人説也

√大壇^ノ本尊^ヲ行也^{宝生尊也}

√但行法金剛界供養法^文

了上人云別行次第也每

度如是^一不用胎界^一云

醍醐^{ニハ}晦日唯一日行之^一

必非三日^一云存知^ハ次^キノ

月ノ一日也前立修^之

√每日上堂者了上人云入

道場^{一時也}云

√図無別子細^一但私^ニ別紙

記^之仍略^之

√金剛界ノ年ハ不動^ヲ為^{シテ}西ノ

八才^一

七ウ^一

八ウ^一

始_ト「降軍大金也」_云

如是_一「可訓」後ノ凶ノウラニ

在此_一「以其_一為_{シテ}本_ト」如是

訓也

√惠丹得業、南都ノユイ

マノ主義_ヲトケヌレハニ云得

業_ト也_云

√真言院_凶別紙記之

晦御念誦

大阿闍梨_{長者}伴僧二人_{定額}

古_ハノ事也_ハ当時_ハ無其義_一

√二千丹乳_{不得意物也}

√震多摩尼中ノ印言

中呪也 同印用之_一

√本法_ハ一日料也、正_ハ一日可勤_一也

√正念中印言_{中呪同印也}

√七三十八記_文此文名未_タ存知_セ云_云

仁_シ(平濁)寿_シ(平濁)殿_{侍從殿事用此字}

仁寿殿_ヲモ侍從殿_トヨム也

同処也

√香隆寺僧正者寬空也

二代御記者広沢文也

√例律師寬靜_一共_之文

例字可仰字_一

九才

√而触穢_スケカレタル也

√令供奉_セ一令字可内字_一

√以円照内供奉_一仍_テ作_ス之_一

内供奉_ニ今修義也

√聖觀音_ヲ為本尊_一醍醐_ニ

延喜ノ二間ノ御本尊御_ス如

意輪也八角ノツシニ入_リ御_ス

七八寸許也梵天帝釈_ハ

六七寸許也四天御_ス同

七寸許也延喜御本尊_ハ

下ノ醍醐ノ三味堂_ニ御_ス也

三味堂者為延喜ノ御孝

養_一造_ル之_一御タフ(平濁)サヲ、

ヲキマイラセタリ御骨_ハミ

九ウ

十才

サ^レキニ御^ス也帝王ハ無火

葬^一 仍^{シテ}生^キ御^ス時^ノ「ミサ^ハ」

キニ奉^ル置^一也此三昧堂^{ニハ}

無御骨^一也奉^ル安置^二一間^ノ

観音^一也然^{ルニ}一定律師、

奉^テ移^シ上^ノ醍醐^ノ念学院^ニ

ヲキマイラセラル夫^ヲ親^リ

奉^リキ^ミ観^一即如意輪観音也^云

(空白)

大政僧正御房仰云下

醍醐三昧堂^ト云堂^{アリ}

其堂^ニ延喜^ノ二間^ノ観音御^ス

也聖観音^ト承^ル也聖主^ノ

拜堂^ノ時拜見^ス之^一物^ノ中^ニ

記^{シテ}ヲイシトヲホユ見

出タラン時^可ト告^一云

問醍醐^ハ何^ノ王^ノ建立^レ耶

仰云延喜朱雀村上

三代^ノ御願^ト申也

十ウ

醍醐^ノ塔^ハ延喜天皇

クミ御^ス五重^ノ塔也未

供養^{ニシテ}御崩御也朱雀

天皇供養^シ之^一御^ス

問醍醐^ニ塔東房^ト申

房有^{リト}承^ル以何^一名

塔東^一耶仰云五重^ノ塔^ノ

東^ニアタリテアリ然間

異名^ニ塔東房^ト申

付^{タリ}任賢^ノ兄弟^ニ教

賢^ト云物有^{リキ}其^カ造

レル房也已上物語也

√迎請印者召請^ノ印也

√移真言院^一当时^ハサト

内裏也^云

√聖^{十一}面^梵観音^ニ三体也

√彼^ノ四本^{ナルカ}故^ニ宝珠^ノ四本也

√有守護^{ワシ}タマフ也此^{コトハ}言^ハ

十二オ

十一ウ

杉スギ或、相カクコノ字、スキトヨム
相本カクニハ用此字也

有ハ一山一敷宝珠ニ以山一

為目一故法印御房仰云

ヘン一トヨム了上人云サ申

也然而トモ常ニハ字一トヨム也

ヤマト国、ク（平濁）ニトニコル也

成就明 han 字也心上ニ書

七反者目 han 字也次、段ニ

ミユル也

二手印也又手字種字也

右仰左覆金剛拳菩薩印

也

含カシ（去）句ケ（平）者カシクソハカト

可誦也

正応五年三月二十二日記之了

定仙御判

裏書ノ抄物

可シ奉供シ一者テヘレハ可訓仰ト

義也

平六角ノ御堂頂ヒラニ

シテコヲモル義モナシ一向

平也ヨコサマ二尺五六寸

許也六角也カナモノヒ

シトアル也□代ノ御本

尊也延喜ハ以此ノ本尊一

為本一ウツサレタリ何レノ

御代ノ御本尊ト云事

無シ真実ニハ伊勢大神宮ノ

御本地也

依○宣ニ可訓宣者王ノ

仰ト云事也

朱付勘収也収字出字

ナルヘシ

末ヘ裏書

蛇法シキ、辟ヒキクノ字、落敷

注 trah 宝文是種ハ trah

三ノ宝ト云事也

理様理性院様敷

十三ウ

十三才

十二ウ

√支配段

本地ノ支配恒例也 国

王ノ御本地也加供トテ諸

郷ノ志ニテ為我カカ祈一送ル也

√大阿闍梨ノ御地料文時料也

衛士エシ、後七日ニハ云衛士ト一也

内裏リノ火タキ也ハナツミ

等ニ召仕也当ルラ仕ニ也

√六衛士花文花下字落

タリ六人内花ツミアリ

地体ハ八人也 左右ノ衛士

具シテ八人也 左右ノエシハイ

タウメシツカハレヌ也 六衛

士ハ委細ニメシツカハルル也

花下ニ可有料字一歟

花ラ出ス物也

√物請者モノウケトル者歟

√二種ノ粥料者カユツケノ

料也 当時ハシトケナキ也

十四才

(一行加筆) 無正体 一行非法也

√注供所シテモノイトナム処也

当ル施所ニ一也

√開白等文○如上一也文下行ハ

非如上一支配ハ随分々一如上一

云ニ是ハ加供ノ事也為自

祈一メヘ供也文下文被加

供一スカタ也餅百八十五

枚文是ハ何ノ料ト不覚悟一

云ニ了一一上人也

(一行空白)

√司人有永国時アリナカクニトキ√大蔵

省ハ五枚宣旨下ル也

√大蔵省ニ五枚大膳職センシキ

二枚、

√造酒司ニ二枚サケノカミ也

√大炊寮ニ一枚

√掃部寮カモンレウ√木工寮ムクレウ一枚

√大蔵下クタストン屯ヒトアツメノ義也

十五才

十五ウ

√調布^{テウフ}シロウスルヌノ也

√商布^{シヤウフ}アカヌノ也ユカタヒラ

ヌノ也

√大綿布^{ダイモン}一斤^{イチゴン}不知^{シラズ}了^{シラズ}上人

√練系^{ネンケイ}一細^{イチサイ}一兩

√昨布^{サクフ}不知^{シラズ}云

√大一斤^{ダイキチン}大ナルハカリ歟

√百兩一分不知

√百兩一分不知

√兩子殊許不知

√藁^{ワラ}十九為^ニ為者マロカ

シノ義也

√下^{クダス}大藏系二十勺二十勺不知

√緑^{キナンド}絹四丈√細布^{ホソシ}ホソシ

√調布^{テウフ}ハ白シ

√大藏^{ダイザウ}省^{シヤウ}ハ五役^{ゴヤク}ノ宣旨^{ケンシ}下

自余^{ミナ}モ爾也

√大藏^{ダイザウ}下者^ゲ大藏^{ダイザウ}ノ下^ゲノ料物

也依^ヨ宣旨^{ケンシ}ニ下^{クダス}ス也

十六オ

大藏省所領^{ダイザウシヤウシヨウ}ヨレリ余^ノモ

皆所領^{シヤウシヨウ}アリモノ省^{シヤウ}ツカ

サトル人^{サトルヒト}ト云^ト大藏^{ダイザウ}卿^{キョウ}ト也

此^{コノ}ツカサトル人^{ヒト}此^{コノ}領^{シヨウ}ヲ知行

スル也^{ナリ}大藏^{ダイザウ}下等^ゲト云^ト事

五^{イツ}ツアリ宣旨^{ケンシ}五役^{ゴヤク}ノユフ也

√西寺^{サイジ}東寺^{トウジ}ノ宣旨^{ケンシ}ハ可

請取^{コト}一^{ヒツ}宣旨^{ケンシ}歟

√帟布^{コフ}不知

√商布^{シヤウフ}ヲイヌノ^ニヤウナリ

√下^{クダス}宮中^{ミヤナカ}宮内^{ミヤウチ}ツ^ニニアタル也

√塩^{シラ}√醬^{ヒシラ}肆斗

フタ^ニヒアリ

√海藻^{サウクワツ}滑^{クワツ}コフ(平濁)也

√海藻^{サウ}ハメ也

√胡麻^{コメ}子^シハコマ也√茄子^{カシ}不知

√明櫃^{メイヒツ}不知√折櫃^{オリヒツ}

√陶坑^{タウキヤウ}大ナルカワラケ也

√陶^{タウキ}為^ニ五十口^{イソク}不知

十七オ

√^{ホシ}瓮ホンナへ也

√瓶足召二不知

√明^一十口不知

√汁精シルノミ也

√木工中殿中殿^ト云所アリ

√大角豆サ^一ケ也

(一行空白)

√交名中<sup>交名ハ巻物皆記
之數卷アル也</sup>

神舍利守主師神字不知^云

√羯磨一口可四口^一不審也

√金銅壺四口為何一耶、

可尋了上人無存知^一

√在^リ箱クタリヨミ也

√金銅塔^ハ入^レテ舍利^一為

安壇上^二也

仏舍利一壺^{在錦袋}甲乙^ノ

ツホハワタラス塔^二トリ

分^テ入^テ之^一安壇上^二也

為^二入^ル方塔^一ツホ^二取分^テ

十七ウ

置^ク也ツホ大サ二寸許

也錦袋^二入^ル也

(空白)

正応五年三月二十六日畢了

以了上人口伝^一記之^一定済

僧正參後七日^一事三

ケ度^{ナカラ}乍^一三度^一伴僧也

仍委存子細^一御^ス然間

以彼口伝^一記之^一也^云

定仙^{滿六十}

一度^ハ聖天供勤^之

一度^ハ息災護摩勤^ト之^一^云

(以下空白)

十九才

⑤【十三函一—一四】

(表紙)

一校了

四卷内

十八ウ

兩日記注文

醍醐

後七日

並師伝

仙芥集

〔表紙裏〕

(空白)

〔本文〕

後七日醍醐付此日記注之也

此日記ハ寛空僧正、

对般若寺観賢僧

正一習フ日記也但初一段許也
末二段興然

伝真乘
房也

√般若寺ノ僧都ノ御共ニ

醍醐山ニ参上文寛空

僧正観賢僧正ノ御共ニ

参也

√奉ル置キ始メ之一後七日

法事也

√三三形也三宝合

室生山、御舍利宝生ノ

三形也

√キヤラマクシヤga rha gu caノ歳胎年也

√外薄薄ハ縛字也

√注若虚空藏、宝光

虚空藏也

√諸尊ハ両界ノ ma ta raナリ

金界ノ諸尊段ニハ用

胎藏マンタラヲ胎藏ノ

諸尊ニハ用金界ノマンタ

ラヲ一也

√釈解法ノ僧二七人ハ沙

弥二七人一此マテハ御齊会

也陳那已下ハ後七日ノ

法也

√勅ス依請一修ス之一永ク為

一才

一ウ

恒例一

√金剛寂之異名ナリ宝

菩薩ノ異名也

√仏舍利ノ内ニ *trāḥ* 字ヲ觀シテ

等文 唯仏舍利ヲ *trāḥ*

字ト觀スルヲ云也

√宝幢仏阿闍也

√皆宝形ニ可觀之一三

形事也

正応五年四月五日

記之了 定仙

後七日師伝付此書一記之

仁濟記也

√注令メ居スヘ直サ鈴前給ヒ了ヌ

前字誤也可シ後字ナル

了上人云舍利守、礼般レマニ

ヒサヲツイテ開テ塔ノ戸ヲ

取ル舍利ヲ一様ニヲク也

√十二天

二一才

一間ニ尊ツク也

√注左右手等文十二天中ニ

難ヲ知一注也

√四面普通ノ十二天無之一

東寺ノ十二天ニ有歟

了上人云ソレマテハヲホヘサル

也ト云々

後一面ハ頭上ノ小面文頂ノ上ニ

チキサキカヲノ有

地天左手持金也鉢文

私云金ヲ入鉢一由也

右手胸月ニ如鉢ノ印ヲ作レルカ文

私云半印也

√藏人一人相具シテ参文私云

御衣ニ相具シテ参スル也

√八足ノ上ニ居之一八足ノ机ニ

置也

√注小台難也文其ノ時ノ事也

寛信勤行ノ時ノ事也非

三才

三才

長時ノ事^{ニハ}一也

√乍台^一立柱ノ下^ニ了、御衣^ヲ

置^テ台^一イタサル^ル也

√饗^{マテ}心^{マテ}応^ラヨウトヨム也

饗^ヲカフ也タカツキ^ニ居^テ

タフ也酒^モアル也ヘイシ^ヲ

トリ出ス也√還^リ了^ヌ可訓

√置^ク四足^ノ上^ニ一足四アルタカ

イツクエ也

√以^之一可用意^一歟^文准胎

藏^ニ一可用意^一也

√阿闍梨上壇ノ間^ハ可如胎

藏^時一也^文壇^ニマイル間^ト

云事也石^ヲフミニテノホル也

√置居箱^一文^ニ三衣箱^ヲ置^テ

居箱^一最初^ニ立也其^ノ次

大阿闍梨参^ス

√注不誦後夜偈^一是先

徳伝也^文了上人云難

得意^一定済^ハ誦^之也^{云々}

√注可見御作文^一也^文御

作中^ニ有歟尋可見^一

√不動、以吉祥天^一為眷属^一

故^文不動^ハ地神也^以吉祥

祥天^一習地神^一習地天^ト

事有歟可尋

√各闍梨從^テ可勤仕^之也^文

從^ノ上^ニ可有随字^一云々

√立出^テ壇上^ニ壇上者非

仏前ノ壇^一省^ル内陣^ノ板

敷^ハ云也從伴僧聖^一入

内陣^一也

√注源喜人名也

√長押^ニ承仕奉安置^之也^文

ナケシニサシアケテヲク也

当时^ハ東寺^ヘヲクル也

√又打鳴^{ニハ}用磬^一也^文

了上人云当时^ハウチナラ

四才

四ウ

五才

シヲ大阿闍梨ノ役ニテ隨

順之^一也^{云々}

√手替ハ初夜^{ニモ}不発願^一

手替ノ時^ハ不発願^一但

誦^{シテ}呪許^ヲ加持^{スル}也

√可合鈔法印^一給^一故

位^ノアカルヲハ云鈔^ト也宮^ヲハ

住^ト云也

√モヤミスト者モヤニミス

ヲカケタリ

√当講者講師也

√番問者^{ツカイ}ヲヨフ問者^ト答

者^トヲヨミ^{ツカイ}アク^{ツカイ}一番也

又次ノ問答ノ初^ニ如前^一ヨミ

アク如前^一每番^{ツカイ}ヨミ^{ツカイ}ア

クル也

√大打着^{ウツキ}者勅録也

√付屬者ケンタ国シノケサ

也当時^ハ袈裟^ヲ入箱^一持

也長者ノ初許^ニ着^一也

正応五年四月五日記之^了

定仙

(空白)

長者作法

五ウ

東寺長者人乍水去^{付麗蘭注}

注云大師准漢土風被始

置之^一文了上人云東寺^ハ

青瀧寺^ヲラウツサル以青瀧^ヲ

寺^ヲ造^一之^{云々}

√遷代ノ尅^文カワル義也壇^{十一面也}

宮僧正者覺源也

√a bu di bu di^{ホテ}ハ覺也

a ca ri^ヲカキタカウル

欺夫^モ誰^レ a ca ri^ト

云事^ヲ不知^一地体難^キ

存知^一言也

√大月^ニハ二十八日^{云々}古^ハノ義也

六ウ

當時ハ晦^リノ日唯一日勤ム之

√注云加へ誦スル真言如シ真言

院ノ説ニ如ト後七日ノ散念

誦ニ云事也

√違乱可檢之一文其年ノ失シテ也

√八日欠日也 欠日者カ

ウ曰ト云事也

√法務ノ例、定賢法務也

√依テ上臆タルニ 一敷時ノ上ラウ也

起次第ハ先護摩師、

次ニ五大尊供、

次ニ二天供、次聖天

供、サキハハテネトモ立ツ

也次第シテカヤウニ立也

護摩師、返テ着ク本座ニ

時、大阿闍梨、打テ一字

金^ラ一始後供養^ラ一也

√na na糸〇真言也 一向不

存知ト云

七才

√臥^フシ^シヲ^カカ^カミ^タテ^マツ^ルノ
pha ha ri也

√普世天壇世天壇名

也普^ク供^ス諸^ス天^ラ一故ニ云

普^ト也

√三^ト拜^スル^カレ^ラ一也

√日没ノ後也、者初夜ノ時也

√伴僧ノ後^ロノ南^ノ壁^ヘニ立^レ之^一文

當時ハ不爾^一也机^ニヨセカク

√事ノ由^ト者事ノ由^ラ申^{スト}云事也

√後^ロハ切^リ懸^カケ^テ也切懸者

クレヲヘキテナヲニテカキ

ツケタリキリハリヲタツ

ル也其^ニカキツク

√切懸^ケラ立^ツル也後許^ラハ切

懸^ラ立^ツル也其外^ハ無^之一

ミチノ為^メ也ホソマリトモ也

√寄西^一敷^之ニ々々者マウ

ケタル義也

八才

八ウ

√○又水桶等有之一_一文ヒサシノ内也

√元_{モト}行壇也_一文勤行_{スル}事也

√御入堂_ニ会隨身_一給也_一文

御舍利_ヲハフクロ_ニ入_テ

入_テ三衣箱_ニ舍利_{モリ}ニ令

持_一也舍利_{守リ}ハヒサシノ

土壇マテハトモ_ニアリ土壇_ニテ

大阿闍梨シハラク立当_ル

舍利_{モリ}進_テ塔_ニ入_{レテ}舍

利_一返_{タル}時、其時大阿

闍梨入道場_ニ一也_一行法

ハテ_ク又舍利_守取_テ舍

利_一返_ル也道場_ニハ_一ヲカ

サル也

(一_一行空白)

√取_テ尻切_ヲ一不_ス入堂_ノ内_ハ一_一文

尻切_ハイハムシロ_ヲモテ

ツクリテ皮_ニテヘリ_ヲサス也

九ウ

故定済_ハミ_クナシ也堂

外_{ニテ}ハ鼻広_ヲハクヒサシノ

土壇_{ニテ}ハ尻切_ヲハク道場_ノ

内_{ニテ}ハハタ(声_ニ平濁)シ也或_一從房

唯裏無_ヲハクモアリ不_一入

堂_ニ者_一從僧_ハ大阿闍梨_ノ

尻切_ヲトリヌレハ我身_ハ

道場_ヘ不_一入_一也_云

√戌_ノ三尅_文三尅_ハ大旨

ヲワリ也

√参_内トヨム_ヘシ

√御輩_ヲ手_クルマ也_一内裏_ノ

陣_ノ内_{ナル}故_ニ牛_ニカケ_ケス_ケル

マソイヒク也シラ_ハリ着_{タル}

男也_一下郎也_一故定済_ハ

タコシ也中_ノ御門_{ニテ}車_ニ

ノリウツル返_リノ時也

√前駟_ク(声_ニ平濁)ヲ八_人文_宮一_ノ人_ハ出

世者、房官_ヲ前駟_ニ

十オ

用^キ御ス也凡人ハ侍也自

一ノ人^一已下、三家等也

装束^{シヤウソク}鈍色^{ニツライロ}ニサシヌキ

也但出世者ノシルシニハ

念珠^ヲ手ノクヒニマク也

ヒラカサヲキル前駟ノ時ハ

ケサヲカケスフカクツヲ

ハク前^ニ馬^ニノリ列ナル也

下ラウ前也但事

前一人ハ其中^ニ尋常ナル

人ウツ也

√可然一人々ノ車七両^文後

車也御トモ^ニ乗^ヲハ車^一

云後車ト乗^ヲハ馬^ニ云後騎^ト

カチナルヲ云後從^ノ僧綱^ト一

但大阿闍梨ノカチナル時^ハカ

チニテトモヲスル也

行列次第

先前駟下ラウ前也次御車

十ウ

次後騎^{侍童}上ラウ前若有^{レハ}上

童兒^一侍ノ前^ニウツ也次後車

後車ハ上ラウ前也後

車ハ各具^{スルモ}後騎^ヲ一省^ル也

√馬ノ上ノ童ハ二人也^文是ハ兒

也^{有人云一男中童子或大童子}
^{長也其中ノム子トノ物也}

√束帶^ニ納^ノ袈裟^文束帶

者法服也

√着^{チヤク}持^ス之^一ケサヲキ念珠

五古ヲ持義也

√上^{カシタテ}達部^テ着座^{スル}以後^ニ

上達部者公卿也

公卿着座以後也

√注^{ホシ}香水器^{ニハ}土器用^之文

瓮^ナへ(声…平濁)ヨリヒキクチトチ

キサキヤウ也

√藥^ヲ煎^{シテ}入^ルグ也^文上^ノ五香

五藥^ヲ煎^{シテ}入^ルグ也

√清涼殿ハ有御出仕^一故

十一ウ

十二オ

不置御衣一也

√東ニ立テ作法ス文 無御仕一故立ツ也

√東ニ坐シテ作法ス有御出仕一故ニ坐スル也

清冷殿ハ東向ノ殿也内裏ニ取テハ東向ノ殿也何レノ殿ニテモ物ニ向テ作法スル也

故東ニ立、或坐ニ云々

√南殿ハ南向ニ式ノ屋ノ

寢殿故ニアタル也ウルハシ

キ処也志マ宸殿トモ申也

√立膝可歩寄一也一兩者ハ

ヒサニテアユマス作法ノ時

許ヒサヲ立ツル也

√從コシ下ヲリ以テ兩手一受

取之一踞コシ支コシ此字也

ユカヨリヲルク也又末ヘノ

人トモハシリヲハツメトル

十二ウ

也此即ヲルク義也大阿闍

梨ハ隨時一今ノ記ハヲルク儀式ヲ云也又可隨時

形勢一無其義也余事等者論義也今ハ不爾一

論義ハハテク布施ヲヒカルク也

√息災非沙汰一歟不動ノ故也常事也故云爾也

√勘責カムセキノ体也シカリ得之也

十九僧故也

正応五年三月三十日記之了

定仙

滿六十云々

十三ウ

⑥【十三函一一一五】

〔表紙〕

十三オ

四卷内

後七日私抄

付醍醐勸修寺記之

太元法少々記之初在之

仙芥集

〔表紙裏〕

〔空白〕

〔本文〕

後七日堂莊嚴ハ如勸

修寺ハ一横サマ七間奥ハ

四間也母屋ハ五間横マ二

間也母屋ハ板敷也此即

道場也東西ニ兩壇アリ

各年ニ勤行之一勸修寺ハ

兩種護摩イツモ西ノヒサシノ間

也十二天イツモ東ノヒサシ

ノ間也年々同也伴僧ノ

ユカハ当界ノカタヘヨセテ

ヲク也大阿闍梨ハ当

界ナラヌ方ヲ入テ母屋ノ

道場ハ母屋ノ兩壇ノ

中間ニ当テイルクチノホト

二自大師御時一フミテ

トヲル石アリ長者ノ外此ヲ

フマス此石ヲフミテトヲル

也タノ人ハ都テフマサル也云

聖天壇モ定マテ北ノ庇ノ

東ノ方ハヨリテ第二間

也如ハ一与醍醐一大旨

不違也如常勸修寺有兩界圖

五大尊ノ懸様、不動中、

余ハ互ニチカヘテカクル也

五大尊ノ懸カケ様ノ異本ニハ

不動ヲ為シテ初ト一面ニ降

軍大金トカク金年胎

一才

一ウ

蔵年ハ翻之一此ハ異説也

正応五年二月二十五日記之

定仙

(一行空白)

加持香水作法

長者随職位臈次着之文

口伝云与興福寺別當

依臈次上下一長者上ニ

下ニツク也長者臈次

高ケレハ第一ノ床ニ付也

臈次ヲトレハ着第二床ニ

也第三已下ハ論匠ノ僧

綱也論匠ノ中ニ僧綱ナ

ラ又凡僧ハソトニ付也但

僧綱ノ末座ニハ長者ノ弟子

一人付也為論匠ノ名張

等ヲ読ミ上ケンカ一也三論宗ヲ

タレカシ等何人、天台華

嚴法相等ト読ミ上ケル之ヲ一也

√超長者ノ床一至香水机ノ

前ハニ一スミヲ引ハ長者ノ

アユムアシアト也

√左右ニニノ床アリ論匠二人ノ

問答ノユカ也

√加持香水ハ内裏ニテ勤之

從真言院一 大阿闍梨モ

伴僧モ車ニテ參ル也最

勝王講ノ南都北嶺ノ

論匠等モ或ハ車或コシ

ニテ加持香水ノ所へ參也

別ノ役ハツトメ子トモ參テ

付床一也

問毎度ニ爾耶、初度許ナリヤ

耶答十四日夜許也

了一上人云後七日ハ大内裏ノ

真言院ニテ勤之ニテ五齋

会モ大内裏ノ官ノ聴ニテ

勤之一 国王ノ御聴聞モ無也

二ウ

二一才

三才

南北論匠等、衆会シテ論議ス

√道場莊嚴、母屋ノ前ス

三間ハマクヲ引也ワキノ

間二間ハ薦ラカク マワリハ

シラカヘ也板敷ニハ物ラ不ス

敷一護摩壇ニモ物ラ不ス

敷一ツ子壇也了上人説也

√太元法勤行処

官ノ庁ノ後長キ屋アリ名ヲ

内裏ト一國王其ヘ先ツ入リ

御シテ次獅子ノ床ノ有ル処ヘ

入御ス獅子ノ床ノ有ル処ヲ

名ク官ノ庁ト一初メ入リ御ス

長キ屋ニテ太元ノ法ヲ行ハ也

伴僧二十人

後加持ハ毎夜ニ在之

道場ニテ勤之

後七日モ其ノ定也

太元法ノ阿伽水ニハ大和ノ

国ノ秋篠寺カ阿伽水ヲ

凡テ用ル也太元ノ法ノ末

寺也太元ノ法時ハ其ノ寺ヨリ

取テ闕伽水一進也此ノ阿伽

井ハヲクルスノ常曉ノ入

唐以前ニ取阿伽水一時ニ

太元明王現ス井ノ中ニ

天魔カトテ恐之也渡テ

唐ニ習此法一時、見太元

明王ノ像一大和ノ国ノ阿伽

井ノ中ニ現セシ像也此ノ阿

伽井ノ水ヲ後加持ニモ阿伽

水ニモ用也

√後七日阿伽水ノ事

小行事ノサタトシテ取神泉

苑ノ水一以此水一為加持

香水ノ水ト一後七日ノ法ノ

阿伽水ニモ初メハ用此水一

也後ニハ別ノ水ヲ用也

三ウ

四オ

四ウ

小行事歎白ニ取之一小
行事者東寺ノ中綱也

(以下空白)

√真言院ニテ行スル法ノ事

後七日 晦日ノ御念誦、

十八日ノ觀音供ハ内裏ノ二

間ニテ勤之一也晦日ノ御念

誦ト十八日ノ觀音供トハ其

年ノ後七日ノ大阿闍梨

勤之一也云

√勸請發願事

日中、初夜ハ勸請也

声明也後夜ニハ用發

願一チトノヘテスル也如顯

教一四弘マテ作ス云

後加持ニハ音ヲキリウテ

ツクリ音ノヤウニスル也アト〃〃

ニ陀羅尼ノ地ヲツクル也

庵ト唱也未ハ無ニ

五才

四弘ミ滿テ陀羅尼ヲ一ツクル也

後加持事

五壇ノ法ノ壇所ニハ一々ニ被ル

置御衣ヲ一也五壇ノ法ノ

壇等ニハ有リ御出仕ムカヒ

マイラセテ後加持ノ作法ヲ

スル也每壇一雖有御衣一

有御出仕一故ニ五壇ノ

大阿闍梨、カワル〃〃〃一々ニ參テ

師前ニ一為ス後加持ノ作法一

也ハルカノ時剋也仏眼

金輪吉祥天等如シテ是一

二三十壇アル時モアリ一々ニ

被ル置御衣ヲ一其ハ壇所ニテ

大阿闍梨与伴僧一滿陀

羅尼ミチノ物ニハ非ス

五壇ノ々所ノ御加持ニハ陀

羅尼ハミテ物滿也与伴

僧一不同坐一也

六才

√官ノ庁ニハ獅子コマイヌ

アリ立獅子床一家一アリ

御齋会モコノニテ行也

四方ニ門アリ東ヨリ王ハ

入り給也真言院ヨリ四

五丁許アリ

(二行空白)

真言院事

√行後七日一屋アリ阿闍

梨房在之伴僧ノ居ル

屋アリ厨ノ様ナル物アリ

凶別在之

十四日夜与御齋会与

後七日一從官庁一内

裏へ引移事

官ノ庁ニテ行ナウ御齋会ヲ

第七日ニ与後七日一同時ニ

行之一但講師ハ答論議一

許也無別儀式一七日

六ウ

間也至十四日夜ニ引キ

移ス内裏へ一或清冷殿

或獅子殿ニテ勤之一隨時也

十四日夜興福寺別

当在之一顯密兼学ノ

人ハ行後七日一時、從真

言院一參テ官ノ庁へ

勤第一ノ問一也ヒクシキ也

聖宝僧正例也但人

不多一自昔一少々也

寛信道宝定濟

日記ニハ此等許也

七オ

十四日ハ御齋会ヲ内裏ニ

引移シテ内裏ニ有論議一

此時ハ結講也論議等

在之一此論終リテ加持

香水在之唯一夜也

加持香水畢テ大阿闍

梨ハ返ル真言院へ一也次ノ朝

七ウ

八オ

道具^ラシタ^ハメテ返東

寺^ハ也

√道具事

十二天 五大尊 八供養具

足^{高壇故ハ供養也} カナマ

リ等^ニ極^マテ在^ニ之^一 唐櫃^ニ

入^ニ之^一 朱^ノ唐櫃也^ニ 二合

ア^リ上^ヘラニシキニテツ^ハム也

大師^ノ五銛袈裟念珠

等在^ニ之^一

√道具^ラハ三繩カエイニカ^ハ

セテサキヲハスカエイ

者アカキ物キタル男也

√東寺^ノ一ノ長者、天台

座主、三井寺^ノ長吏^リ

此三人^ハ門^ニツナヲハルフト

キシメヲ引也ハテヌレハ

トキテカタ^ハハ付^テサテ

ヲク也^メ為^メ名門^一也 勸修

寺在^ニ之^一 醍醐^ニハ三宝

院、金剛王院^ニ在^ニ之^一

√五大尊此^ハ付醍醐次第^一記^ニ

到五尊前^一誦普礼真言^一

礼^ニ之^一 文^一礼^ニ之^一者唯問訊^{モシム}

許也

聖天供

行法如常^一文^一浴油行^ニ

供物等^ハ別^ニ承仕^レ此^ラサハ

クル也

八ウ

十二天供

如五大尊供^一至十二天前^一

各結誦印明^一問訊^{スル}許也

諸神供 如常神供

(以下空白)

√三日九時加持香水

此^ハ真言院^ニテ勤^ニ之^一也 十四日^ニ

此^ノ加持香水^ヲ引移^{シテ}内裏^ニテ

結願^{スル}也^但三百九時^ハ真言院^ニテ^{結願}別勤^之也

九才

九ウ

十二日ノ未明^ニ等文^ニ小行事ノ

用意也 机^{ヨセ}辺倚立^ツ楊

枝^{エタ}ノ枝^ヲ一 口伝云ヤナキノ枝^ヲ

ツクエニヨセカケテヨク也

又敷同枝於^ニ板敷^{置新敷上}

口伝云ヤナキノ枝^ヲヲシキニ

置^テ机^ノソハニ置也

先大阿闍梨到香水机^下一

取楊枝^ノ枝^一取楊^{ヤナキノ}枝^一持^{シテ}

立也 伴僧降床^一持^{シテ}

列立^ス面々^ニ取枝^一ムラカリ

立也 必^シモ無次第^一也

発願真言院^{ニテハ}般若音^{ニテ}

スル也 内裏ノ発願^{ニハ}不立音^一也

次以枝^一誦不動慈救呪^一加

持二十一遍、口伝云大阿闍

梨、伴僧、俱作誦慈救

呪^一枝^ヲスコシキフル也 乍立^一

勤之^一其後返本処^一也

一後七日ノ後加持^ハ向御衣^一作

之^一也 御身固^{カタ}也

了上人云平人ノ身固^{ニモ}略^{シテ}発

願^一作後加持作法^一也^云

一三日九時加持香水灑水

御ノ衣^ニ一耶了上人云無其義^一

後加持作法、向御衣^一作之^一也

三日九時ノ加持香水^ハ結願

後^ハ主上、入御湯^一令浴^一給

也、十五日ノ日マイル御力^{ユニ}

モ入之^一也何事^{ニモ}用此水^一也

別^ニ有^テ奉行^一此香水^{ヲハ}サタ

シテ進上スル也

一十四日ノ三時ノ加持香水残^一

時^一参^{シテ}内裏^リニ勤結願時^ノ

耶、了上人云三日九時ハ皆

真言院^{ニテ}結願也 内裏ノ加

持香水^ハ此^ノ外ノ作法也

一御衣^{ヲハ}七日結願後、進^ス内裏^リハ

十才

十ウ

十一才

耶、了上人云以藏人^一為御使^一

御衣^ハ被召^一也

一御衣^ハ以奉^ル置此御衣^ヲ戴御出

仕^ニ也七日之間、不易^ヘ唯一衣也

一御衣^ハ從内裏^ニ以御使^一給之^一耶

了上人云以藏人^一為御使^一送^リ

給^{ヘル}也何^レ法^モ爾也後加

持^ハ皆向御衣^一作之^一也

一加持香水^ノ々^ハ神苑^ノ水也

上^ニ記之

(二行空白)

√真言院^ハ王^ノ御念誦^ノ御持仏

堂也号^ス御念誦堂^ト貴人^ノ

御所々々^ニハクルマヤトリノ傍^ニ

ツクリツ^ハケテ御念誦堂^トテ

アル也院^ノ御所^ニハ御念誦堂^ノ

外^ニ亦有御持仏堂^一内裏^ニハ

御念誦堂^ノ外^ニ別^ニ無^シ御持

仏堂^一

十一ウ

√勸修寺日記云從母屋西

第二間^一傍北壁代^一有

一擦手半^ノ孔雀明王像^ハ佛^ニ願^御居^ハ佛^ニ二杯^一文^ニ了上人

云後七日^ニハスヘテイロイ給ハス

唯備仏供^一許也^云孔雀

明王、兩界^ハ御念誦堂^ノ

本尊也

十二才

(二行空白)

結願

十四日運^ト明日^ノ後夜^日中^ノ

時^ヲ一結願^ス卷数^ヲハ付^テ楮^ス立

曼荼羅^ノ左^ニ邊^ニ案文^置

伴僧^奏横^ニ挿^ス立^ス曼荼羅

羅左^ニ邊^ニ者真言院^ノ兩

界^ノ曼荼羅也後七日

法^ハ真言院^ニテ結願^シテ加持

香水^許内裏^ニテ勤^一也

案文^ヲ置^ト脇^ノ上^ニ者脇^下可

有机字一脱歟

伴僧奏横挿卷数楮者

文字脱歟伴僧ノ交名、八

宗ノ奏、横ニ挿ト卷数楮一

可書一也卷物也紙ニ一

枚也水原也綱所ノ役ニテ

計書ス也八宗ノ奏ト者

八宗ノ僧名帳也

(二行空白)

√起コト座ラ一經テ問答ラ一乞カウ子ノ問ヨリ

到テ机ヘ前ニ可訓

答ノ字ノ下ニ可有後文字一

經問答一後ト云事也論議ノ

後也乞子間者十二天カ

ケタルカタハ皆カウ云也南

殿作法立勤之一文南殿ハ

立壇也故立修之ラ也御

物イミノ御時ハ南殿ニテ被

勤之一也清冷殿ハ常ノ

十二ウ

御所也板敷也仍ヒサヲツ

ク也内裏ニテハ不具伴僧一

唯長者一人許至机前也

√此間五拈納ヲサム袍ウ胸ヲニ袍者一

法服也

√次以散杖入水唱加持各

二十一遍文唱者慈救咒也

唱ノ下ニ秘シテ略之一各者ニ

器故也

√灑コト御前一三度、二ノヒサヲツ

ク也次灑公卿等一時ハ

カタヒサヲ立也是秘藏ノ

口伝也

√藏シテ五拈ヲ於袖ノ中ニ捧サケ持シテ

両手ニ低レ頭ヲ閉テ目一可訓

口伝云法服ノ袖ヲウチチカヘ

テカサヌル也其下ニテ

五拈ヲ両手ニサケケテモ

ツ也サテ作ス観法一也

十三ウ

√如每朝護身法一者

後夜念誦也

√次經本路一復座一本ト

スチヲ返ル也

√次讀八宗奏一

√次論議 八宗僧勤トム論議

議一々々七也變多諸宗一

√次賜ハル禄ヲ一公卿等取御

布施一也座ニ引之一面々ニ

自身肩ニカケテ出ル也

長者ヲハ讀八宗奏一新

任僧綱、取テ之一カタニカケ

テ出テ從僧ニタフ也

八宗奏者八宗ノ僧ノ交名也

新任ノ僧綱ノ浅老マヤ役也

或加持香水以前讀之者

或説也 醍醐ノ定濟僧正ノ

時ハ加持香水以前也

(三行空白)

十四才

道場広マヤ爰

西ノヒサシ廂ノ南ヨリ第三ノ間マ可訓

注加ヘテノ角ノ間一計之一文

南ノ角ヨリ計ト之ニ云事也

√北向キナム立ツ息災ノ護摩

壇一可訓

同キ第四ノ間東シム向キニ立

増益壇一可訓

(四行空白)

勸修寺後七日

後加持段云次誦不動言

三百反許也 段末綺念珠

如常

√加持香水段注云件香水

主上入御湯令浴給云

入御湯一為メト浴シ御サム一見タリ

√先灑水、後ニ讀ム奏ヲ一説可訓

√又云大阿闍梨御衣加持之

後、立香水ノ桶ノ前サガク一捧ケ

十五才

十五ウ

牛玉杖^一等^文後加持者

御衣加持^{ト見タリ}

√入室弟子、乘車後^一文

口伝云同車スル也

√濟高律師寬意僧正

仁和寺法師

会理貞宗醍醐法師也

貞宗ハ般若寺弟子也

√仁王經五方曼荼羅事

五仏五菩薩五大尊五大

力等東方ノ具足^{ヲハ}皆東

方ノ一具ニ凶会、乃至北

方具足^{ヲハ}皆北方^ニ凶

会ス之^一仁王經ノ曼荼

羅ノ外懸之^一如後七

日ノ五大尊^一可尋之

(一行空白)

東寺無天曼陀羅事

尋云高野本堂ノ兩壇ノ

上在天蓋^一又有梵字^一

如ク天台流ノ^一東寺^{ニモ}有天

曼荼羅^一耶、有人云

了^一上人唯天蓋^ニ凶梵^一仍

唯天蓋也非如^{ニハ}天台ノ

流ノ天曼陀羅ノ^一也^云

十六才

付勸修寺真言院凶^一記之^一

坪^{ツホ(平瀨)}坪内五間也マワリハヘイ也

√檜皮葺^{ハタフキ}シクハ^ヒ檜^{ハタ(平瀨)}皮^ト

可訓^一√雜倉等也

√御厨子所^{ミツシトコロ}√此歲^{ココトシ}

此ノ御堂破壊仍裏^ニ古^キ

凶写之^一

付裏^{ウラ}ノ護摩堂凶

庇^{ヒサシノヤリト}ノ遺戸^{カヘタツミノトコ}壁^ヒ巽^{ツミ}ノ床^{トコ}

部^{シトミ}ノ母屋^{ハリチヤウシツ}ノ張長日

長^{ナカ}ノ床^{トコ}

付壇場莊嚴凶^一

√言海^{クシ}√參仕^{サンシ}√令^ム持^セ舍利守^{セリニ}

十七才

伴僧ノ中ニ入室ノ弟子也 √集(平)会(平)

√從僧(サフライイ也) √褰(カクマシラ)

威儀等ノ家ノ者也ソレハツトメス

公達ノ役也 √上リ着ク暁ニ

十七ウ

√大聖不動威怒王 ミセケ(平濁) シ

也文字ヲ分明ニイワスタ

カスカニイウ也勸修寺ノ別

日記云略本尊句一也

√七種真言中ニ仏眼許ハ

時々出ス音一余ハ但内々

念誦スル也

√初夜日中ハ勸請後夜ハ

指声也似顯宗ノ発願

四弘ニ伴僧チ(平濁)ウヲトル也

√各起座一行之兩護摩

師、聞着ク座ニ音ヲ阿

十八オ

闍梨打金一也

√南ノ坪ヲ為ス神供所ト

√心略ニ加唵ヲ胎藏時也而モ

後供養ノ時也

√金剛界年文心略ノサハク

リ無也其ハ如常ノ無クシテ

唵ノ字一誦之也然間勿

論ニシテサタモ無也

√綱所ハ侍也威儀師

從儀師也与三綱一同也

然トモ官カワル三綱者上座

寺主、都維那

十八ウ

√朝拝者年ノ始メ参スル也

√依顛(平)倒(平濁)ニマロヒテウスル也

√威從威儀師從儀師也

從儀師ハチト劣也同侍ナレトモ

チト下也威儀師ハ多キ也

綱所ノ主領ハ公門惣在

庁也

√令ム打幄ヲ幄者カリヤ也

アクノヤ也

√事了テ令ム参会堂ニ

会堂者御齋会ノ道場也

√朝拜ノ綱所、参スル朝拜ニ綱所也

十九才

ナル官也

威儀師從儀師事

威儀師ハ袈裟ハ九条赤也

着法服御齋会等ニ僧ノ

着座ノサハクリヨスル者也

一切ノ御願法会ニ奉行也

法務ノトモニ共奉也

二十才

大阿闍梨自動之一也

√威儀僧有数十人者共也

√令叙法印ニ法印ニナル也

√還着スル一ノ長者ニ並ヒナル

長者ニ也

√頭ノ弁藏人ノ頭也 朝隆

手力キノ朝隆也 弁官也

珍也 ナノリノ下ノ字ニカンナ

ノ一アルヲナノル一門也 宿曜師也

勘解由 勘解由也

然而トモカケイトヨム也

次官者勸修寺氏ノ初メニ

十九ウ

⑦【十三函一一一六】

〔表紙〕

威儀師ハ御室ノ侍也

從儀師ハ法勝寺ノ公門也

√参仕ス近衛殿ニ近来

小路ニ内裏ノアリケル歟

(以下空白)

二十ウ

ken a

五秘密

仙芥集勸修寺五之内

〔表紙裏〕

五秘密法私抄

〔本文〕

五秘密

十七卷抄中出流々道場

觀一印相ハ今次第ノ前段

許也無後段印相一次五

秘密三摩耶印言可ト結

誦之ニ云テ不出之ニ五秘密

法復四卷抄無之ニ忍濟

三卷口伝抄無之ニ本四

卷抄雖在之ニ道場觀

無之ニ印相等モ不委ニ石函

中在之ニ印相委細也

一才

以之ニ明^{メテ}之ニ記也但道場

觀無之ニ五十卷抄道場

觀無之ニ印相委細也但不^ル

明^{ラメ}一事在之ニ十卷抄

道場觀無之ニ印相委細

也此モ不明^メ事在之ニ今

勸修寺諸尊法中ノ次第

道場觀在之ニ印相不審

也以石函并五十卷抄

明^{メテ}之ニ記也

五秘密法

先四菩薩持物欲菩薩持弓箭

觸菩薩抱^{イタク}金剛サタ今道

場觀ニ抱^{イタク}三昧耶之体一者其

義也愛菩薩持摩竭幢^一

行法之中ノ印^モ此菩薩印ハ

結摩竭魚ノ首^ヲ也慢菩薩

二拳当^{アツモ}胯^ニ一恵什阿闍梨

十卷鈔中ニハ不二拳一当^{ツル}

一ウ

左右^{モカ}膊^ニ也 醍醐薄双

紙道場觀中^{ニハ} 此菩薩持^二

金剛拳^一 文五十卷抄ノ中^ニ

此菩薩以^二拳^一当胸^ノ

同薄双紙^ニ 此但下^二出印^一

処^{ニハ} 当膊^一 両様也^云 此四菩薩

印兩段也 乍兩段^一慢菩薩

印当膊^{モカ}^ニ 也 然^ル 五十卷抄ノ

尊形ノ図^ト 薄双紙^ト 当^{ツル}

胸^一 定依本説 歟 未檢之^一

付坐位^一 勸修寺ノ道場觀^ハ

自前^一 始之^一 前右後左也

欲^ラ 為^シ 一 慢^ラ 為^ス 終^リ 一

kha 慢

su on ma 石函^{ニハ} 同此坐位^一 也

hā 觸

十卷鈔図サタノ右ノヒサノモト

ヨリ始之^一 欲菩薩ノ右ノカタヨリ

ウシロヘスコシメクテ第二菩薩^{アリ}

二ウ

始之^欲 菩薩^{右ノ} カタ 觸^{菩薩} 左^ノ

ウシロニ愛菩薩アリ左ノヒサノ

モトニ慢菩薩アリ前^{ニハ} 無

菩薩^一 五十卷抄図欲菩薩^ハ

左ノ後^ニ 在^之 觸菩薩^ハ 右ノ

後^ニ 在^之 愛菩薩^ハ 左ノヒサ

ノモトニ在^之 慢菩薩^ハ 右ノヒサ

ノモトニ在^之 是^ハ 四菩薩忽^ニ

ウチノカヘタル也 此^モ 前^ニ 無

菩薩

計里計羅^{ケリキ} 可読^ト 付印

相^一 有兩段^一 前段五種印^ハ

無別子細^一 次結^テ 右ノ金剛

サタ大智印^一 誦^{シテ} 根本ノ真

言^一 曰^ク 可訓

右者指上ノ図ノ中台、若^ハ

道場觀ノ金剛サタ也 為^{タル} 行

者ノ右^一 故也 此印^ハ 金剛界

羯磨会ノ金剛サタノ印也 但

三才

金剛界ニハ左拳安腰側一今ハ

置於胯一文腰側リト胯ト

異也云真言ハ似大樂不

空身真言一非全同一也

又非羯磨会金剛サタ

真言一別真言也云

次欲金剛印金界ノ愛

菩薩羯磨会印也真言ハ別也

次計里ケイリ計羅キヲノ印、准前

印一者金剛拳義也

金界ノ王菩薩羯磨会印也但王菩薩

印進力鈎次マ詔文

今ハ無其義一此異也真

言ハ全異也

次愛菩薩印准前者金

剛拳義也同金剛ノ羯

磨会ノ幢菩薩印也真言

全異也次慢菩薩印

同金界羯磨会ノ嬉菩薩

印一真言全異也

已上羯磨印者印許羯磨

会印也

後段五種印

即結金剛薩埵三昧耶印文

薄双紙注云極喜三

昧耶印也云真言モ爾也

但金剛界ニハ三摩耶斛

蘇羅多薩但鑿文

今無三摩耶斛ノ言一許也

如独股金剛杵一者私云

二少マ指合シテ立ルト二大指

合シテ立ルト是ハ独股ノ左右

頭也ヲシノケテ如クトコノ形一

可結之一スクニタツヘカラス云

計里キ計羅三昧耶印

准前印一者会ニ結前印一

二大指ヲチカウル許也三昧

耶会ニ無此印一又真言モ無

四才一

四ウ一

之一定本軌中可在之引之

愛金剛印准前印者

以次キ前キノ印一作此印一故

也、進力互ニ相掘忍願一

可訓五十卷抄、十卷抄、

用此点一也相握忍願一者

十卷抄中ニ掘ト握ト二ツノ

異本在之一今マノ勸修

寺ノ次第ハ握字也握ノ

字尤モ可然一也相ヒ握ニ握ト忍

願一可キ読ム也

石函中ニ此印ニ引合テ大樂

軌一結之一也彼軌云前

印以ニ頭指一互ニ鉤フト中指一

イヘリニ中指ヲサシヒロケ

テ以ニ頭指一ウチカラミテ

二中指ノ頭ヲ前ヘ左右ヘ

サシイタス也石函住云私云

二中指ノハシヲ二頭ヲ指

五才

出セ是マカン首ノ印ナリ二頭

端シ彼ノ魚二目也文進力

並ヘ合テ如眼勢一文進力ノ二

字伝写ノ誤也五十卷抄

注付ニ禪智歟文十卷抄ニ

爾也禪智並合如眼勢一

可シ如ナル是一並合如眼勢一者

以ニ大指ノ端一指シ合スル二頭

指ノ端ニ如シト眼勢一イヘリ如是一

可キ結一也

但大樂軌ニ並大指押ト頭

指側リイヘリ以ニ大指一押ス

二頭指ノ上ヘ如ト眼勢一不ス云ハ

彼軌ハ以ニ大指一可キ押ス二頭

指ノ上一也少キ異也見合テ

諸ノ書釈等ヲ如是一決之一

從古一此印、難決一十卷

抄注云此印可シ見合テ

普賢軌作ル之一文五十卷

五ウ

六才

抄ノ注モ爾也難決一故

云爾一也五十卷抄注云

表摩竭相一也又尊像ノ

図ニモ此菩薩ノ持摩竭魚ノ頭ヲ一也

石函抄ノ裏ニ引軌文一列

此菩薩印一次引合タル大衆

軌ヲ一也彼云大衆軌云前印

以ニ頭指ヲ一互ニ鉤シテ中指一並

大指一押頭指ノ側リヲ一如耳一舒

二無名指一相合ス私云ニ中指ノ頭ヲ

指出モ是マカン首ノ印ヲ已上注石函ノ中ニ在之

如耳一者並タルヲ大指一且クト耳ノ一云也

非ス云ニハ標スト一耳ヲ一私云開テ二頭指一

付ル左右ノ頭指ノ本トニ歟指シテソレヲ一

云耳ト一歟此義不爾一並ト大

指ヲ一イヘリ開タルニ非ス雖並タリト

大指一且ラク似タルヲ耳ニ云也非標

標摩竭ノ耳一忍願指ノ前ヘ

左右ヘサシイタス是ハ標スル摩

六ウ

竭ノ目ヲ一云

諸尊法ノ外ニ理明房、記五秘

密次第一其中ニ列愛菩薩

印一云准前印一進力互ニ相ヒ

握テ忍願ヲ一進力立合セテ如眼

勢一文進力並合者大衆

軌ニ得意一合アフス進力並

者以ニ頭指一忍願ヲウチ

カラミニテ並タルヲ云也合スト

者ニ大指端シ指シ合セタルヲ云也

大衆ノ軌ニ准テ如ク是一可得意一

松尾次第ニ如理明房記下注之

也此上者無別子細一也云

付印相一有兩段一初段ヲハ

名羯磨印一次段ヲハ名三

昧印一是本軌中ニ如ク是一

名タル歟理明房ノ諸尊法

中次第、如是一分テル也云

薄双紙云愛金剛印

七ウ

如以前ノ計里計羅印二但

二小指二無名指直立合テ

二大指並立テ二頭指、握ル中

節一又握上節一指ノ端相柱(又、又、又)テ

二大指ノ端ト与二頭指端一

相合文今ノ次第ノ印相ト夕

カヘリ云流々習也ト云

(以下空白)

松尾五秘密次第云准前

印一進力交テ相握忍願一

進力並合テ如眼勢堅戒

方一相合ス檀惠亦然文

理明房次第依此歟

松尾次第内題注云金

剛極略文如此注一者依

金剛界次第一被ルト託ト記之見タリ

次第中成身会了羯磨

会了三昧耶会了

供養会了文本軌中

說此四会一歟云然間

今次第中二羯磨会三

味等者金界ノ諸会ノ

義也云

(以下空白)

九ウ

八才

八ウ

⑧【十三函一一一七】

〔表紙〕

kenn a

大元明王

諸尊法

□七卷抄記之

□□□勸修寺
五之内

九才

〔表紙裏〕

太元明王勸修寺付諸尊法并十七卷抄記之

〔本文〕

太元法諸尊法付勸修寺太タ(平濁)太タイ(平)

太子ト云時ハタイトヨム也

大元怒使印

以左右手一急作拳内ニ

怒イカテ三度ハ齒ヲ叩タイ齧カム下

唇一以ニ手ク捲ク着ヘクヘニ

□□ニ一此大將身印タリ

□□可訓ク捲ク借音字也

□□捲字ナル借此字音也

□□此等ノ字サ不可説ハ

□□□□□□□□□□右ノ

□□捲捺着亦也

□□印私云可用上訓

此次第中ニハ以此二印一為根本

□□十七卷抄中ニハ八ヶ印

□□印五ヶ印、以此等一為

根本印一其中怒使印ハ

五ヶ印中ニ第一印也

八ヶ印六ヶ印中ニハ無之一仍

此次第中ニハ以五ヶ印中ノ

第一印一為根本印一也

醍醐次第中ニハ根本印外ニ

二十八部、降伏スル惡鬼一印ニ

用之一也根本印ニハ用八ヶ

印一其中ニハ無此印一別シテ

二十八部、降伏惡鬼一印ニ用也

降伏惡鬼一印ノ故ニ別ノ用ニモ用ヒ

之一根本印ニモ可用之一仍

五ヶ印中ノ第一ニ別之一然

間此次第中ニ用根本印一也云

大元法付十七卷抄記之

□□寺諸尊法内次第

□□勤行作法道宝次

第 a i bha ku □

□□次第雖有根本次第今

一ウ

□□□□略□之文 仍略

二才

□□□□□□□□臂四臂ハ□

道場觀二六 觀明王像四面八臂

像也已上

√□□十七卷抄中二三十臂像左右二

□□像 八臂像、三尊之懸

其外十二天壇 聖天壇在

之√醍醐白表紙十五卷

雖列次第一無道場觀一

石函勸修寺二七 無道場觀一

勸修寺十七卷抄十二卷

委略細敷作次第一也 道場

觀有二一觀金剛界大日一

二二八 四面八臂像、或四臂

或三十臂隨時利未亦衆生一等記之

壇第一ハ直經記之 第二ハ賢覺記之 四面

八臂三十臂 四臂已上三體ヲ

奉懸也 是一樣也

其外六面八臂、三十六臂二

臂、此三ハ不懸一也下二

□出懸ル此三面一

本尊加持二六 智拳印二明

王ノ小心呪用之一次二六八ヶ

□□金剛合掌為始一預

□□□印□□次六ヶ

□□□□次□□用□□

□□也√種子 a 三形

大刀智拳印常曉伝

□子 van. 三形大刀智拳

□定海伝 種子 a

三形大刀智拳印本呪

良雅伝 同常曉一已上

明王ノ道場觀二付テ用ト之一

種子 van. 三形塔智拳

印二ハサヲタト van. 次明王ノ

本呪、是ハ金剛ノ大日ノ道

場觀二付テ用ト之一見タリ

√正月八日後夜始之一十四日

三才

三ウ

酉時結願、非如常一常ニハ

初夜ニ始シ之一第八日ノ中日ニ結願ス

之一√神供ハ常ニハ初中後也

是ハ七日間、毎日一勤之

常曉、從唐一向日本一投幡一

アキシノッアカ井ノ傍ラニヲツ、

仍アキシノニテモ七日間神

供勤之

□摩ニ壇息災ニハ大日ヲ

為本尊ト、yan輪部主

不動調伏ニハ不動ヲ為本

□子釵部主降三世、

□□□東方□□□□□

□□□調伏□□□□□

□益一也息災ノコマ壇ハ

向北一調伏コマ壇ハ向南一

□アチコチチカウ也

□□次第
金剛サ夕 龍猛 龍智

四才

不空天已上惠果 惠応

文璿大已上常曉 寵寿

元如命藏舒隆 元忠

泰舜 泰幽 円照 誉好

妙鑑 加中 仁聚 泉樹

法円 信源 源慶 仙慶

定慶已上本朝

誉好阿闍梨 權大僧都元杲

加仲阿闍梨 僧正仁海

依道宝僧正抄記之

源慶闍梨 淨秀入寺

信源闍梨 進恩闍梨 仁海

僧正仁海 成尊 範俊 良雅 定海

義範 僧俊 慶雅

權僧正覺源 定賢 勝覺 賢覺 宝雅

宗命

□□抄記之

五才

四ウ

□□—□覺—□覺

宝心阿闍梨

宗命阿闍梨

権少僧都—寛宗

□□道宝抄記之一

自理性院
門流伝

√壇様 先一樣也

四面八臂

本尊

本尊三十臂

本尊四臂

護摩
調
方
回

大壇

大阿闍梨

東方

護摩
慈
方
回

委細図在十七卷抄

五ウ

√末^二出^ス懸^ル三本尊様^一様也

本尊面二臂面者二面歟

本尊^{四面}雅宝口伝^二三十六臂^一云へり

本尊^{六面八臂}

護摩壇^八無相違^一云

勸修寺道宝次第中壇

向東^一中壇左右ニコマ壇アリ

本□

□vam 三形釵輪 此時忿怒像

ナルヘシ

種vam 三形大刀 此亦忿怒像

ナルヘシ

□vam 三形塔 此時^ハ大日尊

□□□□

六才

□□□□□

種ah 三形大刀

有此異^一私云依三形^一用^下

道場觀^一見タリ

□□hum 字^一

十七卷抄引宗秘抄云今此

法^ハ古賢雖習^一不極源底^一

或知種^二不知印言^一或知

内^一不知外^一雖然^一悉有先

哲^一譽^至印相以伝八印^一

□□書キ出ス之^一

□□ノ印ヲトイテヤカテ左^ラハ

□□□□□□□□□□アヲケ□□

□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□左右

□□作此印^一也預立者立ツル

□□ノ釧印^一名也釧者即右、

□□印也輪者左ノ印也左、

□□□□ニ在リト怨家^一觀シテコノ

マ□□□□ヲ鎮シマワス也怨家^ヲ

ニカサヌ義也非ス殺^ス此^一義ニ釧

印ノサキヲ怨家^ニアテサル

也父^カヲサナキ子^ヲシハル心地

ニテマウリテ鎮シメクラス也

住^{シテ}大慈大悲^ニ調伏彼惡^一心^一也

此法調伏ノ法^ノ故^ニ向南^一也

私云十七卷鈔^{ニハ}仍自南^一始^一之^一

打^ト之^一云也自中指^ニ打^一之^一

誦^一打^ス八反誦^之八反打

八才

之^一此後結一切印^一皆怨

家在^{リト}之^一觀^之ヲ^一スヘキ也

左ノ八幅ノ輪ノ上^ニ置^テ怨家^一

以右釧印^一鎮^シ之^一メクラス也

安祥寺僧正兼惠ナク^ク〃

此印ノ事^ヲ口伝^{シテ}云輪^モ智

也^一モ智也此空智ノ上^ニ置^テ

□□家ノ惡心^一鎮伏^{スル}之^一義也^ト

□□怨家^ハ為^ニ朝家^一毎年^ニ

行^{セハ}之^一指何^一耶、答〇(云)惣^{シテ}指^ス

□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□

□□□□取分可指□□□□

此法^ハ唯第七第八ノ印、秘印□□

秘口伝也^上預立釧輪

□□難存知^一大政僧正^{云觀玄}

立^タ釧^ヲ與^ハ輪^ニ可訓^ハ音

同預^ニ也故用預字事^{アリ}

泰舜ノ門流用与字也立

九才

釵^ハ右印也 与輪^ハ左印也

已上被仰也私云与義如何

師云不知 私云置^{テノ}義也

以釵^一立^タ置^ク輪^ニ義也^云

私義也^{可^ヘシ尋^ヌ}

私云預者律^ニアラカシメトヨム

也サキタツト云義也サキタチ

テ立^タ廻^{メク}釵^ラ怨^ラニカサ(平濁)レ

輪^ノ印^ト云事也私義也

可^言尋^{或人云与^ヘ立^ツ釵^ラ輪^ニ}

可訓与者触義也太元惣

印也余^ハ非惣印^ニ

理性院宝心抄裏書云

□□之^一与立^ハ釵輪^ノ下^ニ置

□家ノ姓名^ヲ一与立^ノ意是也

□□^ハ将門降伏之時□

□□等、皆立^ツ与^ハ謂^ク

□□置□□□□□

□□□□□十□□□□□

九ウ

□定仙云千幅輪印言者

□□卷抄六箇印中第□

□也以右大母指一捻中元

□□ノ中節ノ背ノ上^ヲ一状如跋

折羅印形^{一文}

又云已上六種法契用小心

呪^文仍此印^ニ用此明王^ノ

小呪^一也指此印言一千幅

印言^ト云也已上

白表紙裏書云

南無^{ナヲホ}多律^{リツ}、多勃^ホ(上濁)律^{リツ}

婆羅勃^ホ(上濁)律^{リツ}柘頡迷^{シヤキンメイ}、

柘頡迷、但羅散淡^{サンタン}、

鳴塩毘^{ヲエンヒ}(上濁)、莎訶^{云理性院日記ハ云四天王小心呪ト}

亦云結護呪

学者尋云預立釵輪印、

從南^一始^テ指^{セト}之^一イヘリ如

十七卷抄^一中壇^ハ向東^一イヘリ

如何私云可向東^一但印^{ヲハ}

十ウ

□□□サキヲムネニヨコサマニシテ

□□□ハ向南^一也仍自南^一始^テ

□□□スヘキ也醍醐次第^{ニハ}

□□□何^レノ方^ニ不^ル云^一也別^ニ堂

□□□ノ日記可^一也

□□□□□背[□]□□□□

□□□□□災^ノ□□□□□

□□□アリ向北^一即向中壇^一也

□□□コマ壇^ハ中壇^ノ左^ニアリ

□□□南^一即向中壇^一也十二天

壇^ハ聖天壇^ハ調伏^ノコマ壇^ノ

次^ニアリ如中壇^一向東也

取意

付勸請句^一有子細^一

本尊大聖^{トテ}ウメキテサ

テトムル也分明^ニ不唱^一タ^ハ

ウメキワタイテ本尊^ノ名^ヲ

秘^{スル}也五大尊^ヲハタ^ハトナ

ウル也雖爾^一得心^一人^ハ其^モ

十一才

分明^ニ声明^ニセスマシテ余

秘法等^ハウメキワタス許也

分明^ニ声名^ニセサル也^{了上人説也}

四天王結護^ト云大事^{アリ}其^ハ

自^ライカリテミハヲタ^ハキヒサ

ヲ打等也承仕^ニミセサル也

願上人説也

□地事

□七卷抄云本地^ハ様々也

□□□觀音^ト習也百

□□□界^ニ百億^ノ太元イマ

□□□□□□□□□□

□□□□□本[□]様[□]

□上十七卷抄

□常曉許^リ從^リ唐^一相

□^{スト}習伝^ル処^ニ種子^{vanj}

□□千輻智拳印言

結護神呪

已上大師御請來秘説^文

十一ウ

十二才

所ハ詮一常曉ハ委伝之ハ一歟

太元法事

太政僧正云白河院尋諸

方一御ス預立鈿輪印

事也勝覚モ不ト知一答之

範俊不知之ハ一答云

又申云良雅ニ悉授之ハ一

了、良雅授定海一々々

授元海一如此一次第シテ下ル也

台皮籠中具書極

多キ也云 同人云源運

宗命行之一後相伝之一歟

勝覚一也彼流人会云

立鈿輪法ト

仍不知一答、サル

後ノ

不之

太元阿闍梨、即別

也東寺ノ長者ヲ繫

十二ウ

人ハ不勤太元別当一又

非大師将来法一云云上

私云大師又伝此法ヲ一御ス

種子三昧耶有之一唯不

委細一御事也又義範

覚源ノ自両方一勝覚伝之

勝覚ヨリ賢覚伝之ヲ

大政僧正云定海理性房ヲセメ

テ云付太元法一勝覚

不習之一仍我モ受良雅一

汝習タリト太元法一名称ス習

何人一耶理性房答云習タリト

ツシノ少入寺ト云者一云

浄秀入寺トテ在リ醍醐一

モノ也此人所望ルニ太元別

不叶一仍後、三井寺法

ナル也龍ノヒホ(平瀾)シト云モノ

置テ太元壇一行之一浄

伝之其モ在リ三井寺

十三ウ

□□□□別□□□□^{フク}

十四才

將軍也石山ノ七集ノ胎藏

□□□□院□□□□

□卷ノ毘沙門天下記之給也

□□藏有^ハ理性院宗命

□元事委細也引可見^一也

□子也相承^{シテ}承久時^ハ別

(一行空白)

□也依勅令^ニ調伏ス關東^一

□□□^{タル}心^一人^ハ高野ノ金堂

雖爾^一身許^ハ陳^シ開テタス

□□□□□□□□

十五才

カル然而^{トモ}別当^{ラハ}メサル^ハ□

□□堂ノ時□□□□

其後^ハ寬海法印、兼

□慶賀門^ヲトヲラス

惠僧正、相承^ス兼惠他界

□堂ノ時トヲル門也太元

後、寬伊法印當時相承^{シテ}

□当^モ繫ル^ニ長者^一心人^不

之^一勤^之也^云

勤^之也^云

√定海雖伝良雅^一不勤太

十四ウ

(以下空白)

十五ウ

元别当^一勤仕後七日^一開

十四ウ

(以下空白)

故也勤東寺長者^一人^ハ

十四ウ

不望大元别当^一也然間

十四ウ

定海雖伝此法^一不勤^{ツトメ}別

十四ウ

当^一仍賢覺法眼勤^之也^上

十四ウ

大元明王者毘沙門天下^ニ在

十四ウ

八大將軍^一其隨^一也アタハク

十四ウ

〔表紙〕

ken a

⑨【十三函一一一八】

求聞持法口伝

仙芥集_{勸修寺五之内}

〔表紙裏〕

(空白)

〔本文〕

求聞持口伝

儀軌云屈其頭指_一与大母

指_一相捻状如捻香_{一文}

注右手結護身印者捻空

風_一余_二旨_三ヲ_ハニキル也_{儀軌云此是虚空}

_{藏菩薩如意宝珠成并一切事印云云}√即作手

印_一掌承浄水_一者是_ハ左

手也捻空風_一申余三指_一

也是云手印_一也

阿伽桶_二桶_二取水_一一桶_ハ為

仏用_一一桶_ハ為手水洗面_一

也是為人用_一今以人用

水_一如是_一スル也但付之_一有

口伝_一掌中_ニ移明皇天子

影_一飲之_一也コノタメニ東

ハレタル処_{ニテ}行也入道

場如是_一スル也明者皆虛

空藏真言也

√行尊前_一至心_一礼_{シテ}三尊_ノ所

取去覆面_{一文}

御作云次往詣像前_一至

心_一拜礼_{シテ}面本尊_一半跏而

坐_一、挙去覆面_{一文}

今三尊者准御作次第_一

可本字_一三字損歟一義

云呼三宝_ニ云三尊_一歟

又所字得心_一ニクキ也

儀軌云次応_シ往詣像所_一

至心_一礼拜_ス面_一向菩薩_{一文}

一才

一ウ

今三尊所者儀軌ノ像

所ノ所字歟 若爾礼三

尊所可訓歟 但三字

損歟御作菩薩ノ儀軌本尊ト

云故也

√ 灑淨散丈(マ) 勸修寺本ニハ可
用柳枝 長等

一尺六寸サキヲハ作宝形ニ三
僧ハ葉云今本ニハ不爾ニ必
不可用柳ニ歟 勸修寺モ
蘇ニ用葉也

√ 灑諸供物并壇及近壇

之并ニ自身ニ近壇ニ

者壇ノ辺也 第二第三亦

如是者如是ニ二度スル也

云 儀軌云灑(シ)塗香等ハ諸

供養物、并壇及近壇

之地ニ今脱地字一

√ 木壇者下云別シテ一方ノ木

曼荼羅ニ下至一肘等文

口伝云方ノ板ヲ大壇ノ中心ニ

ヲク也 香木ニテ作也 当

二才

時ハカヘノ木ニテ作也 唐土ノ

カヘト者日本ノムロノ木也

是モカウハシキ故也 此木壇ヲハ

地ト習也 或ハ本尊トモ習

仍阿伽器等ヲハ木壇ノ上ニハ

不ル置一也 (図①壇図)

√ 注次淨三業明次普礼

明文 此作法ハ以一印一明一

勤行スル故雖不可受此印

明一此ニ印明ハ五悔ノ具足ナル

故不苦一也

√ 本尊三形事

或宝珠 或釵形、世間云

福德ニハ宝珠、智恵ニハ釵

口伝云俱宝珠也 宝珠

通一切一故也

√ 道場観御作云形像真
身不ニ観文

作護身印当心一開目一庇

想一文 開字以余ノ常喜院

二ウ

三才

本^一交^{ルニ}同爾、仍地体常

喜院本此字損歟

勸修寺本閉日文仍可

閉字^一此言無儀軌

道場觀專依儀軌^一但儀

軌^{ニハ}不出種子三形^一此道

場觀^{ニハ}出^シ加^{タリ}種子三形^一

入唐以前^{ニハ}Prati字宝珠

入唐以後^{ニハ}Pr字宝釧也

宝釧者釧^通遍^是鐵^名也今^ハ

依入唐以前^一也護身法^ハ

我身ノ莊也道場觀^ハ

為^メ奉^カ請^シ淨土諸仏^一堂

莊嚴スル也為請彼仏^一彼

仏ノ本誓^一、種子羯磨等^ヲ

莊嚴シヨク也次正^ク奉請

淨土仏^一引入莊嚴土^ハ也

一切^諸尊法等如是^一可得意^一

ヤカテ以道場觀^一為生身

仏^一人^{アリ}誤也

誦明二十五返^已文口伝云

頂在二十五仏^一可三十五反^一

三字点脱歟

雖爾^一常用二十五反^一也

注^一說闕伽花座之次等

口伝云不可用之^一天竺^{ニハ}

ハタシニテアルク礼也仍客

人^{ニハ}先令洗足也密教

以此礼^一先洗諸仏御足^一也

左作手印^一者捻空風^一余

三指申之^一也

次右同^{シテ}左印^ニ合^{シテ}捧^ク可訓

想^{チヤク}楨^一（平）上^一蓮花以之^一為座^一文

楨字玉篇云固^キ木也冬

葉不落又云カケフタ也

又短^{ミシキ}板也日本相伝云カツ

ラノ木也或云日本^{ニハ}此字^ヲ

ハリカタトヨム也^一カツラノ木

四才^一

四ウ^一

者儀軌云若欲如法ニ持テ

此多羅尼求聞持者、当

於絹素白麤一或淨板

上ニ先ツ画テ満月於中ニ画

虚空蔵菩薩像一其量下

至不減一肘一或復過此一文

此中淨板者以カツノ木ヲ

ミソ木トシテカツラノ板ニカク歟

√一義云楨者ハリカタ也多分

本尊ハ用繪像一故ニ繪像ハ

ハリカタニテカクユヘニ今ハ雖

無ト帳形一云ハ楨ト歟モ木像モ

マシマスト云ヘトモ且付多分一

云爾一也山門三井東寺

皆以此義一為吉一

一義云楨字クキトヨム也

茎ヅキノ上ノ蓮花ト云事也一図②楨の図一

勤サウ僧正奉授大師一

本尊ハ蓮花下ニクキヲ

カク也彼御本尊ハ興福

寺ノ聖院ニ現今在マシ也

世コソ拳テ云悉地成就ノ本

尊ト也一繪師西金房筆

也

此義秘蔵義也

最上秘蔵義云楨字ハ

印也ヲシテノ義也ヒト

ヲシテフタニヲシテト云事也

其故ハ智証大師、自リ唐

土一持テ来リ御ス御日記ニ云

不動像一楨、觀音像

一楨ト云也是ハヒトヲシテ

ノ義也ハ昔奉ル摺一其ノ

義ニテヒトヲシテト云也然間

楨字印ノ義也

儀軌云楨上蓮花以之一為

座一復相菩薩来至此花一

付之一義云此護身印ハ宝

五ウ一

六オ一

珠也非花坐^一以此印^一為座^一

者唯設^{クル}宝珠^ヲ許也無^一

坐義^一仍宝珠印ノ上^ニ觀

蓮花^一也指此蓮花^ニ云積

上蓮花^ト也以此蓮花^一為^{スト}

御坐^ト云事也

是^ハ理性院賢覺法眼

義也已上ノ義中以此

義^一為最上義^一云

√然作塗壇之勢^一文口伝云

以此^ニ木壇^ヲ本尊^ト得意^一也

塗香^ハ可奉塗本尊^一故也

塗香者和水^一塗本尊御

身^一也仍如法經ノ十種供養

中^ニ塗香者和水^一子ハ(平濁)シ抹

香者唯末^{セル}許也燒香

者正^ク火^ニタク^也

√運心供養注或普供養

明任意^文口伝云必不用

六ウ

此印明^一唯用護身印明

許也√本尊加持注云

右拳風空作宝^一口伝云

此印殊勝印也故雖一印^一

必此法成就^{スル}也此印者

無所不至印ノカタマタ也

三指^ヲカ^リ印云ヘトモ三弁

宝珠印ノカタマタナル故^ニ殊

勝ノ印^ニテ此法成就^{スル}也

高野正覺房七度雖勤

行^一不成就^一高野ノ湯屋^ニテ

人ノ中^ニテ歎^テ云儀軌中三相

若無法不成就^一復応更

從初首^一而作^{コト}乃至七遍

縱有五逆等極重罪障

亦皆銷滅本法定成就^文

本文如此^一我不成就^一

理性院賢覺法眼聞云

不聞秘印^一如不行^一云仍次

七才

七ウ

至彼宿坊ヒサマテアユ

ミテアマタリニハイツイテ

居^{タリ}尋聞^ニ皆承也法^ヲ為

奉受也

仍隨喜^{シテ}授之^一即無所不至

印也印中穴三弁室

珠也左右ノ穴上^ニノ穴三ツ

ノ宝珠也明^ハ如常^一虛

空藏明也^一是理性院大

事也

五大虛空藏法^{ニハ}結五古印^一

皆作宝珠形^一明^ハ誦^ハ五

智明^一是秘印也此法^{ニハ}不爾^一

私云行海流求聞持結塔

印^一誦五智五^ニ

正念誦

一日^ニ誦^ニ一万反^一百日^ニ百滿^{反也}

此法^{ニハ}正念誦^ニ滿百万反

也正念誦間字輪觀、本

八才

尊^ト我^トニ^一反觀^シシタ^クメテ

誦真言^一反^一此時念誦^{マヤ}

タマ^一コス也如是^一日滿^一万

反也

散念誦

口伝云散心念誦也不入觀

法^一不入百万反数^一勸修寺

次第^{ニハ}供養花投木壇^一

也^云以後無別事

每日時事

儀軌云或^ハ一日^ニ一上或^ハ一日^ニ

兩上、從始^一至終^一每如初

日^一遍數多小亦如初上^一

不得增減前後通計^{シテ}滿

百万反^云口伝云^一上者

一度也^一兩上者兩^ト也

雖爾^一意樂巧^{ニテ}三時^ニ

勤^{ムル}也^一不得增減者^一日^ニ滿

一万反^一不增減^一云事也

八ウ

九才

又三時中、互^ニハコヒ（平濁）テ

スル事無也

牛蘇加持事

口伝云以蘇散文^{（マヤ）}一加持之^一也

クワノ木也東^ハ指^{タル}枝^ノ

亦南^ハ指^{タル}一切^ニ切也

東^ハ増益^ノ義、南^ハ宝

部^ノ義也長一尺、フトサ

小指ノホト也カワヲムカス

サキヲハ作宝珠形^一或

作釵形^一常^ニ人^ニ云祈福

德^一作宝形^一祈智恵^一

作釵形^一此義不爾^一俱可

作宝珠^一々々施一切徳故也

√当日月蝕日等^一文^一口伝云

日月蝕日、満百日^ニ様^ニ始^{ムル}

也仍始^{ムル}日^ハ不嫌善日^一

悪日^一也可^キ蝕日満ス百日^一

様^ニカソヘテ始之^一也

√本尊木壇等移露地高

顕浄処^一等文

口伝云結願時ヲコナウ時、

満ル^ニ一万反^一今少^キ残^{シテ}不^レ満

一万反^一下^テ礼盤^一此壇ヲスコ

シモ不動^一人アマタ多^{シテ}カイ

テ移之^一也至心念誦不限

数反^一者至正念誦^一残^{リテ}

誦^シハテ^レ其後^ハ不限反

数^一待蝕現^一也蝕顕現

時、イソイテ置正念誦念

珠^一取散念誦念^{（マヤ）}誦^一早

々^ニ誦^シ了^テ留^一一字呪^一也

為蘇加持^一也

一説云結願時^ハ皆道場^ニテツト

メ了^ル也^一至^{マテ}散念誦^ニ

悉ク勤^メ之^ヲ了^ル至廻向皆

終也其後移壇^一為蘇

加持^一別^{シテ}一時勤行之^一至散

十才^一

念誦「待蝕」也蝕現^{セハ}留

正念誦「早々散念誦^{シテ}留

一字「加持蘇」也蘇^ハ置

木壇上「木壇^ヲ為^メ蘇^ヲ加持^シ」

前^ハ引ヨセテ^ヲク也 此法^{ニハ}

無振鈴「仍前^ハ無鈴^ニ故^ニ

加持^シヨク木壇^ヲ引ヨスル也

天台^{ニハ}有振鈴^一

木壇^ノ上^ニ行法^ヲ始^{ヨリ}乳^ヲヲク也

難^{クハ}尋^ハ後^{ニモ}置^之也 (圖③蘇器の圖)

儀軌云復取牛蘇一兩^{一盛^リ}

貯^ヨ熟銅^ノ器^ノ中^ニ并取有乳^一

樹葉七枚及枝一条置在^ス

壇^ノ辺^ニ花香等物加^{ヘテ}常^ノ

数^ニ倍^{セヨ} 供養之法^{一々ニ}同

前^一供養畢已^テ取前^ノ樹

葉^一重^テ布壇中^ニ復於葉上^ニ

安置蘇器^一還作手印^一

誦陀羅尼^一三遍護持此

十ウ

蘇^一又以樹枝^一攪^{イテ}蘇^一勿

停^ヤムルコト^一其^ノ手^一目觀日月^一兼

亦着蘇^ヲ誦陀羅尼無

限遍數^一已上

儀軌云當於空閑寂靜

之處^一或在淨室塔廟山

頂樹下^一隨^テ在^一處^一安置

其像^一面正向西^一或容向北^一

淨物覆之^一別作^一方^ノ木

曼荼羅^一下至^一一肘^一過此^一

亦佳^シ仕^{セヨ}力^一其壇下安四足^一

或以編^ア附^{ケヨ}上^ヘ面去^{コト}地^一

恰^ハ須^ハ四指^一文

(圖④四足の圖)

四足編附者移壇時

為^ニ不^カ動^一大壇^ニアミ

ツケヨト云事

(圖⑤アミタル木壇の圖)

一義云四足ノ木壇ニ非ス^ハアミ

十一ウ

タル木壇ヲヲケト云事

也

√或師説云金銅器淺広等文

口伝云金銅者アカク子ノ器ニ又

キンヌレルヲ云也

√没日事此日記ニハ除之一

口伝云不可除之一可依次義一

也云

√下座一別蘇ヲ四方一文注知識

者如何口伝云有智行徳

人也師匠外ニ為外護一請之一云

√私云此常喜院次第中ニ

攪^カ蘇一作法、不見一如何

答私披勸修寺次第一云

次左手取念珠一右手取

乳樹木一誦本尊明一右^カ攪^キ

廻^{ラシテ}蘇一兼見蝕^{セル}日月一兼

見蘇一無限遍数一等文

取軌意如是一作次第一歟

十二才

口伝云蘇加持在軌云然而トモ

作法不委一仍披勸修寺

次第一云

√今常喜院次第問云問攪

蘇之間行者見蝕耶若

軌意如何文口伝云無相

違一也二經不成者專意^ヲ

繫日月一心散乱故、今軌見

之者專攪蘇一誦陀羅尼一

少見日月一故也云口伝云

或説ニハ置^テ鏡一移蝕影一見

之一等云

拜明星事

口伝云三十五反明星種子 vanp

字也

√用蘇一服之事一如何口伝云

以乳一喻法食一也問牛^ハ

愚癡也以此乳一祈智恵一

如何口伝云愚癡^ハ似無

十二ウ

十三才

分別(ト)一智(ト)故也私云本煩

惱不可得故、当体法性也

云問当ル月ノ光一義如何

答月破壊ハ、喻煩惱二円

満ハ、喻仏果円満一又当テア

仏果円満ノ光二一転愚癡

病一成醍醐一也又一夜間

却退円満ス喻早速二仏

果ノ円満スルニ一也云

√壇凶無此本一勸修寺本

在之一如護摩壇一

(一)行空白

正応二年十二月比於願行上人

奉受之畢 定仙

(一)行空白

私云本勸修寺醍醐西院

雖受之此上人行此法

事五度也 薰習貴

故付常喜院次第重

奉受之也云

勸修寺在兩本

兩本俱在後四卷鈔中

其中在図本肝要鈔

中在之一概 五色 鳥居等

如護摩壇又其兩本

外在別本在行供壇一

付七葉一在二様一 一ニハ七葉

中ニハ本ト同常喜院一 一ニハ

七葉重之一本 本尊ノ方一

一方二重也

又兩本中一本ハ有振鈴一 如常

又一本ニハ有淨与口伝一

肝要鈔本ノ末ニハ有積上蓮

花事一用莖ノ義也

自余口伝等在之

正応二年十二月十八日記之 定仙

(一)行空白

十四才

十四ウ

中納言法印云広沢^{ニハ}用

常喜院次第

武蔵阿闍梨御房云醍醐^{ニモ}

常^{ニハ}用常喜院次第

故実賢僧正以常喜院

次第為本私注加次第

別在之^云

√尋本師御作次第中納言

法印大貳法印スキノ

谷ノ大輔律師、此三人

辺^ニ無^之

楨上蓮花事

了一上人云故意教上人^ハ

クキノ上ノ蓮花ノ義^ヲ

用御^{シキト云}又云醍醐

辺^{ニハ}ハリカタノ義^ヲ常^ニ

用也尋云承仕等可用耶

了一上人云醍醐辺^{ニハ}如四

度加行^ニ一期^ニ一度^ハ必勤

十五才

行^ニ之^一或五十日或百日也

其^ニ都^一不用承仕^一也

阿性上人弟子^{治部云云}故

上人^ハ求聞持道場^ハ子ス

ミヲ不^ル入^一也^{ト云}又闕^{タル}六

根^一人、貧報人等^ヲ不^入一也

真言^ハ專^{スル}事法^一故如是^一

等コレヲイム也^{ト云}又仏供

等^ヲイヌカラス^ニ不^令食^一^云

又何^{レノ}法^{ニモ}承仕^之外^輒ク

不^入人^一也

願上人云内道場^{ニハ}不^用

承仕^一戸^{ニテハ}少^々ノ事^{ニハ}

召仕也

阿伽水^{ヲハ}チサク取也二桶

取也一桶^ハ為人用一桶^ハ

為^レ仏用也取水時心經

三卷讀^之一又小^キ誦

水神真言ミチニテハ

十五ウ

十六才

誦軍荼利真言一為部障歟

魔也

又云道場外テハツト誦軍陀

利真言也為魔障一也

又乳ヲカク時有ニハ魔障一誦

軍陀利真言一カク也惣シテ

難時ニモ付此法一有魔

障一誦軍陀利真言一也

宝部ニツカサトル法ノ故也云

又云行ニハ此法一輒タヤズク

不令知人一云

(以下空白)

金剛夜叉 烏芻沙摩

正觀音 七星如意輪

不空羼索 白衣

二臂如意輪 耶輸多羅

准胝

仙芥集勸修寺五之内

十六ウ」〔表紙裏〕

(空白)

十七オ」〔本文〕

金剛夜叉法

√卿阿闍梨常物語云此尊ハ

五大尊中ニハ秘法也ト云

√付道場觀一五眼布ヒケリト忿

怒ヲ者五眼イカレリト云事

也私義

√三首ニシテ馬王ノ髮アリ珠寶遍ク

〔表紙〕

⑩【十三函一一一九】

ken a

嚴飾ス可訓

私云三面ニシテヨキ馬ノカミアリ

珠ト諸宝ト遍クカサルト云

事也云

√進力、及禪智、由ナラ如シ笑眼ノ

可訓料簡云如笑眼一者進

力ト禪智トノ端ラ各サシツクル也

禪智ノ間ラモマロニナシニ頭指ノ

間ラモマロニスル也云

√付字輪觀一 hūn 字除

一切惡鬼者此字德也

ya 字不可得諸業者業

字誤歟 乘不可得字也

不可得諸乘ト可注歟

不可得ニシテ而運載サイノ義アリ也

此運載而不可得ナルヘシ

一義云畢竟不可得フ而諸業

アリ此諸業而不可得也

此即運載ノ義也 ya 字ノ德

一才

ナルヘシ云 ksa 字不可得漏尽文

尽不可得字也 不可得ニシテ一切

漏尽也 此義也云

仁齊三卷抄二ハ以 van 字一為

種子一以牙一為三形一此

牙為此尊一四仏四ハラ密云

十六大菩薩各在羯磨輪

中月輪一等文 此二十五輪也

羯磨ノ中ト四方ト各在五大月

輪一此大月輪中各在五少

月輪一五々二十五也 中央ノ van

字ノ四方ニハ在四 on 字一四波

羅密云菩薩也 四仏種子

皆 hūn 字也 十六大菩薩

皆眷屬トシテ各在月輪中一

瑜祇經ノ序品ノ三十七尊ノ中ノ

二十五尊也 八供等ハ輪外在

之一此二十五尊全大日如来ナリト

習之一其秘口伝也

一才

西院二十五輪ノ口伝ニハ羯磨ノ下ニ

在大月輪一此大日ノ三形、

羯磨ハ不空成就ノ三形也、

此八大日ノ初後不二ノ徳ヲ顯ハス

儀式也 此初後不二ノ徳成

此明王ト云 此甚深習也云

石函抄中ニハ諸尊段中觀

二十五輪一供之一炉中觀之一

地体此尊ヲ習大日一甚秘

也 故諸尊段ニモ觀二十五尊一

以牙印一為秘一此尊無シト

過クル之一秘印一但有口伝深

秘々々云私云卿阿闍梨

云牙印ハ此尊吞食スル一切

惡業共共ヲ義ヲ結也ト云

此口伝歟 付此尊一有

種子三形一雅宝口伝云

種子 *hūm* 或 *vaṃ* 三形 鈿大谷

棒大谷平教 牙小野 五古小野

印合二拳屈檀惠進力

禪智立如微笑置口別卷也

雅宝口伝云種子 *hūm* 三羯

磨 種子 *haḥ* 在理趣經三

牙已上秘伝也理趣

又云種 *hūm* 三鈿 本尊

牙菩薩印内縛二頭指

二小指開立テ小鈎秘印也

又云種 *vaṃ* 三牙印内

縛シテ二小二大如牙二頭端

合如眼云以印一拭右ト左ト

肩目カク眉間ミ以印一散頂云

又云種子 *vaṃ* 三摩羯首

印内縛シテ二小指如鈎一二頭

二大如笑眼一端ヲ合也 取

義書カ之一非如本文一

又云此尊ハ序品中金剛

藏菩薩也 以手中摩羯首一

擲虚空一等文 又云此尊

三才

三ウ

具五眼一五部也五仏也云

六卷口伝抄石函抄

種子 *van* 或 *han* 三形牙

摩羯首ハナハタ太古ハ伝也

靈巖伝也 勸修寺ニハ以牙一

為秘一云

√雅宝口伝云 *him* 字反成

五古或鈿々反成金剛夜又云

又云此菩薩成所作智所反

不空成就仏所現金剛

牙菩薩所反像也 想一切仏

法擁護別羯磨部教令

輪降伏鬼魔一故云夜又

意取

√雅宝口伝云口伝小野

不動大威徳付胎蔵行之

降三世金剛夜又金剛界

行之軍荼利付蘇悉地

行之云√又云若欲ハ得仙云

四才

葉ヲ一及ヒ往クト極楽界知足天

王宮ニ一随テ所ロ意ヲモ一便得云

(一行空白)

烏鴛沙摩

髮髻ニ遶クル白蛇一可訓義云

カミノ上ニ蛇メクレリカミハカ

ミニテ其外ニ蛇メクリニ

ワタカマル也学者料簡

√左ノ定執ル縞索一私云左

即定也√左ノ理宝数

珠ナリ定ト者ト对ス下ニ恵一

理ト者ト对ス下ノ智ニ左ノ二手ヲ

名ク定理ト右ノ二手名ク恵

智ト√右ノ恵、執ル三ツ鈿ニヤク√右ノ

智、満願印ナリ恵智右ノ

二手ノ名也三鈿者醍醐

薄双紙ニ三古鈿トイヘリ

雅宝口伝引威儀形色

経一右恵執ニ鈿一鈿字

五才

損歟√以恵方願一屈シテ智

五ウ

力直クシテ加哺(マ)クス此左ノ自小指一

始メテ壇戒忍進禪ト呼也

從右小指恵方願力智ト

呼也付此義一此道場

觀ハ印ラサハクレリ此一樣也

自右小紙一始メテ呼フ壇戒

忍信禪此ハ常ニ行海ノ流ニ用

此一樣今ハ付前様也

智力直加哺者師御義如

前抄一但雅宝口伝引威

儀形色経髮髻邊白地一

已下彼経文也彼云以恵方

願一屈シテ智力直クシテ如角ツノ一

今加哺者字損也私云大

指、頭指、サシ開テ立歟如シ

牛角一云ワタカマリマド蟠ハンケフ絞フ

√左ノ肩ヒタリ両ツノ赤地アリ文今ハ注ノ

異本吉歟

令ム瞻ラ一本尊ノ面ラ一其色青

白ニシテ亦四臂ナリ兩膊ニ有一蛇一

邊之一本経云令瞻本尊

面赤ラ四臂ナリ兩膊ニ有一

蛇一邊之一其色其青白ニシテ

住宝池蓮上ニ一文私云赤ノ

字誤レリ亦ノ字也下モ其

色其青白文上ニ面赤ト所

可云一面字ハ上ヘヨミツクヘキ歟

本経ニ其色其青白文下

其ノ字、甚ノ字也誤歟云

普焰契内ニ刃ヘテ其ノ二羽一

開テ掌一諸度舒ノフト文

私云内縛シテ覆セテ下ニ開ク也合

壇恵成峯一者合テ二小指

端一サシノフルヲ云也微屈ト禪

智ノ節一者私云合テ禪智端ラ一

ツヨク以テ禪智ラ一押シ付クレハ信力ノ

傍ニ屈スルニ節ラ一ナル也マカル

六ウ

故互捻進力側一者云付ルヲ進

力ニ也近甲ヲ一者禪智ノツメ

ノハシヲ指合ヲ云也後四卷

抄引大原記十二云根本

印ニ手内縛シテ開テ掌ヲ一向ヨ

下ニ小ニ二大端シ相柱合セ

甲ヘヨ余ノ六指ハ掌中ニテ互ニ

申テ着ヨ掌ニ一ニ大柱タル端ヲハ

向心ノ前ニ一ニ小ノ端ハ向外ニ一

如古ノ一云私云此記ハ以ニ大ニ一

向テ心前一不付ニ一頭指ニ一也云

東寺天台異ナリ一也云雅宝口

伝云言烏瑟沙摩一者、不

動明王也或言ヲ受觸金云云

即是不淨金剛也又名火

頭金剛一又云穢迹金剛一皆

一名也已上又云產所ニ修此

法一故ハ行テ產所ニ行者ノ口ニ有

七才

塗血一之鬼一為ニ除之一產

所ニ修此法一云秘説ニハ合遲

留一之產生速ニ成就スル也已上

集經九云等文忍濟三

卷抄曰又印以ニ小指一相

鉤掌中一私云交ニ小指

二無名指、二中指、二食指、

直豎テ相搏ヒロケヨニ二大指、

反シテ掌ノ中ノ二小指ノ上ニ一合セヨ腕ヲ

文合腕者ニ手ヲモテアケテ

小キヨスル也忍濟口伝ニハ出漢

字言一梵字無云彼書云

此印言産穢ノトキ用之ニ一

左右ノ頭中名ハ六根也二小ハ

不淨也ニ二大指ヲモテ覆

之ト觀也云直豎相

一博者ニ無名指、二中指

二頭指、アイフアケテ三舌、
コトクスル也私料簡也

七ウ

八才

次第中ニハ^{ツケ}傳^トヨム也ユヒヲ

サシ付ル^ルニ云歟何レモ可爾

歟觀音部^部√死^シ戸^コ□人死

家也√婦人^人ノ産家^{可訓}

正觀音付字輪觀 lo^ロ

三有不可得文石山道場觀

ro 字也三有ノ塵不可得也

今字^{シヤ}sa^{ハシヤ}sa^{ハシヤ}字^ハva^{ハシヤ}字^ハツク也

sa 字^ハ本性寂不可得也

故云自性不可得也

is^ハフ清淨離垢染文

石山道場觀ニ云 is^ハ今

字損^云

七星如意輪

付道場觀左ノ掌、摩尼珠、

惠^ハ舒^テ施願印^ニ雅宝口

伝云七星如意輪法 安祥

寺口如意輪^ハ二臂像、如

熾盛光法説^一七星如北斗

ma da ra 呵利帝母^ハ只

懷^一字^一右手取吉祥

菓^一文^一又云七星如意輪

ma da ra 如意輪像者十

二臂像也如何^云可尋之

七星如意輪法天地和合

法也自天七星下自地

出訶利帝^云

√卿阿闍梨私次第[□]以六臂

如意輪^一行之^一云

私云何^モ不苦^一歟

不空羅索

√付道場觀^一其^ノ山^ノ腰^{象須}

弥山^ノ腰^ニ山顛^ニ九髻^{アリ可訓}

√散念誦同自在王呪者

自在王呪經呪也

不空大集怒王者此觀音人

不動三摩地^一也其呪在余

次第^一

八ウ

九オ

九ウ

√付字輪觀 mo 石山道場

觀云 mu 說自他不可得 ma 字

吾我不可得字也 故云自

他不可得 一 pha 義諦不可

得文 pha 不豎不可得字

不動豎同義也 不動豎

古可通一切 一然而今ハ取

第一義諦不動豎古 一故云

義諦不可得也 不動豎

古ハ有為ノ法ニモ分ニハ可有 一其

時ニモ可用此字 一然而トモ今ハ

第一義諦ノ不動豎古也以

※本生不可得文 石山道

場觀ニモ本生不可得文

此本性寂不可得義也 生

字自古 一誤也

√殊為藤原氏人修 忍濟

一条口伝抄云藤原氏用此

法事 アタラ□山諸草

木葉皆似藤葉云 故藤

葉相類故用之云

三十卷經說云 然者余

觀音皆可用之 何不空ニ

カキルヤ不空羅索ハ蓮

花部悉地之菩薩故用此

尊一也 已上本師御說也

已上彼抄意私云 有人云

興福寺南面堂藤原氏

造之 一故為彼祈 一用此尊

也云 此說可爾 一歟

√安祥寺 a mo gha 羅索

法 四ノ字ノ頭也 糸ノ字ノ

下也

√青頸忍願六度文 忍

願等ノ六度也 一印ス心、及

額、喉、与ノ頂 一可訓

√如意輪

付礼仏 一髻未檢之

十才

十ウ

十一才

√毘俱胝法 殊珠鬘シユシユマン

義云タツ子ノスヲ云鬘ト也

別鬘ニ作ニ非ル也

白衣 下如印者

内縛シテ立風空也カタクカヒニ參差

相押ス右ラ上ニスル也

九曜曆者フミノ名也若本

命、五星ノ中ニ鬪戰ニ失ハクノリ度ラ

可訓本命宮ノ中ニ在日月

時人ニ在リ難一五星本命

宮中ニ在時人ニ在難一此ハ

拳ニ也上ハ所宿ノ本命

宮ラ出ス能宿ハ日月也下ハ

能宿ノ五星ラ出ス所宿ハ本

命宮也以雅宝口伝

料簡ス之一彼云若日月在テ人

本命宮中ニ一及五星、在

本命宮ニ一鬪戰失フ度一

等文彼ニ引ク禳災決ヲ也一

十一ウ

√髮旦上ニ結フ文カミニムスヒ挙ル歟

√天衣タリ為黒ク口色歟

√此真言ハ出タル禳災決ニ一真言云

也又九曜曆真言云

√伴僧復加持共用九曜

曆真言一文出ル九曜曆一

言ト云事也雅宝口伝

云此白衣觀音ハ非白衣

大白衣等或云道行觀

音也又私云白衣大白衣

中ノ非トト大白衣一云事也非ス

白衣一云ニハ非云其故者次

下云大白衣ハ非白衣觀音云

二臂如意輪 無別子細

右掌摩尼珠者私云如ッ地

藏菩薩ノ宝珠ノ手ノ一スクニマヘ

ノヘタル歟ヨコサマニ心サキニ

ソヘタルニハ非歟若爾ハ当ット

心ニ可云一也恵ハ舒ヘテ施願印ナリ

十二ウ

私云如宝生尊印一亦云与

願印一卿阿闍梨云施願者

施無畏印者誤也

√空並ヘテ地交シフ上ノ節ヲ可訓

多羅菩薩

石函引大日經疏云如本

中一有五百多羅尊皆

從觀音眼中生タリ是阿弥陀

姊妹三昧也文

√不同記ニ云〇已開初合文披

不同記一云已開却合文

金法抄引不同記云已開

却合文仍今本初字損

也已ニ開却カス却テ合ト訓私云

已開復ニカヘ□少キツホ

ム也云

耶輸多羅法

√私云与上多羅菩薩一別也

不可乱一

十三才

√注此云名声一別ニ有ル經云

是捷捷婆文

私捷捷婆菩薩ト云事歟

青軌者青龍軌也撰大

軌無畏無畏無畏軌無畏

宮マツ法寺軌法法法全所伝

青龍寺軌玄法寺軌法法全於青龍寺ニ

本也本也今青龍寺軌也

√七集者石山淳祐律師作也

√長ナカキタシケクヨキ也条好好可訓諸尊法ニ点シテ

云長キ条エタモ好ヨキ也モ茂ト云

訓不得意一也云肉スルニハ色ナリ可訓

准胝

西院口伝云此尊真言ニ無シハト平濁

マ句一勸請發願中、無蓮

花言一仍属仏部一已上

√金剛王院ニハ属仏部一√仁海

記六觀音一進御堂開白一

其中有准胝一号天人丈

十四才

夫觀音一以是一為証一属

觀音部一 三寶院口伝

√醍醐雜抄云蘇婆呼童子

經分別諸部品下卷云蓮花

部処云我為利益貧窮

之衆生一説七俱胝曼荼羅、

及真言一等文 私云若是

准胝歟仍是准胝ハ觀

音也ト云証文也蓮花部

内ニ有コト此文一云フ故也云已上

√形像醍醐雜抄云二臂十

臂 十二臂 四十二臂 十八臂

内第五云等口文

√辟除スル一切天魔惡鬼神

等ラ契、私云烏芻沙

摩ノ契一也

先以右手ノ中指、無名指、

小指及大指一握左手ノ中

指以下ノ三指一者私云以右、

十四ウ

中無小三指一握ル左手

中無小ラ以右大指一押ス左ノ

中無小三指甲一

次以左大指一握左ノ中指以下ノ

三指ノ甲ノ上ラ者左ノ中無少ヲ

三指ラカリメテ以左大指一押

中無小三指甲也√兩合

拳一者如是結畢ヌレハ

即合拳也 以二頭指一頭

指着者以左右ノ二頭一サシ

合也 此即烏芻沙摩印也

石函云右大指押ス中指

以下ノ三指ノ甲ノ上一左亦如右一

為合拳一私云此ハ唯

左右ノ手ラ別々ニ作テサシ

並ヘタリ為合拳者左

右ノ手ラサシ合セタルヲ云也

拳字損ス可奉字

√第五手把ニキルヒ微ヒ去濁シヤ若シヤ平濁ホ布ホ平ラ羅ラ平ラ

十五オ

十五ウ

迦キヤ（上）菓ヲ一醜ハシ醜ハシ薄ハシ双紙

如是声ヲサス也

其像ノ周圍ニ光明小焰アリ

白（入濁）螺ヲ為メ釧ト一薄ハシ双紙

訓也第五微若○菓

者裏書云不空軌云俱

綠菓ロク文醜醜雜抄曰

十八臂内第五手ニハ微若

布羅迦文漢ニハ言フ子滿

果ト一無シ此国一有ニ西国一云

三密房云此私栢也画

凶形ハ似ハ苽一也比私云三

密房説不爾一既無此

国一以和漢物一不可配当一

孔雀明王四臂也右第二

手持具綠菓一左第一

手当心一掌ニ持吉祥菓一文

松殿法印云具綠菓モ

也吉祥菓シヤク口也

十六才

觀修寺孔雀經次第第二云

第二手持俱綠菓一狀似木一

記口伝云俱綠菓一長身之體一

カ上ハ淥字也下綠字也

綠字損歟今尊裏

書ニ引不空軌俱淥菓文

綠字可為本一俱イト篇

三水、小異也仍孔雀明

王所菓、即准提所持

菓歟松殿法印ハモト

口伝ス本抛難知一雜抄

漢々子滿果一此国無文

此モ以何一為拋一耶可待

分明証一云孔雀明王画

像壇軌云第二手持俱

綠菓其菓狀似木苽一已上明知

淥字損也有人云准

提種子 bu 字也此字ハ

八葉中台觀音種子

十七才

也仍此尊可觀音部一云

第四手把数珠一文醍醐

薄双紙爾也第九手

把宝蔓一文裏書云

念珠、私云兩手持念珠一

不可爾一

醍醐薄双紙云、第九

把宝鬘一文無シ裏書

仍タノ鬘歟可尋又分明說一

第六手把鉞文薄双紙

云第六把鉞文

本尊印軌云金剛智

私云付此軌有二印

第一印易得意一第二

印向外相刃者外縛ト

云事也裏書云不空

軌云等○私云付此軌一有

二印同ス金剛智軌二印

但付第一印二大指側附ク

十七ウ

二頭指ノ根ノ下二可訓歟

側字ハホトリト訓也此訓ニテハ

此字剩サヘセリ仍私ニソハメ付ト訓

也側字ヲソハムト訓歟ト存

シテ如是訓可尋字書一

石函云根本印二地二水

交テ入掌二屈二風一着火ノ背二

二空着ク風側ニ文不標セ

何レ軌ト一印ノ說キ文ハ似不

空軌一真言漢字ハ似金

剛智軌一然而トモ此印ノ說キ

文ハ二空着風側一文以テ

此文一裏書ノ文ヲ得ル意一

二大指ノ下ノ側字不審也云

石山道場觀ニハ如石函文

字輪觀

言漢字ハ似金剛智軌然而トモ

此印ノ說キ文ニ二空着風

側一文以テ此文一裏書ノ文ヲ得ルニ

十八才

十八ウ

意一二大指ノ下ノ側字不

審也云石山道場觀二八如

石函文 字輪觀三無等

無文見文有人云文見字覺

也 石山道場觀云無等

無見文私云等字一アリ

下ノ等ノ字注二無ノ字也下ノ見

字損歟可覺字一分明難決一

無取無捨文

石山道場觀云無取無捨文

捨字見字也 而注二作誓

字一分明難決一本尊印

軌云金剛智准提仏母一〇

根本契其契相以二手

向外相刃文向外者外

縛也云

(以下空白)

(裏表紙無し)

⑪【十三函一—二〇】

〔表紙〕

四巻抄

勸修寺

後七日記 付此筆者

宝慶記之

十九才

仙芥集

〔表紙裏〕

(空白)

〔本文〕

後七日私抄付法務御房初度
記抄之

注藏人ノ次官、五位ノ藏人

三人、被ル量ラカ一是ラ名職

事ト一藏人ハ職、次官ハ

十九ウ

官也 次官者勘解カケ

由ユノ次官也 勘修寺等ノ

家ノ人々ノ一番ニナルツカサ也

对シテ勘解由ユノ長官ニ云

次官ト也

位者六位 五位 四位 三位

二位 従一位等也

官者中将 小将 大納言

中納言等也

職者職事 藏人 大将也

位者坐セキ也 如僧受戒一

次第ニノホル也

官者其ノ上ニ名ヲヨハルク也

位ハスヘテノカスノホル許

也 官ハ次第ニ辞スル也

先官ニテ住也 前官

者先ノ宰相、前ノ大納

言等トヨフ也

職者檢非違使別当

非違ノ別当也 如シ僧中ノ処々ノ別当一

無官一時ハ二位殿等トヨフ也

四位ハ殿上人也 三位ヨリ公卿也

三位マテハ宰相ノカケツカサ也

カケツカサト者其位ニ
アタレル官ヲ云也

二位マテハ 中納言 大納言

乃至大臣マテナル也

従一位ハ大臣ノ兼官也

官ヲ二兼ヌルヲハ云兼官ト也

也 譬ハ東宮ノ丈夫等也

大納言中納言ナル也

已上了上人談也

俗官途別記之

二位 正二位ニテ 大納言 中納

言ナルモアリ 従二位ニテ

大納言 中納言ナルモアリ

中納言 正二位ナレハ

大納言ハ皆正二位也

中納言ノカミナル故也

一才

一ウ

二才

物ニ書ニハ一權律師法橋

上人位ト書ケ也

成ヌレハ法橋ニ云法橋上人位ト一也成ナリ

法眼一ヌレハ云法眼和尚位ト一成リ

法印一ヌレハ云大和上位一成リ

僧都一ヌレハ云法眼和尚位一

成リ僧正ニ一成ヌレハ云法印大

和尚位ト一也説法ノ時僧号、

施主ナルニハ護持大法主、僧正

法印大和尚位ト云也若僧

都ナレハ云權大僧都法眼和

尚位ト一若ハ云權小僧都

法眼和尚位ト一也

已上雖非ニ当用一為存知一記之

承保元年等文カミニツツキ

テカクヘシヒキヘタツル不ト存知一云

√触申大僧正一者誰僧正ノ耶、

了上人云定海也時ノ一長者ニ

四才

長者ノ被ルグ行ニ後七日一時ハ一ノ

長者ヘ申也

√宗明道文祈主ニハ此ノ字ヲハ

アキラトヨム也タリノ人ニハア

キトヨム也

√慶賀事、ヨロコビ也

√可シ令ム運ハ真言院ニ一者文

者字ヤスメ字也

√又以二郎丸一文大童子也中

童子ヨリ下也中童ノ年

√亭亭者イエ也

√西ノ対(平)タイノ屋也西ノ対

東ノ対等ノ所也

√左府ノ已講文左大臣ノ已講也

√饌スト者モノクウ義也

√騎馬ノ童二人文上童也児也

√尾従トモノ義也

√注聞山階興福寺也一門ノ

五才

人歟一門ノ人ハ雖他流トモスル也

√眩^テ昏^{コソ}ニ脱^ニ黄^ノ字^一歟

√仕人等^文人ノ字ハ打ノ字ナルヘキ

歟仕(平濁)打(平)也歩ノヤウ

ナル物也アカキ物キタル物也

√注後ニ移ス鈴杵ノ前^{サキ}ニ一子

細在下^文鈴杵ノ前^{サキ}者鈴杵ノ

キワヲサキト云也鈴杵ヲ仏ノ

方ヘムカヘテサキト云也

√花安、花瓶、次ニ並フ輪^ニ文

了上人云文字脱歟損歟

難得意^云私云花ヲ安^{シテ}花

瓶^ニ次^ニ並^フ輪^ニ一^{可訓}花瓶者

中瓶也中瓶ヲ並^{ヘテ}輪^ニ置

也花ハ仏ノカタ也輪ハ行者ノカタ也^云

√前々道ノ僧綱者南都ニハ勤^{タル}ヲハ

三会ノ講師ニ云フ道ノ僧綱ト

不^ルヲハ^ヘ經^ニ非道ノ僧綱ト云也

√注譜代者重代ト云事也

譜代奉出ト物ニ事也

√仏供器十六坏文似^{タリ}ヲ普通ノ

打鳴^ニ一唯深^キ打鳴シ也在十

六一座^モ安座^{セス}カタフイタル物也

√可^キ複旧^ニ一也^文大ニモル也

√各供金銅闕伽器^ニ一^文常ノア

力器也但極^テ大ナル也

√所持^テ来^一也故成就院ノ造也

√下知^{シテ}諸国^ニ一俗ノ行事也

√其名ヲ曰膳^{カシハテ}一カシハテ(平濁)ト云也

ヲトコ也夫(平濁)ヲカシハテト云也

√聖天壇仏供ハ東寺ノカネ

ツキカ役也

√小行事奉^ル供^シ一^文奉供一者

ソレカサハクリト云事也

√所課^ト者所役ト云也

√濟物也運上ノ物也

√左右京職左京ノ丈夫右京ノ

丈夫也

六才

六ウ

√令^ム宛^テ徭^{エウ}役^ニ一^文徭^ハウコキ

ツカハルノ義也

√注供所者供具イトナム処也

√政所者阿蘭梨ノ居処也

√参^{サシ}仕^シマイリテツカワルノ義也

√看^{カト}督^トノ長^ヲ付^{タル} 別^ニ当^ニ物也

赤物キタリ檢非違使ノ共^ニ

アリ冠^ニ赤^キ狩衣^ヲキテ弓

箭モツ也又檢非違使ノ

別^ニ当^ニ火^ト長^ト云物ツカハル立^{タテ}

焉^エ帽^シ子^ニウ^ス赤^キ狩衣^ヲキテ

弓箭モテリ又放^ハへ(平濁)ント云

モノアリタテエホシニカリキヌ

ヲキテサイノホコヲモツ也

已上三人檢非違使ノ別^ニ当^ニ從^ニ也

√候^{コウ}ス^テ兩^ニ門^ニ一^候者御義也

人居相^{サカ}僻^テ者、相^ヒトヲキ義也

√酒^イ盃^イタ^ノサケノ義也

√仕人等^文ノ字^ハ可^ハ打^シ字^一

仕^シ打^{チヤウ}也 書誤歟

√灌^タ口^{キク}ハ^サフ^ラヒ也

√又^ハ給^ハ盃^ハ酌^ヲ一^サケノ義也

盃^ハサカツキノ義也酌^ハクムトヨム也

√注^ハ白^キ馬^者七^ノ日^内裏^ニ白^キ馬^ヲ

引^ク事^{アリ}ト云

√着^ス壇^ノ前^ノ座^ニ一^文壇^ノ前^ヘニ

タ^ノミ^ヲ一^条ヨコサマニシイテ

ヲケリ其^ニ坐^スル也

√舍^リ利^守行^舍利^二瓶^文

行^字可^持字^一

√注^ハ入^ル錦^ノ袋^一条^ニ一^二瓶^ヲ入^ルル

袋^一ニ^一也

並^ヒ居^テ箱^一持^之一^文雖^入袋^ニ有

二^瓶一^故ニ^云並^ト一^也

居^箱持^之一^者、居^箱ニ^袈

袈^ヲヲ^シノ^ケテ^置ク^一也

√注^ハ非^ス所^ニ一^分明^ニ無^キ安^所一^歟

√五^段文^五筋^ニア^タル^段字^損歟

七才

七ウ

√醍醐僧正者、只入居宮一安

之一文 故定濟ハ如前說一每

時一持シテ返也

√仍移テ塔ラ於鈴杵之前ニ安

舍利ラ文 前者鈴ノキワ也

√每度サ鑊ス之ラ一音ハサハ訓ニハサスト

ヨム也

√後供養護摩了後護摩師

着座スルハヤカ□□二字ノ金ヲ

被ル打一也又後摩師ノ返ルニハ

ヒクワウノ音ノキコウル也

√三百反許歟文アマリ多シ

當時ハ百反許也

√臨末ニ滓スル念珠一

注作印一者結印一也

√天曙テ修之文 大旨當時ハ

ヨアケテ修之也

√増カサ氷珠ヲ一コヨリハケシキ也

√執柄ハ時ノ天下、大殿ハコニ

八才

ユツリテスリノイテヲハトノ

トイワルハ也

√被ル賀カ仰シ仰セ一カハ平濁シヲハセラルト

イハ悦ヒ仰ラル也

√慶賀ノ事、宗トモ燭ヒナリ行句

落タリ此許ニシテ不ス可当也

√盃雀ハシヤク雀ノ字アテ字ニカク

可酌字一酌ハサケヲクム義也

√注景陵 此字不審

√精悽セイヤク々々リ可情字一悽々ハ

スサマシキ義也情ココロスサマシ

キ義也

√道ノ便リニ字損歟遣ツカフ使ヒラ

可シ此字一

√遣ツカフ存問ノ使ヒラ一可訓 トウタル

使ヲハ云フ存問ト也

√右將軍 右大將也

√被ル慰キ問フン一平濁セ參仕シス会堂ニ文

々々者御濟会ノ官ノ庁ノ

九才

道場也

√仁栄晴湛^{セイタン}セイトンハ人ノ名也^{ト云}

私^シセイ義^ギ可^カ尋^{ジン}

√注聴衆者問者也講師ハ

一人也問者ハ其数アル也

√為^{タリ}威儀僧^{イイ}大阿闍梨^{ダイアツリ}ト

モヲスルヲ云也助紀道^シ一也

非^ヒス常^{ジョウ}威儀僧^{イイ}

√道^{ミチ}僧侶^{ソウリョ}為^{タリ}タル長者^{チョウシャ}一事^ニ

道僧侶者^{ミチソウリョ}経^{キョウ}ル三^{サン}会^{カイ}講^{コウ}匠^{シヤウ}

人也^ニ不^ズルヲハ^ハ経^{キョウ}非^ヒ道^{ミチ}僧侶^{ソウリョ}ト

云也^ニ為^{タリ}長者^{チョウシャ}一事^ニ者^ニ一ノ長^{チヤウ}

者也^ニ後^{ノチ}七日^{ニチ}阿闍梨^{アツリ}ニシテ勤^{チン}ム

御齋会^{ミソウカイ}一ノ問^ト殊勝^{ジュショウ}ノ事也

√愚人^{イダシ}者^ニ卑^ヒ下^カノ言^{コト}也

延^{ノボ}徹^{トク}尊^{ソウ}師^シノ御^ミ弟^{テイ}子^シ也

醍醐^{チゴ}第六代^{ダイ}ノ座^ザ主^{シュ}也

定^{テイ}昭^{ショウ}醍醐^{チゴ}法師^{ホウシ}也

自^ジ謙^{ケン}ノ句^{コト}、卑^ヒ下^カノ句^{コト}也

√天延^{テンエン}之^ノ古跡^{コセキ}者^ニ天延年中^{テンエンニヤウ}ノ事也

√永治^{エイジ}ノ祈恩^{キイン}者^ニ其^ノ年也

√梅林^{メイリン}者^ニ梅^{ウメ}巨^{キョウ}林^{リン}ト云事也

讚^{サン}諸^{シュ}僧^{ソウ}一也

蘿^ラ洞^{トウ}枯^コ株^{シュ}者^ニ我^ガ身^ミ也^ニ卑^ヒ

下^カノ句^{コト}也^ニ我^ガ身^ミヲ^ラク^ヒセ^ニ

√曩^{ノウ}昔^{セキ}ノ御^ミ修^{シュ}法^{ホウ}ムカシト云事也

√可^カ尋^{キン}近^{キン}例^{レイ}一也^ニ文^{モン}時^ジ爾^ニ也

√近代^{キンダイ}所^ニ宛^ニ一微^ミ少^{ショウ}ナリノ行^{コウ}事^ニ、

内^{ウチ}々^ニ犯^ハ用^{ヨウ}スル^ル欺^キ行^{コウ}事^ニ者^ニ

官^{カン}仕^シ也^ニ諸^{シュ}丈^{チヤウ}夫^フアリ^ニチトサカル也

√各^{カク}ノ許^{キョ}容^{ヨウ}云^{クニ}伴^{ベン}僧^{ソウ}面^{メン}々^{ツツ}ニ説^{セツ}也

√成^{セイ}ス誤^ゴ語^ゴヲ一誤^ゴ字^ジ話^ワ字^ジ欺^キ

√遊^{ユウ}僧^{ソウ}サルカウ也

√逸^{イツ}興^{ケウ}之^ノ人^ニナリ^ニアソ^ソヒコ^コノミ^ミノ人^ニ也

了^{リョウ}上人^{ジョウジン}云^{クニ}真^{シン}言^{ゴン}院^{イン}、大^{ダイ}凡^{ボン}、互^ニ

ヒルハヨリアヒテ日^{ニチ}中^{チュウ}ニハ

キチ^{キチ}チャウ^{チャウ}打^{ウチ}也

√伴^{ベン}僧^{ソウ}昵^{ニツ}近^{キン}弟^{テイ}子^シ者^ニ近^{キン}習^{シツ}

十^{ジュウ}才^{サイ}

十^{ジュウ}ウ

奉公人也

√注小安殿不スト存知一云

√送布施一講師ノサタニテ

送布施一云

√不似未代ノ作法一未代ハ布

施ラ貪シテヲクラサル也

√着ス束帯一法服也

√付属御袈裟ケンタ穀子

√着用トヨムヘシ文（平瀧）ヨミ也

√諷諫サトシイサムル義也

√注但大僧正定海也当時ハ

大旨シ初度許着也

定済云東寺法師ノ一期ノ

本意、一度着大師ノ御袈裟ラ

一期ノ思出也一ト可着之

√定持セシメテ尊海君ニ一定字令字歟

√佇立チヨスル之間タタスム義也

√権大納言イイトウ伊通也

√里第リテイサト内裏也

√草敦者サウトン了上人云〇（タカサ）一尺四五

寸許ハサ広一尺四五寸許ニシテ

マロシ井中ノモノ〃蕎麦ノワラ

ニテツクラト云モノノユウテ

キルソアヤウ也クサニテユウ

テマロシカラシ許ニハ皮ラキセ

タリニツ論匠ノ前ヘニツツヲケリ

五獅子ノ如意ラカンカ為メ也先ツ

初メ答者ノ前ヘニヲク後ニ次ノ

答者ノ前ヘニヲク互ニ成問答ラ

故也

√覺挙興福寺別当也

√注宗輔ソウフ伊通高野ノ

相觀房ノ祖父也宗輔ノ

子息大政オウシヤウ法印ノ子也

√注成通セイトウマリ足也

√公教キョウ了上人ノヒヲハチ也

三条ノ内大臣也閑院也

√公行キョウキ同閑院也

十一才

十一ウ

三条ハ閑院ノ嫡男也西恩^(マ)

寺ハ次男也徳大寺ハ三男也

√法印覚拳番^{ツカイ}ト者番^ラサタ

スル人ト云事也興福寺別当、

自^ラヨミアクル也

成暁已講問 禅智已講問

問者二人也 一人ツク出^テ並^ヒテ

講師^ニ坐^シテ残問者^ラ一也第一ノ

番ハ講師ハ答許也返^テ不成

問者^ト一也二番已下ハ互^ニ

チカヘテ勤問者講師^ラ一也

雖有職僧綱^{シキ}ソレヲハヨマス

唯俊宗大法師答、玄

嚴大法師問^トヨム也一々^ニ

別々^ニヨム也一度^ニヨミアクル事

ハセヌ也

√注湯飯、カユツケ也恒例ノ

コワイコシウ也無汁^一無酒^一

√懸盤了上人云ツクヘ也ホソ

十二才

ナカニシテ足四アルツクヘ也

其^ニ飯^ラヲク也飯^ハ高モリ

テヲヒヲスル也スヘタレハミ

アクル也クウコトモセヌ也

√従料^レ従者ノ料也

√賦竿書誤歟字不審也

√民部卿寛信ノ親類歟

√膳^{カシハテヲトコハ}男者後七日ノ下部也

官人也

√三^{サン}(去) 岐^{ホツ}(入) 杖^{チヤウ}(平) ミツアシニユウテ

此ニヲイテ進^スヘイシノ台ノ

ヤウナル者也

√奉^ル謁^{ユツ}対面ノ義也

正応五年四月二十二日奉対

了上人^一記之^一也

定仙満六十

御済会并内裏ノ十四日ノ夜ノ

論匠事

先講^{シテ}經論^ニ次^ニ問者トモアマ

十三才

十二才

夕申テ至^ラハ問^ニ云講^ト一也 不^{シテ}

講經^一問者、答者ノタメニエン

サ(平濁)ヲヲキテ問者答者、出

テ^ク坐^{シテ}其上^一成^ラハ問答^ニ云

論匠^ト一也 内裏ノ十四日ノ夜、

作法^ハ論匠ノ儀式也 加持

香水ノ後也 從真言院^一イ

ヌノ初^メニ出立參也 興福寺ノ

別当^モ參^{スル}也 方々ノ僧等、參^ス

仍亥ノ時^ニハ衆會、子ノ時^ニ香

水加持ハシマル 其後論議也

諸方^{ヨリ}ノ見聞ノ大衆、雖夜^一

參内裏^ハ一也 是^ハ皆可勤^一

論匠^{一人}也 其外ノタ^ク人^ハイ

タウ不見^一歟 曉了^ル也

御齊會^ニハ講師^{一人}也 七日間

唯一人也 朝座^ニ論議^ニ一夕

座^ニ三、七日^ニハ、四七二十八ノ論

議也 唯一人^{シテ}答^之一先講

十三ウ

最勝王經^一也 問者^ハアマタ

アル也 内裏^リニ參^{シテ}ハ御齊

會ノ講師^ハ一番ノ答者也

問者^ヲハ不勤^一也 第二番ノ

ツカイヨリハ御齊會ノ問者

トモ互^ニ成問答^一也

近代^ハ御齊會ノ講師^ハ唯

東大寺興福寺許、勤^之一

山三井寺^ハ不勤^之一唯問

者許也 東寺^ハ東大寺ノ

末寺タル故^ニ爾也 但古^ハ

山僧^モ勤^之一

奈良^ニハ云^ニ云^ニ講匠^一也

先維摩會、次藥師寺

最勝會、次御齊會也

山^ニハ云^ニ云^ト一法勝寺ノ大乘

會、エイ山ノ六月會也、

御齊會ノ講師^ヲハ不勤^之一

東寺^ハ東大寺ノ末寺也

十四オ

故講師ヲハ唯ナラニ勤之

十四ウ

古ハ不爾一内裏ノ論匠

御齊会ノ結願ノ由歟

最勝王講申ハ五月ニ在之

其ニハ証義者在之御齊

会ニハ無証義一也官ノ庁ニテモ

内裏ニテモ無証義一也

同二十四日以了上人説記之了

定仙御判

(以下空白)

十五才

『仙芥集』翻刻④